

丸云、此註書アヤマリ歟

又只ノサヒト云詞モアリ

丸云、只ノ字如何、モシ大ノ字ノ書誤歟

オホノサヒヲ「サ」ノ字ヲ略タル歟。オホノサハ、大ヌサト同詞ナリ

大ヌサノヒクテアマタニナリヌレバタエヌモノカラウレシゲモナシ

是ハ秋ノ大ヌサニソヘテ、オホヌサト云詞ヲ思ヘル也、或書ニ云、オホノビニトハ、ユタカニシヅカナリト云也

丸云、ハシキヤシノ哥ノオホノビハ大ナル日ナルベシ、日光ノ如月ノテリタル也、註ニアル「オホノサヒ」ト云コト未知、オホノサハ「ヌサ」ナルベシ、オホノビノ事トハ各別ノ事也、爰ニ引ベキコトニアラズ

一 大空ニ我袖ヒツ

大ゾラニ我袖ヒツトアラナクニカナシク露ノ命ヲクラン

朝露ニモノスソヒチツ(○ツチカ)夕露ニ衣テヌレテ云ミ

朝露ニモノスソヒチツ(○ツチカ)夕露ニ衣テヌレテ云ミ

丸云、右ノ註ドモ尤相叶ヘリ、我袖ノ人ニカハリテ露ケキハ、イカナル事ゾ、水ナキ空ニテ、ヒタシタルト云義モナキニト云義也、又天日ニモ我泪ハ千ツ、ト云事ハナク、イツモヌル、ヲ、別テ露ノヲクト云義モアリ、但ヒタスノ義モステガタシ、「ヒタス」ト「ホス」トノ兩義ヲカケテ、ヨミタルニヤ、可レ隨ニ好所

一 オホアラキノ時

皇ノ御コトカシコミ大荒城ノ時ニハアラネド雲隠マズ

万葉第三、神龜六年己左大臣長屋王賜死之後、倉橋部女王ノ作哥也、名所ニ大アラキノ森ト云コトアリ、此歌ハ詞ニ長屋王賜死トアリ

丸案ニ、アラカキニ同ジ、大アラカキノ下略歟、葬禮場又ハ墓所ナトニ、新キ垣ヲスル也、又カラニハ、人ノ死タル家ニハ、カリモカリヲユフト也、三日死人ヲ不レ出不レ諱ハ、モシ蘇生スルコトモヤト云義ナルベシ、是モ道ナリ、日本ニハ、サヤウノ道ナシ、額死ナドヲバ、カリモカリヲ先ユフベキコトナリ、カミカ殲ト書ナリ、此儀ニテモアルベシ、イカサマ「大アラキ」ト云詞ハ哀傷ノ詞ナリ、森モ昔葬禮ナドアリテ、大荒垣ヲユヒタルニオホへ歟、木ノ字ヲバカ、ズシテ城ノ字ヲ書ナリ、墓ハ塚城ト書テ、オクツカトモ、オキツキトモヨメリ、奥梯トモカケリ、サレバ大アラキハ、オホ大ニアラキツカトモ云ツベシ、大アラキノ時ハ死スル事ヲ云コト掲焉也、又ヨミヤウノ口傳、カンナニハ「オホアラキ」ト書トモ「オホ」トヒカズシテ「オアラギ」トヨム也

歌林權微第十四畢

歌林樸楸 第十五

【ク】

一クシノカミ 日本紀 神功皇后 十三年二月朔甲子、武内ニ命ジテ、太子ニ角鹿^{ツルカ}、大神ヲ命^{シム}レ拜^セ、
 葵酉、太子角鹿ヨリ至リマス、是日皇大^{オホキミ}后太子ニ於大殿宴シ給フ、舉^{トテ}觸^レテ太子ニ^ニシ給フ、歌テ曰
 コノミキハ(此酒) ワガミキナラス(非我酒) クシノカミ(奇神也、私記曰、奇異之義也) トコ世ニイ
 マス(坐常也) イハタ、ス(石立也、私記曰、言如石之立) スクナミカミノ(私記曰、少彥神是造酒神
 也、今有^ニ其遺迹云々) トヨホキ(豐祝々也) モトメ【○[○][○]】(求) カムホキ(神祝) ホキクルホ
 シ(祝來欲) マツリコシ(祀來) ミキゾ(酒) 阿佐彌(合ナリ、私記曰、師説、阿布佐須) 鳩齊(私記曰、
 師説、欲(○[○]飲カ^レ也) 佐々(謂^レ樂也、万葉ニ、神樂トカキテ佐々樂浪トヨム)
 丸云、阿佐彌鳩齊佐々、イヅレノ本ニモ点セズ、愚案アサズハ、アフラサズ歟、鳩齊ハ註ニ欲也トアレバ此酒
 ト云モノハ、過ヌヤウニシテホシキモノ也ト云義歟、サハハ、樂ヲ云トアレバ、神代カラタノシキコトヲバ
 「サ、」ト云トミエタリ、御哥ノ意ハ、蓬萊ノ酒ヲス、メテ、太子ノ上壽ヲコトブキタマフ也、武内宿禰爲^ニ太
 子^ノ答^レ歌^之曰^ク
 コノミキヲ カミケンヒトハ(醜人也、上古作^レ酒曰^レ醜) ソノツ、ミ(其鼓也) ウスニタテ、(立白也、私

記曰、古時曰邊立^レ鼓、以^ニ其鳴聲^ニ助^ニ軒哥^ニ也) ウタヒツ、(歌也) カミケメカモ(醜也) コノミキノ
 (此酒也) アヤニ(褒美詞也) ウタ(轉也) タノシキサ(樂也、古事記、脛怒斯佐佐)

古事記曰、此者酒樂之歌也、
 凡御歌意者、褒^ニ樂彼酒^ニ也

一クハシメ

七年九月^{天皇}大兄皇子^{マカヒノミコ}親^ミ聘^ニ春日^ノ皇女^ノ、於是月^ノ夜清談^{不^レ覺天曉}、斐然^之藻、急^{形^ニ於言^ニ乃口唱曰}
 ヤシマダニ(日本物名也) ツマ、ギカネテ(妻食加爾也、離^レ竟、丸云、マキカネハマウケカネ歟) ハル
 ヒノ(春日也) カスガノクニニ(春日國也、言^ニ大和國^ニ也) クハシメヲ(妙女也、私記曰、師説、妙女ナ
 リ、丸云、委キ女ナルベシ、万ヅタラヒタル義歟) アリトキ、テ(在聽也) ヨロシメヲ(宜女也) アリ
 トキ、テ(在聽也) マキサク(披割也、私記曰、樽乃板戸之發語也、言^ニ貞木乎佐介利) ヒノイタトヲ(楡
 板戸也) ヲシヒラキ(押開也) ワレイリマシ(吾入坐也) アト、リ(跡取也) ツマトリシテ(妻取也)
 マクラトリ(枕取也) ツマトリシテ(妻取也、丸云、衣裝ノ爪^ヲ取也) イモガテヲ(妹手也) ワレニマカ
 シメ(令^レ觸^レ吾也) ワガテヲバ(吾手也) イモニマカシメ(言^ニ互入手枕也)

【○此所脱落】

一途ニヤフランハイハレズ。古語拾遺ニ豐旗雲^ニ海ノ雲ノ古語也、瑞應圖云、豐旗雲者瑞雲也、帝德ノ至時出

現也、雲ノ勢ハ似テ廣也云々、又源重之コロシタル蜘蛛ノ、ケザマニ伏タルニ、風ノ吹ケレバ、生タルヤウニハ
タラケルヲミテ

サ、ガニノ蜘蛛ノハタテノサハダカナ風コソクモノ命ナリケレ
コレハ各別ノ事也

一クレハトリ クレハクレシ
アナハトリ

クレハトリアヤニ懸シクアリシカバニ村山モコエズナリニキ

後撰ニ、在原諸賢、勅使ニテ東へ下ルトキ、女ニイヒ契テ出立、後ニ召カヘサレ、京へノボル、女悦テトヒニ
ツカハスニ、クレハトリト云アヤヲ、一ムラツ、ミテツカハストテ、ヨメリトイヘリ、クレハトリ綾ノ名也、
又吳王ノ(○)アタヘタル(○)四人ノ工女ト云ハ、兄媛・弟媛・吳織・穴織也、二村ハ尾州ニアリ、端モ尺モ
「ムラ」トヨメリ、又童蒙抄云、公望作賦、應神天皇三十七年春二月朔遣阿知使主都加使主於吳(今)求(今)工
女、爰阿知使主等渡高麗國欲逢于吳、則至高麗更不知道路、乞知道者於高麗王乃副久礼波・
久礼志二人爲導者、由是得通吳、々王於是與工女婿女兄媛・弟媛・吳織・穴織四人云々委見日本
紀此工女ヲバ「ヌヒメ」トヨメレド、只モノヲヌフニハアラズ、女ダクミニテ、キヌアヤヲオル也
ナドテカクツレナカルランアナハトリアナアヤニクノ君ガコ、ロヤ
ヨヲコメテ春ハキニケリ朝日ヤマクレハクレシノシルベナケレバ

又クレハトリト稱ヲ云、古歌ニ

クレハトリワレヲナ、メニタノメツ、サヤカニ君ハ我ヲハカルナ

權衡ト云テ「カラバカリ」トヨム、斤ヲモシトヨム

一クメチノ橋

埋木ハ中ムシバムト云ナレバ久米路ノハシハコ、ロシテユケ

能因歌枕ニ、信濃ニ在トテ此哥ヲ出セリ、神樂謂云

カツラギヘワタルクメチノツギハシノコ、ロモシラズイサカヘリナン

又岩橋トモヨメリ

一クス人

クスヒトノワカナツムラン司馬ノ野ノシバシバ君ヲ思フコノゴロ

帝王系圖云、應神天皇十九^甲十月、吉野國櫻奉^乙天皇^丙歌之詠^丁打口作^戊咲^己。万葉抄云、吉野ノ奥ニクス人ト
云、エビスノ公ニモシラ奉ラデカテアケルヲ、神功皇后又清見原ナドノオハシマシケルニ、ミツケラ
レマイラセテ鮎ト云魚や、又若葉ナドヲマイラセタリケルニ、ソレヲ召タリケルヲミテ、悦テ口ヲタ、キテ笛
ヲ吹ケリ、サレバ若菜ツムトハ云ナリ、今モ節會ニ必參テ、ワカナヲ參スル也、顯昭云、神功皇后并清見原ハ
僻事也、應神天皇也

丸云、神功皇后ト應神ハ同時ナレバサモアリヌベシ、清見原ハ遙ニ後ナレバ如何ト思ハルレドモ、ソレモ應神ヨリウチ絶テ、マイラヌコトモアルベキヲ、天武彼山ニオハセシカバ、又其時ヨリマイリナレタルベシ

一ク、ツ

シホカレノミツノアマメノ久具津モテ玉モカルランイザユキテミン

ワラニテ袋ノヤウニアミタルモノナリ。童蒙ニ、カタミヲ云トアリ、僻事ナリ、シホガレハ塩ノヒタル義歟、アマメハ海人女也

一クシロ

ワキモコハクシロニアラナン左手ノワガ奥ノ手ニマキテコマシヲ

顯昭云、クシロハ氣ト書、内典ニハ在指上ニ名レ録ユヒマキ、在臂上ニ名レ氣ヒチマキトイヘリ、シカラバ手ノタビニアランヲバタマキト云ベシ、又氣ヲバカナヤキトモヨメリ、和名ニハ農耕具ニ入タリ、部類万葉ニハ櫛ノ歌ニ入タリ、六帖ニモ同、コレラハクシロヲシラズシテ偏ニ櫛ト存歟、

丸云、タマキハ手ニ巻ト云ヨリ付タル名ナレバ、ヒデニ入タルカネ歟、クシロハ櫛代歟、カシラノカユキ時カクベキ用ニ、ユビニハメタルカネナリ、サレバ金篇ニ爪ト書リ、イヅレモ女ノ手ノカザリニコシラヘタルモノ也、カネニテコシラヘタル輪ナレバ、指・臂ニ入ルヲ巻ト云ナルベシ、ワガ奥ノ手ト云ハ、男ノ小指ナルベシ、大指ヲ端ニシテ、小指ヲ奥ニシタルナリ、左ト云ハ人ニミセジノ心歟、左手ハ用ニナキモノナレバ、袖ニ引コ

ミテモ在モノ也、又右ヨリアカリタレバ、女ヲ賞讃シテモ左ト云歟、又女ノヤウニ右ニハ巻ニクキユヘ歟、

又男ハ惣別左ニアツル也、陽ナリ、女ハ右ニアツル陰ナリ、サレバ男ナレバカヤウニ云歟、農具ニモ用ニ立事アルベシ、部類万葉・六帖ノミタテモアシカラズ侍リ

一クモトリノアヤ

雲鳥ノアヤノイナウシ(○モ)オモホヘズ君ヲアヒミテサダノヘヌレバ

顯昭云、雲鳥ノアヤトハ、雲鶴ノ文ノ綾也、「ト」ト「ツ」ト「ル」ト「リ」同音也。百詠註云、有ニ雲鶴綾也云々。

此歌ハ大和物語ニ、クモトリノ文ヲヤ染ベキ、トアル返事ニヨメリ

丸云、尤鶴ナルベケレド、雲鶴トハツマケワルキニヨリ、トリトヨメル歟、五音ノ事マデハアマリニヤ、殊更物語ノ詞、必鶴トミエズ、何ニテモ雲ト鳥トノ文ヲコノメト云シ返事ナレバ、只雲鳥トヨミタルナルベシ、其故ハ惣別ノ綾ノ鳥種スアリ、鶴ニ不レ限歟

歌林樸楸 第十六

【ヤ】

一八雲立

夜句茂多免 伊勢毛夜朝飯飯 兎營語味余 夜朝飯飯菟營俱備 贈酒夜朝飯飯廻

日本紀、神代上云、素戔嗚尊。伊勢モノ國飯ノ川上ニアマクダリマス時ニ、人ノナク歸アリ、翁ト老婆ト中ニ少女ヲ、ク、何モノゾト問給、對曰、ヤツガレハ是國神也、脚摩乳・手摩乳・稻・姫ト申、ワレラガコ入人アリシヲ、毎年八岐大蛇ニノマル、今此ヲトメノガルベキヤウナキユヘニナク、尊ノ曰、ワレニ得サセヨトテ、稻田姫ヲ立化奇湯津瓜樞トナシテ御髮ニサシ給フ、八關ノ酒ヲ醸シ、八間ヲ作り、各一ノ槽ヲ置、時ニ頭尾各八岐アリ、目ハ赤、酸如クナル大蛇ノ、背ノ上ニ松栢生タルガ八丘八谷ヲハヒワタリ來、此酒ヲノミ酔テネブルヲ、尊十握ニテキル、尾ニ到テ双少カケヌ、故ニソノ尾ヲサキテミ給フニ、一ノ双アリ、是草薙双也、然後ニ出雲之清地ニ到テ曰、吾心清々シトテ、ソコニ建屋ヲトテ右ノ歌アリ、是三十一字ノ始也、吉田ノ二位殿ト、幽齋法印トハ御イトコナリシ故ニ、吉田ニ隨神庵ト号テ御休所ヲ立給フ、丸モ御ツレノ時、哥ヨミナラハントテ、二位下ノ、御弟ニ神龍院トテ禪僧ノオハセシヲカタラヒ、山中ニ一間ノ方丈ヲタテ、百日コモリ居侍シ、アル雨ノ日、御兩人シメヤカニ御物ガタリノ次、丸ニ向ヒ、二位殿ノ給フヤウ、當家ヲアタニ思ナ

ヨ、八雲神詠ノ口決ハ、定家卿モワレラガ先祖ヨリ相傳シテ、定家ノ御警悟今ニアリ、ト御物語アリシヨリ心付テ、サテ神詠ノ口決ヲキハメ、和歌三神并ニ人丸ノ正跡等ヲ明ニ傳ヘオホエ侍リ、恐多キ中事ナガラ、當時カヤウノ奥義ヲシロシメシタル衆ハ稀ナルベキカト存、丸ガワカキコロノ衆ヲ、ソレヨリ以前ノ衆ハ、道ト名ヲバオシマズシテ、祿ヲノミオシムトワラハレシ、今比ハワラフ人モナシ、此國ニ生レテ和調ヲ心ガケザランモイヤシキ事也、和歌ヲ心ニカクル人ノ、此神詠ノ口決ヲシラザランハ、タトヘバ驛門ニ入人ノ、大乘抄典ヲヲロソカニ思フガ如シ、驛門ニ入ハ何故ゾ、成佛センガタメナラズヤ、成佛ハ實相ニキハマレリ、實相ハ法花ニアカセリ、實相ノ外ハ皆是魔事云々、サレバ實相ノ理ヲ知カ、シラズトモ信ズルカ、此二ノ外ニテ成佛ハナキニ極レリ、又此神詠ヲ如シ形モレ不知ハ、三十一字ノ妙理ノ難牀ニスグレタル道理ハ知ガタカルベキ義ナリ

一ヤスミシ、 雄略天皇五年二月、葛城山ニ殺獲シ給フ、靈鳥ノ大サ雀ホドニテ、毛ノ長サ現レ地、忽ニ來リ鳴リ曰、努力努力、俄而見逐曠猪、草ノ中ヨリ暴ニ出人ヲ、フ、鴉從霧レ木ニ大ニヲソル、舍人ニ詔シ曰、猛獸人ニアフテハ止、射トラズシテ刺ト、舍人懼病ニシテ失色、木ニノボル、猪天皇ヲ欲レ噬、天皇用弓射止、擧レ胸ヲ殺ツ、コ、ニ狩ヤンデ、舍人ヲキラントアル時、舍人臨刑ニ而哥曰

ヤスミシ、(八隅知也) ワガオホキミノ(我大君也) アソマシ、(謂射也、又遊也) シ、ノ(猪ナリ) ウタキ(懷也) カシコミ(畏ナリ) ワガニゲノボリシ(我邊昇也) アリヲノ(師說云、山尾也) ウヘノ(上也) ハリガエタ(所登之波利乃木枝也) アセヲ(在ナリ)

皇后キコシメシ カナシマセ給テトメタマフ、天皇ワレニタミシ給ハズシテ、舍人ヲ顧ミタマフトアレバ、皇后對曰、人皆陛下ノカリヲ好ヲ不可ナリト云、今噴猪ノ故ヲ以テ舍人ヲ斬タマハハ、豺狼ニ不異ト、天皇同車シテ呼ニ万歳ニ曰、樂人皆儼ニ禽獸ヲハ、朕儼得善言ヲ而飯。

一 ヤマトヘ 日本紀十五卷、白髮天皇崩、皇太子億計王、弘計ト讓レ位、久而不處、由是姉飯豐青皇女、於忍海角刺宮臨朝秉政、自稱忍海飯豐青皇、當世詞人歌曰

ヤマトヘニ(日本邊也) ミカホシモノ(見欲物也) ヲシツミノ(忍海也) コノタカキナル(木高ナリ、言不能也、今世謂不能之振舞ニ曰木高此因縁賦) ツノサシノミヤ(角刺宮也)

十一月、飯豐青皇崩、

几哥意者、飯豐尊之隨朝乘政不能之由也

一 ヤツラノマヒ 日本紀第二十四、皇極天皇元年、蘇我大臣蝦祖立祖廟於葛城高宮、而爲八僧之儀、作哥曰

ヤマトノ(大和ナリ) ヲシノヒロセラ(忍廣瀬也、所名ナリ) ワタラント(渡也) アヨヒ(歩也) タツクリ(手作也) コシツクラフモ(腰作也)

几歌意者、只造祖廟之由也、步手作腰作者、集人民之護也

丸云、コレハ祖廟ヲ作ハテ、其供養ニ八僧ヲマハスル哥ナレバ、廟ヲ作ル事ニテハアルベカラズ、タマ忍イ

ヒロセラ、ワタラントスルモノ、ナリフリヲツクロヒ、ヨシヲスル駄、哥ニノベテ舞スルコトナルベシ、アヨヒハ足ノフリ、タツクリハ手ノフリヲ面白ヤウニワザトツクル駄、コシツクラフハ、腰ヲシホラシクフル也、ツクラフハ作リフル也、八僧舞ハ魯論ニミエタリ

一 八十行

一 ヤマシロノヨトテ 夜戸出ヲ、淀ニ云ガクル也

丸云、テノ字濁ベシ

一 山サツ 狩人也

一 ヤツカサ 後撰ニアリ。ヤツハ谷、カサハ山也

一 ヤタケノ雉ハ 八峯ノ雉ト同。八峯ニ名所也、又弥タケキ雉ヲ云、雉ハ春ハタケキモノ也、金鳥ヲキ、

ストヨム事無正説

一 山カツラ

マキモクノアナシノヤマノ山人ト人モミルガネ山カヅラセヨ

是ハ古今神遊ノ哥ノ中ニ、トリ物ノ哥也。ヤマカヅラトハ、神樂スルニ、マサキカヅラニテ頭ヲユフヲ云ナリ。日本紀ニハ、眞坂樹爲震ト云。古語拾遺ニハ以眞麻葛爲震、云々相違、賢木ヲカヅラニセンコト枝ヲ折カザスベキニヤ。又神樂譜ニハ、トリモノ、中ニ、葛ノ哥、本ニハ此事ヲ云リ、但歌ニ

ワギモコガアラシノヤマノ山人トヒトモシルベクヤマカヅラセヨ
マキモクノ穴神ハ大和、アラシノ山ハ山城也、近代不用葛歌、用庭火、此後哥本末共用之

ミヤマニハ雲フルラシ外ヤマナルマサキノカヅラ色付ニケリ

但八幡御神樂ニハ、取物九ヲ皆捧テ廻テ、別ニ葛ヲウタフトナン、又ヒカゲニテ冠ヲユフト申。綺語抄云、曙
ニ立雲ヲ山カヅラト云、今云夜ノアクルホドニ、立ノボル雲ガ、カヅラノハナル、ヤウナリ。奥義抄云、人モ
ミルカネハ風俗ノ詞也、ミルベクナド云心也。教長卿云、アナシノヤマノ木ヲ取テ、庭火ニタキ、諸社ノ祭ニ
モ奉ル、主殿寮ノ沙汰ナリ、此木取人ハ、カヅラユフト云モノヲ、額ヨリウシロニ引マハシテ結也、大方諸社
ノ祭ノ上卿弁ナド、供ニ神物時、皆此ユフヲシテ、額ヲユフ、教長トテカクスルナリ、帝モ神ワザノ時ハ、御
冠ヲユハセオハシマス也、神ワサトハ、神今食・新嘗會ナドニ帝ミヅカラ神供ヲソナヘオハシマス也、近代此
事稀也、又ユフカヅラト云ニ、文時歌ニ

ヒホロギハ神ノ心ニウケツランシラノタカネニユフカヅラセリ

此歌ヲ順開テ、何トヨマレタルトオボメケルヲ、文時開テ、順ノ主ミ(○エ種)シラジトゾ ウナツキケル、
古六条左京兆ハ、ミワタセバ神ノヒホロギトキテケリトゾ、此上句ヲバ被申シ、コレハ神祭ノ心賦、又古歌枕
ニ、神マツラントテ椎柴折ニ行人ノ、ユフカケタルヲ、ヤマカヅラト云、昔ハ賢木ナドヲ取ニ行ニ、椎柴ヲモ
取ニヤ

一 ヤカタオノ靈

ヤカタオノ靈ヲ手ニスヘシマノニカラヌヒマナク年ゾヘニケル

顯昭云、鷹ノ相經ニハ屋像尾・町像尾ト二ノ相アリ、屋ノ棟ノヤウニ、サガリフニ切タルト、田ノ町ノヤウ
ニ、傾ザマニ切タルト也、或人矢ノ尻ノ、町ト云モノ、ヤウニ、尾ノ中ノクキノ、マダラナルヲ靈ニ書テミセ
ケレドモ、クキバカリニテハアルマジ、尾ノフノ紋ナルベシ、万葉ニハ矢形尾ト書、サガリフ同、或歌ニ
モガミヤマスカケシ日ヨリ心シテオホシタタルヤカタオノ靈

一 山タツ 山タツネ

君ガユキケナガクナリヌ山多豆ノムカヘカユカンマチニハマタジ

山多豆者、是今造木者云々。綺語抄、山ニ木作モノヲ云。童蒙抄、山タヅトハ杣人ヲ云。此外、タツキハ、テ
ヲノ、ハノヤウナレバ、ヨコサマニ木ヲキレバムカヘト云。又万葉ニ、山タヅネムカヘカトカヘタル哥アリ、
一説ニ袖ヲ作ヲキテ、一二ヶ月モ有テ取ニ入ヲ、尋ト云説アレドモ、皆不叶、ヤマタヅネモノト同音ナレバ
同事歟

丸案ニ、ヤマタヅハ今木造者トアレバ杣人ナルベシ、サレドモ、山タヅト云ヘバ、必ムカヘトヨメバ、山タヅ
ト云テ木ヲキル器モアルトミエタリ、ヲカナト云ノコギリハ、前ヘヒカンタメニ、サキヘ刀ヲヤルモノナリ、
ソレヲムカヘニト云詞ノ枕詞ニシタルトミエタリ、君ガユキハ、イニテ也、ケナガクハ、久ナリヌナリ

一ヤソシマ

ワタノハラヤソシマカケテコギ出ヌト人ニハツゲヨアマノツリ舟

顯昭云、二ノヤウアリ、一ニハ出羽ニヤソシマト云所アリ、一ニハアマタノ寫ヲ云、中ニモ此歌ハ篋隱岐へ被
流トキニ、アマタノ嶋々ヲカケテコギ出ト也、但歌論議ニ難ジテ云、多カル事ヲイハマ、千寫トモ、百嶋ト
モヨムベシ、何云ニ八十嶋ニ矣、答云、千嶋・百嶋トヨムコトモアリ、又ヤソハ陰ノ數ノキハナレバ、万ノモノ
・歌(○數)ニハ八トヨメリ、又ヤシホノ衣トモ、霜八度ヲクトモ云也、又ヤソノツマキ・ヤソノ舟津・ヤソ
ノチマタ・ヤソノ氏人・ヤソノクマワ・ヤソ國・ヤソセ・ヤソノシマワナドヨムナリ、又算術ニモ、九々八十
一トテ、八十ヲ多カル數ノ始ニモスルナリ、万葉ニ

ウナバラヲ八十嶋ガクリキヌレドモナラノミヤコハ忘レカネツモ

此哥ハ、備後ノ水調郡ニテ作ナリ、コレハアマタノ嶋ナリ、カクリハ、メグリト云詞カトイヘドモ、カクレト

云コトナリ、「レ」ト「リ」ト同音ナリ、又嶋ガクレト云モ常ノ事ナリ、又

ヌハ玉ノヨワタル月ハハヤモ出ヌカモ、ウナバラノヤソシマノウヘニ(○イ)モガアタリミン

此歌ハ豊前國下毛郡作ナリ、是モアマタノ嶋ナリ、上總防人哥

百タサノミチハキニシヲ玉サカニヤソシマ過テワカレカユカン

丸案ニ、此百タサハ非草、只色々ノ路次也、白種ト書ベシ。又拾遺集云

百シキノ大宮ナガラヤソシマヲミルコ、チスル秋ノヨノ月

院百首、紀伊公、月哥云

秋ノヨノ月ヲ遙ニナガムレバヤソシマメグリミル心スル

代初ニゾヤソシマノ使トテ、内ノ御乳母タチテ、ヤソ島メグリト云コトハ侍、ソレモ嶋々ニテ被スベキヲ、住
吉ノ濱ノコナタニテ、西ノ海ニムカヒテ、諸ノ島々ノ神ヲ祭ト云リ、或書ニ風土記ヲ引テ云、堀江ノ東ニ八十
頭嶋ト云所アリ、ソレハ昔女人兒ヲ思テ、其江ニテ網ヲカケテ鳥ヲトリケルニ、水鳥ノ七十八カ、リテ飛ナル
ニ、此網ハリケル女モ、引上ラレタリケルニ、共ニ江ニ落テ死ニケレバ、鳥ノ頭七十八、人ノカシラニクハヘ
テ、八十頭有ケレバ、ヤソツ嶋トハ云ト侍レド、タシカニハ不知、コレハ一所ノ名ニモアリヌベシ、其所ニ
テ被ラスレバ、ヤソシマノ祭ト云ト申事モアレド、猶嶋々ノ神ヲ祭ナルベシ、又万葉ニ

ヤソシマハナニハニツトビフナカザリアガセンヒロヲミモヒトモガモ

コレハ、相摸防人哥也、日本國ハ、八十ナケレド、如レ此詠リ、「ヒロ」ハ「日」ナリ、「ロ」ハ休詞ナリ、ミモ人

ハミン人モナリ

一ヤマノトカケ

アシヒキノ山ノ跡隠ニ鳴鹿ノ聲キ、ツカモヤマ田モルスコ

顯昭云、アトカクレト書リ、ヤマノカケト云賦、又万葉ニ

モノ、フノイハセノ森ノホト、ギスイマモナカヌカ山ノ常陰ニ

コレハ常ノ影ト書リ、鹿モ郭公モ、トコトハニ鳴モノニアラズ、只ヤマノフモトナド可ニ心得ハ、哥心モ、二首ナガラ常ニナクベシ、トヨメルトハキコエヌニヤ

丸云、戸陰・外陰ナド書タル歌書多皆不可用、万葉ニハ跡隠・常影トカケバ文字ニテ書トキハ、カヤウニ書ベシ、コトナル文字ニテ書事、末代ニ堅スベカラズ、サテ此跡ノ字ニテモ、誤ハノベラレズ、常ノ字ニハ叶ベキ義有、山ハウゴカヌモノナレバ、トキハナルカゲト云心懸、サレドモ影ノ字ヲ書タレバ常ノ字モ、タマカリニ用タルベシ、陰ノ字ハハタラカズ、陰ナレバ山陰ナドニカク「影」ノ字ハ、ウゴクカゲナレバ、日月ナドニ用、サヤウノコトモタマサズ書タレバ、常ノ字アリトテ、トキハト云心モナキヤラン、跡ノ字ヲモカキタリ、シカレバ「トカゲ」ト云ハ「常」ニテモ「跡」ニテモナクテ、別ノ詞ナルベシ、只トアルヤマノカゲト云心ナルベシ、トアル・カクアル・トシテ・カクシテナド、云詞ノ類ナルベシ、所ヲサシサダメズ、ヒロクサシテ云時ノ詞懸、又トヲキ陰ヲ云ベキ懸、鹿ノトゴエナド、ヨメルハ、遠キ聲ナリ、右ノ郭公ノ哥ニモ、鹿ノ哥ニモ、トヲキ山陰ニテヨクカナヘリ、サレドモ 丸ガ分際ニテ定ガタシ、後ノ君子ヲ待、タシカナル證説 不レ出之間ハ先コレニテヲクベシ

一山サクラ戸

足見ノ山櫻戸ヲアケテワガマツ君ヲタレカトマムル

顯昭云、櫻ノ木ニテ作タル戸ナルベシ、楨ノ戸・杉ノ戸・松ノ戸ナドノ如シ

光云、或説ニハ櫻ノ咲タル家ノ戸トモアリ、必其モノヲ板ニハガネドモ、禁中ニモ萩ヲ植タルトコロニアルヲバ萩ノ戸ト申、或ハ藤ノサク門ヲバ、藤ノ門トモイヘバ、櫻ノアル栖ヲサクラ戸トモ云ベキ也、サレバ兩説トモニ難捨待ベリ

一ヤヨヤマテ

ヤヨヤマテヤマホト、ギスコトヅテモ(○ン)我世ノ中ニスミワビヌトモ

顯昭云、ヤヨヤマテハ、シバシマテト云詞ナリ。教長卿云、八夜也、久事ニハ七夜・七日ト云ヲ、是ニモ過テ、八夜ト云ナリ、シテノヤマニアラン父母ニ、コトヅテント云ナリ。私云、此哥ハ猿丸集ニ有、詞書、アダナリケル女ニ、モノヲイヒソメテ、タノモシゲナキコトヲ云ホドニ、ホト、ギスノナキケレバトアリ、人ヲウラミテ、ヤマヘイリナント〔○オモフ 賦補アリ〕

丸云、猿丸集ノ説尤正義ナリ、サレドモ「ヤヨヤ」ト云詞ハ、郭公ニ「ヤレマテ」ト云詞ナルベシ

歌林樸樾第十六卷畢

歌林樸楸 第十七

【マ】

一 マソカ マサヒ

推古天皇廿年正月朔日、置酒^{マサヒ}宴^{マソカ}群^{マサヒ}卿^{マソカ}是日、大臣上壽歌曰。蘇我馬子宿禰

ヤスミシ、(八隅知也) ワカオホキミノ(我大君ナリ) カクレマス(隱座也) アマノ(天也) ヤソカキ

(八十垣也) イテケ、ス(不出立也) ミソラヲ(御座也) ミレハ(見也) ヨロツヨモ(万代也) カクシ

モカモ(如^レ此也) チヨニモカクシモカモ(千世也、如^レ此也) チヨニモカクシモカモ(重句也) カシコミ

テ(畏ナリ) ツカヘマツラン(仕奉也) ヲロカミテ(拜ナリ) ツカヘマツランウタツキマツル(私記曰、

言獻^ニ此哥^ニ豆加之津支奉也)

丸云、ウタツキマツルハ、歌ヲツマケ奉仕歟

天皇和曰

マソカヨ(蘇我我也、大臣之名) ソカノコラハ(蘇我子等也) ウマナラバ(爲^レ馬也) ヒムカノコマ(日向

駒ナリ、駿駒也、私記曰、日向國出千里之馬) タチナラハ(爲^レ太刀也) クレノ(吳也) マサヒ(私記

曰、良劍之名也) ウヘシカモ(上也、謂^ニ先代也) ソカノコラヲ(蘇我子等也) オホキミノ(大君也) ツ

カハスラシモ(仕也)

凡御哥意者、以^ニ蘇我大臣、或喻^ニ駿駒、或寄^ニ良劍、褒^ニ美之云云、然者先代之聖主召仕之由也

一 狩鳥^{マサヒ} 狩ニ鳥ノアレバ鹿ノトラル、ナリ

一 マヤハ 眞木ニテ作家ナリ モヤ同。「マミムメモ」ノ五音通ナリ

アタラ夜ノマヤノアマリニナガムレバサクラニクモルアリ明ノ月

今夜ダニモヤノ中ノ戸引立テマハユケレバノ一コトハウシ

右宗祇ノ説也

丸案ニ、世上ニ心エタルハ「マヤ」ハ雨下ト書テ兩方ヘアマヲチノアル屋作ヲ云、「モヤ」ハ母屋トテ中ニアル屋也、孫廂ナド、云名モ此母屋ニ付テノ名トイヘリ、此宗公ノ説ニ、大ニカハレリ、アツマヤトハ東國方ノ屋作ヲ云、四阿ト書テ、四方ヘアマヲチノアルヲ云、「マヤ」トハ雨下ト書テ、二方ヘ軒ノタル、ヲ云トイヘドモ、東ヤノマヤトツマケタ哥ヲ思ヘバ、四方作ニシテ、二方ハ軒タレテ雨ヲチ、二方ハ軒ナクシテアマヲチナケレバ、アツマヤノ内ニアルマヤナルベシ、眞木ニテ作説難^レ用

一 マトリ 鷄ノ異名也、嵩津鳥ヲ「シ」ノ字「ツ」ノ字ヲ略歟

眞鳥スム卯名手ノ森ノスガノネヲキヌニカキツケテキセンコモガモ

一 マヒナシ

春サレバ野ベニ先咲ミレドアカヌ花、マヒナシニタマナノルベキ花ノ名ナレヤ

關昭云、幣字ヲ万葉ニ、マイハセントモ、マイナシトモヨメリ

アメニマス月ヨミ男マヒハセン今夜ノ長サイヲヨツキコソ

我宿ニサケル撫子マヒハセンユメ花チルナイヤヲチニサケ

關註密勘ニ、定家卿此マヒナイノ説ヲ聞テ、主ノ家ノ花セ云ナシト云説ハアヤマリナリ、コレヲシラズシテモトアヤマリテヨミシヨト、後悔ノ詞アルヤウニ覺侍

一マクカタ 齋宮女御集云

マクカタニアマノカキツムモシホグサ燵ハイカニタツヤタ、ズヤ

關昭云、マテカタハ、マテトルトキコエタリ、マクカタトハ何ヲマクトモキコエズ、塩焼コト、キコユ

イセノウミノアマノマテカタイトマナミナガラヘニケル身ヲゾウラムル

シホノヒタル瀧ニテ、マテカリニテマテヲ引出シトル也、鐵又フクセニテ沙ヲカケバ、マテ汁ヲ吐出スナリ、

「マテカリ」トハカネノ細ヲニマタニツクリ、竹ヲ柄ニスルナリ、夏ハマテヨコサマニ成テアレハトラレズ、春

秋多ノミトル也、マテハタテサマニ穴ニアル也、キハメテイトマナクウルサキ也。和泉式部哥云、 龜鏡集ニ

入ル。伊勢室山入道撰ス、入ニ馬蛤甲虫ノ類

ヨサノウミノアマノアマタノマテカタニオリヤトルラン浪ノ花ナミ

一説カタハ非形、瀧ト書。奥義抄云、アマハシホヤクトテハ、塩干ノ瀧ノスナゴヲトリテ、ス、ギアツメテ、

其汁ヲタレテ(○ヤクナリ種アリ)、サテ又其スナゴヲバモトノ瀧ニマキノスルヲ、アマノマク瀧トハ云ナリ、

塩干ノ(○マニ種アリ)急イトナメバ無暇事ニヨセテ、イトマナクテ、久間ザリケレバ、身ヲ恨トヨメリ

此折ノ心ナレバ「マテカタ」ニハ非、「マクカタ」ヲ本トス、齋宮女御集ノ哥モ「マクカタ」ナリ、サレバ兩説トモニイヅレミステガタキニヨリ、古人モ是非ヲサダメズ、用來ナリ

一マツラサヨ姫 ヒレフリノミニ

トヲツ人マツラサヨヒメツマゴヒニヒレフリシヨリオヘル山ノ名

松浦サヨ姫ハ、大伴佐提比古ガ妻也、勅使ニテモロコシヘワタルヲ、高山ニノボリテヒレヲヌギテ招シヨリ、

此山ヲヒレフリノ峯ト号ス。帝王系圖云、欽明廿三年八月、遣ス伐新羅大使、大伴狹手彦連領軍數十

兵。又肥前國風土記云、昔武小廣國押柵天皇之世大伴狹手彦連渡百濟之時、到此村ハ、又考遺唐使佐手

彦(○種ナシ)丸記云、天平勝寶元年四月二日進發、同二年九月十日(○廿)四日歸着紀伊國云々。今案ニ万葉所

載大伴佐提比古、今大伴左手丸同手(異種)如何、サテヒコハ宣化二年以前也、サテ丸ハ天勝寶元年也、帝

王系圖ハ欽明御宇、遣新羅肥前風土記ニハ宣化御宇渡百濟ニハサテ丸ハ遺唐使云々。童蒙抄云、肥前國風土

記云、昔武小廣國押柵天皇之世大伴狹手彦連伊任那國ヲシヅメカネテ、百濟ヲスクハン爲ニ、詔ヲ率リ

テ此村ニ到ヌ、即藤原ノ村弟日姫子ヲメトシツ、其形人ニ勝レタリ、ワカレサル日、鏡ヲ婦ニ與フ、婦別ノ悲

ツイタキテ、クリカハヲワタル、與ル所ノ鏡ヲイダヒテ川ニシヅミス、コ、ヲ鏡ノワタリト云、狭手彦連舟ヲ出シテ去時、弟日姫子コ、ニノボリテ袖ヲモチテフリマネク、此故ニ袖フル嶺ト云也。此狭手彦事コレカレ遠タリ。又筑前國風土記ウチアケノ濱ノ所ニ云、狭手彦連舟ニ乗テ海ニト、マリ、ワタル事ヲ得難シ、爰石勝雅〔○推補〕云、此舟ノ不行事ハ、キテ行トコロノ妾字、那古君ヲ海神ノシタフ故也、于時連、妾ト相ナゲク、皇命ヲカロシメン事ヲ恐テウツクシビメヲイダキテ、コモノウヘニノセテ波ニハナチウガブト云也、是又コト妾ヲ伴テ海ヲワタルトミエタリ

丸案ニ、カヤウノコトハ説々多物也、イヅレモタシカナル本文ナレバ、欽明ノ時モ、宣化ノ御宇ニモ渡海アリトシルベシ、作乎比古モ、狭手彦モ、カキヤウハカハルトモ、大伴氏ノ連ヒトツナレバ、同人トシルベシ、佐手丸ハ其裔孫歟、二百十余年後也、姫ハマツラサヨ姫ト、弟日姫ト、那古君、各別ノ名ナレバ皆別人トシルベシ、哥ヲヨマンニハ、万葉ニアル、山ヘノボリシサヨヒメヲ正義トスベシ

ウナバラノ沖ユク舟ヲカヘルトカヒレフラスケンマツラサヨヒメ

松浦ガタサヨヒメノコガヒレフリシヤマノ名ノミヤキ、ツ、ヲラン

音ニ聞目ニハマダミヌサヨヒメガヒレフリキトイフ君マツラヤマ

一 マシラヘノタカ

枕ツクツマヤノウチニトグラユヒスヘテゾワガ、フ眞白部ノタカ

「部」ノ字ヲ「フ」トヨムベシ、只「シラフ」ナリ、「ヘ」ト云コトアルベカラズ、シラフノ中ニ、ヨクシロミタルヲ「マシラフ」ト云ナリ。綺語抄ニ目ノ毛ノ白也。童蒙抄云、マシロトハ、目ノウヘノ白ヲ云、万葉ノ題ニ詠ニ白大鷹ニ歌トアリ、麻之路ト書テ正字モミエズ

ヤカタオノ麻之路ノ鷹ヲヤド、〔○ニ補〕スヘテカキナデミツ、飼クシヨシ〔○モ補アリ〕

丸案ニ、綺語・童蒙ノ心ナレバ、惣身ノ色ハ何色ニテモアレ、目ノ上毛ノ白ヲ眉白ト定タリ、是ハ不可レ然歟、万葉ニ既ニ詠ニ白大鷹トアルウヘハ、惣身ノ白ヲ云ベシ、目ノ義不可レ叶、マシラヘモ・マシラフモ同事トミユ

一 マシコ

ワビシラニマシコナ、キソ足現ノヤマノカヒアルケフニヤハアラヌ

寛平法皇、西河御幸ニ、猿叫以峽ト云題ヲ躬恒ガ詠ナリ、マシコ万葉ニ「申」ノ字「マシ」ト云詞ニツカヘリ、マウシノ中略ナリ、則日ヨミノサル也、マシコハ猿ノ子歟、「マシラ」ト書本モアリ、マシコハ小鳥ノ名ニマギル、間、マシラマサルト云人モ侍、猿ニハ異名多也、或タカト云、日吉社ニハ「タカノミコ」ト云、匡房ハ「イソノタチハキ」トイハル、俊頼

タカノ御子イトモカシコクミマシケリサルマルヲシト〔モ補〕引タテ、トヤ

一 マタス

アキツバニ匂ヘル衣我ハキジ君ニマタセバヨルモキナマシ

マダセバトハ奉ト云詞也、古語ニ「タスケマダス」ト云モ「助奉」ト云詞ナリ、万葉ニ云

ワガキヌヲカタミニマダスシキタヘノ枕ウゴカズマキテサ、マセ

マスカミカケテシノベトマツリサスカタミノモノヲ人ニシメスナ

マツリサストマダスト同詞ナリ

一マユトシメ 後拾遺ニ、前伊勢守義孝ガ宇治前大政大臣ノ、驛ノ長ニ下ルト聞テ、東尾座主教圓ヨミテツカハス歌

古ノ肩トジメニモアラネドモ君ガミマクサトリテカフカモ【〇トカ袖】

催馬樂呂哥ニ、ミマクサトリカヘマユトジメ、尸自ト云事ハ女官也、又司ナラネド、老女ニモ若女ニモアレバ、マユトジメモ女タルベキニ、ミマクサトリカヘ、トウタフハ、若舍人ガ妻ニヤ、オホミキワガセマユトジメ、トモウタヘリ、又或本ニ「マユカキトシ【〇メ袖ア】」ト書リ

【ケ】

一玄上 琵琶ノ名也

一賢聖ノ障子

一暖月房ハ 淨土宗也、俗名、爲守、爲明ノ同胞也

一ケリト云詞ハ シカトモノヲオトシツケタル義ニ云

一ケラシハ 疑心也。今連歌ニ「ケリ」ト云詞ト同故、ランニキラハズト云ハ僻事也

一ケフノホソ布

ミテノクノケフノ細布ホドセバミムネアヒガタキ懸モスルカナ

顯昭云、狭布ト書テ、ヤガテ障ニ「ケフ」トヨムナリ、訓ニホソヌノトヨムナリ、其障・訓ヲ合テ「ケフノホソ布」ト云也、サレバ胸アハヌヨシヲヨムナリ、「ケフノセバヌ」トモヨメリ

石文ヤケフノセバヌノハツ／＼ニアヒミテモ猶アカヌケサカナ

卯花ノサケル垣根ハ乙女子ガタガタメサラスケフノ布ゾモ

結語抄云、陸奥ノ御調物ニ、狭布トテ、ハタバリセバク、イヤシキ布アリ云々。無名抄云、此ケフノ細布ト云ハ、ミチノヲクニ、鳥ノ毛シテ織ケル布ナリ、オホカラヌモノシテ織布ナレバ、幅モセバク、ヒロモ短ケレバ、上ニキルコトハナクテ、小袖ナドノヤウニ下ニキル也、サレバ、セナバカリヲカクシテ、ムネマデハカ、ラヌヨシヲヨムナリ。奥義抄云、ミチノクノケフノ郡ヨリ出タル布ナリ。私云、鳥ノ毛テアルラン事、サモヤ侍ルラン、或物ニ書テ侍ルハ、件ノ布ハ、兎ノ毛ヲ、モノ、フタニ入テ、尻ニホソキ穴ヲアケテ、ソレヨリ穿ヲ

トヲシテ引出バ、ソレニ兎ノ毛ツキテ出ルヲ、ヒネリツケテヲル布ナリ、ウルサク、ワヅラハシキモノナレバ、セハク細キナリ、タテニハ例ノ苧ヲシテ、兎毛ヲバヌキニスル也。又武則真人哥云

シヅノメガシヅハタ布ノヌキニウツウノケノヌノ、ホドノセバサヨ

此哥モ定説シリガタシ、カ、ル事ハ、其義イハント思フ人ノヨムコト也。又奥義抄ニ、ケフノ郡ヨリ出クル布ト侍ル、ミチノクノウチニ、「ケフ」ト云郡ナシ、トフノスガ鷗モ、トフノ郡ヨリ出トアレドモ、サル郡ナシ、シノブモヂズリノミゾ、シノブノ郡ハタシカニ侍ル、能因二度奥州へ下リ、又出羽へモマカレル由ミエタルニ、錦木・ケフノホソ布ヲ詠タレバ其サマハ委キ、ワタリテ侍ケン、サレドケフノホソ布ノ事、委註ヲカネバ曲ナシ、人々トカク申ニコソ

【フ】

一フケルマ

一風月

一風流

一風俗

一二日ノ月 初戀ニテ戀額

アルカナキカ心ノ末ゾアハレナル二日ノ月ニ雲ノカ、レル

一フシノナル澤 ナルサノ説不用

サヌラクハ玉ノ緒バカリコフラクハフジノタカネノナル澤ノゴト

顯昭云、富峯ニ大澤アリ、其水ト火ト劇シ燻ト水氣ト和シテ立ノボル、火モエ水ノワキカヘル音タエズ、其ヲ或人フジノナルサトヨマレタリ、如何ト申シヲ、庶^フ廣^ク言^フト云人コレハフジノヤマヨリ、砂フルコトアリ、其ナル音ヲ鳴砂ト云ト云シカド、万葉ニタガヘリ、作者ハヒガゴトヨミテケリト申サレケルトゾ、俊頼、法性寺殿ニテ紅葉ヲ

雲ノキルフジノ鳴澤風コシテキヨミガセキニ錦ヲリカク

万葉ニ

マカナシミヌラクハシケラクサヌラクハイヅノタカネノナル澤ノゴト

又一本ニ

アツ【○サヌ種】ラクハ玉ノ緒シケヤコフラクハフジノタカネニフル雪ノゴト

一冬嗣 嗣字大臣ノ名ニアルトキ「ツグ」トハヨマヌ習ナリ

一フシミノ田井 山城ノ伏見ニヨミナラハセリ、伏見修理太夫俊綱朝臣、伏見ノ田哥作テウタハセタルユ

ヘナリ、万葉ニモ、山城ノ伏見ノ田井ヲヨミタル歌

巨椋ノ入江ヒマク也射見人ノ伏見ガ田井ニ鴈ワタルラシ

宇治河作云ミ、又巨椋ハ宇治ニ「ヲクラ」ト云所アリ、イメ人ハ夢人也、サテフシミトツマクルナリ

一フシハシリ

ホノミテモメナレニケリナキカラニフシハシリコソシヌベカリケレ

顯昭云、「フシ」ハ「フス」イヌル也、ハシルハ、ネテ又ヲクルナリ、ゲスノ詞ニ、フシハシリナルヨリノ事ナリ、万葉ニ

フシヲキテ我ハコヒノムアザムカズタマニゾ行テアマヂシラシメ

此フシヲキテモ、フシハシリト同心也

丸案ニ、此フシオキテハ只起臥也、フシハシリハ、タトヘバ、ワカキモノナドガ、親方ノ御用ナラバ、ヨル夜中ノ御用ニカケハシリ、手足ノ奉公イタスベキト云ヤウノ事ナルベシ。一説ニ、フサレヌ所ニモ伏、急用ニハ、ユカレヌ所ヘモ走アリカント也、一説ハ、フシハ寝テ身ヲ安休スル時ナリトモ、ヲキテ馳走可申ト也、一説、フシハ「ヨル」ニカ、リ、「ハシリ」ハ昼ニアテ、夜昼ノ御用ヲキカント云コトナリ、イヅレニテモ戀ノヤツコト成リテ、君ニ手足ノ奉公ヲ仕タキトナリ

歌林檎第十七卷畢

歌林檎

【一】

一コモリクノハツセ

雄略六年二月、遊ニ于泊瀬小野ニ、觀ニ山野体勢、慨然興レ感歌曰

コモリクノ(籠國也、言奥區也) ハツセノヤマハ(泊瀬也) イマタチノ(今時也、言絶妙之義也) ヨロシ

キヤマ(宜山也) ワシリデノ(越出也、言奇巖惟石時立也) ヨロシキヤマノ(宜山也) コモリクノ、ハツ

セノヤマハ、アヤニ(緩ナリ、丸云、奇妙) ウラダハシ(隱也、加久字也) アヤニウラクハシ

於是名小野曰道小野

隱乃口泊瀬山・隱國乃泊瀬山・隱久乃始瀬山・立之妙山。以上万葉

丸云、サシクテセバキ所ナレバ、コモリクト云トイヘバ、籠國トハ不可然歟、又コモリ江トヨミタルモアルト云ミ、ソレハ「口」ト「江」ト文字ヲミアヤマレルカト云説アリ、サレドモ、古ヘ觀音ノ淨土ニテ、海邊タリシユヘ、アマ小舟トツマクルト云リ、其時ノ舟ガト、マリ、ヤマトナリタルニヨリ、トマセトモ書トイヘリ、又カクラクノハツセト云モ有、極樂ト云義トイヘリ、又此川ノ瀨百瀬アリ、其最初ノ瀬ナレバ「ハツセ」ト云モアリ、サアレバ別ノハテタルト云説ハアヤマリ歟、此雄略ノ御トキハ、佛法ワタラヌ以前ナレバ、タマ隱口ノ説ヲ先正義トスベシ、サテ佛法渡リテ、繼化ノ人出テ、劫初ノコトヲイヒノブルニ、ゲニモラシキ事ノミアルニ

ヨリテ、サマノノ義モ出来ナリ、其邪正ハ後人ノコ、ロニテ分別シテ、スツベキヲハスツベシ、先ヒロク聞
ベキ也

一コタチウスケト 日本紀二十三卷、舒明ノ御時、軍至乃令來目物部伊區比以絞之、父子共死、
乃埋同處唯兄子毛津邊三匿于尼寺瓦舍一即一ニニニ、於是ニ一ニニ、尼城妬令顯、闕寺將
捕、乃出之入ニ敵傍山、因以探山、毛津走無所入、刺頭而死山中、時人歌曰

ウネビヤマ(敵傍山也) コタチウスケト(木立雖薄也) タノミカモ(憑ナリ) ケツノワクゴノ(毛津稚子
也、稚子者男子之通称也) コモラセリケン(籠也)

一コサルコメヤキ 皇極二年、蘇我大臣入鹿獨謀、將廢上宮王等、而立古人太兄爲天皇、于
時童謡曰 飲明天皇之皇子也

イハノヘニ(岩野邊也) コサル(小猿也) コメヤク(籠燒也) コメタニモ(籠也) タキテ(燒ナリ) トヲ
ラセ(融ナリ) カマシ、ノ(山羊也) ヲチ(叔父也)

以上日本紀ノ本文

時ノ人説前ノ謡之曰、以伊波能杯你、而喻上宮、以古佐屢、而喻林臣、入鹿以渠梅野俱、而喻
上宮、以渠梅多你母陀羅底羅實羅柯麻之、能鳴賦、而喻山背王之頭髮斑雜色似山羊、又曰棄捨其宮、
匿深山相也

以上日本紀ニミユ、出所未知、日本紀ニハ無之

丸云、前後日本紀ヲミテ、心ヲシルベシ、イハノヘ野邊ナルベカラズ、只岩ノ上ナリ、小猿ハ蘇我臣ガ息入鹿
賦、イハノ上ハ、ウゴキナキヤマトシマ根ヲ云ナルベシ、今智惠モナキ小猿ガ一疋キテ米ヲ燒、西道ヲ恣ニス
ル牀ナリ、其惡行ナリトモ、セメテ末トヲラセヨ、トテモトヲルマジギゾナリ、カマシ、ノヲチ、コレヲモ皆
猿ノ類ノ獸ニ、ソノトキノ依臣ドモヲサス賦、羚羊ハ角ヲ岩ノカドニカケテネブルモノナリ、アヤウキコトヲ
ナスモノナリ、コレヲ入鹿ガ一類ヲサスナリ

一久我 「ク」トハヨマズ

一弘微殿 カンナニハ「コキデン」ト書ルモ、ヨム時ハ「コウ」ト引ベシ

一麗峰 南海佛逝羅國ニアリ。此國ノ人ノ牀ヲ摸セル舞ナリ、十妓樂ノ中也、興福寺ノ佛生會ニ舞ナリ、
但口傳ニ「ク」ハンロン「ト」云々

一木間ク、タチ 鳥ノ、木ノ間ヲクマリタツ也

一コノテ柏 柏ノ若葉、兒ノ手ニ似タル、能因ガ説ヲ用、大トチ、男女郎ノ説ヲハ堅不可用

ナラヤマノコノテ柏ノ二オモテトニモカクニモネヂケ人也(○説神)

ソノカミノ思ヒくニ神ヤマノコノテ柏ヲ手ゴトニゾトル

万葉抄云、甕永大和守ニテ下ルニ、ナラ坂ノホドニテ、白花ノ多サクヲ、馬ヲトメテ國ノ舍人ガ供ニ問ニ、

大下ト申モノナリ、此國ニハ、コノ手柏ト云ト申、女郎花ニ似テ、花ノシロキナリ、サレバ、男ベシトモ云
歟、葉ノ兒ノ手ニ似タレバ、コノ手柏トモ云

秋ノ野ニ今コソユカメ武士ノオトコヲミナノ花ニホヒミニ

但大和國ノ風俗ニテト云ハ、偏ニ此ナラヤマノ哥ニ付テ作出タルモノガタリ也。万葉ニ、下總防人歌ニ

チハノヌノコノテ柏ノホ、マレル〔ト袖〕アヤニカナシミオキテタカキヌ

千葉ノ郡ハ下總ナリ、ホ、マレルハツホミタルナリ、チバノヌトハ野ト云コトナリ。能因歌枕ニ、柏ヲバコノ
テガシハト云、又ヤヒラデト云、江進士有成法師云、青柏也、四月ノ神祭ニ入

一コトノシタヒ

琴トレバナゲキサキダツケダシクモコトノシタビニイモヤカクセル

琴ノ腹ノ申ヲ、隨ニ似タレバ云ナリ

一コトハタナ、リ

若垣ノ末カキワケテ君コユト人ニナツゲソコトハタナ、リ

關昭云、棚利ト書、タナ、リトハ、ツネナリト云歟、「タ」ト「ツ」ト「ナ」ト「ネ」ト同音也、又「コトハタナシリ」
トカケル本モアリ、ソレナラバ事ハ常ニ知ト云ベキ歟。童蒙抄云、コレハ、催馬樂ニ、若垣マガキ、カキ分
テ、トウタフ心ヲ讀リ、サテ人ニナ告ソ、事將ナシリト也、「ナシリ」トハ「ナシリソ」トナリ。私考、催馬樂

「棚利」トカケルヲ、事將ナシリ、トヨマンコト如何。

丸案ニ、右ノ説ドモ不レ叶、コレハ言ハ見世棚ノ利ノヤウナルモノナリ、徳トラントテハ、イツハリヲソヘテ
トリチラスナリ、シノバズシテ、公界ヘヲシ出スヲ、ミセ棚ニタトフル也

一コウシ 困也

一トトリツカヒ 相撲ノ人ヲ諸國ニメサル、使ナリ

丸云、ツヲ濁、カラ清ベシ〔○按云。此説と濁点あはず、寫誤か〕

一古幣

一コモチ鳥 夏也

一心アヒノ風 良ノ風也、奥州ノ詞ナリ

一コノモカノモ 家成卿哥合、落葉歌ニ 大宮右衛門督

モミヂバ、今ハ梢ニアラシヤマコノモカノモニチリシキニケリ

基俊判云、嵐山ノコノモカノモ僻事ニコソ侍メレ、只ツクハネト云山ノミコソ、カクヨミテ侍レ、彼山ハ面侍
ナレバ、此面彼面トヨミ侍ナリ、面ハ古今ニ、ツクハネノコノモカノモニカゲハアレド君ガミカゲニマスカゲ
ゾナキ 仍右爲負、依之二条院ノ石上御會ニ有之此沙汰、範兼俊成等皆存之基俊之説、而ニ清輔云、假名序
云、天ノ河ノコノモカノモ、ミギハ鶴ノヨリハノハシワタシ云々、天河猶如此、況他ノ山ヲヤ哉、其時諸人

閉口畢ス、顯昭又考、躬恒ガ子日序云、小松ヲ引、ワカナヲソヘマセ給フ、コノモカノモニ、行カヒ行カヘリ云ミ、又仲實序云、トナセノ龍、コノモカノモアシノハナミ云ミ

丸云、基俊天河ノコノモカノモ、躬恒ガ子日序ナドヲミズシテ、古今バカリミテ難ズベキコトナシ、ソレヲヲモヨク知タルウヘニ、此詞ツカフベキ所アルベシ、ツカハヌ所アルベシ、ツクハヤマハ殊本シゲ山ニテ、方々ニ面アリ、ノボル道モ多ニヨリ、古歌ニヨマレタリ、其外ノヤマニハ、哥仙ノモテアツカハヌ詞ナルニヨリ、嵐ヤマナドノ小ク、淺キ山ニ不似合ト云難ナリ、ツクハ山ノ外ニハヨマヌ事ト申サレタルヤウニ諸人心エテ、基俊ノアヤマリノヤウニ他門ニ云ナスナリ、基俊ノ判、正理ナル故ハ、ツクハ山ノ外ノヤマノ哥ニ無之、或子日スル廣野、或銀河沙灘三千界、哥ニモ濊八十アリナド、ヨメル、アマノ川ニコソ、故人モコノモカノモトハ書ケレ、シカルヲ石上ノ御會ニ、清輔ノエタリカシコシト天河猶如此、イハンヤ他ノ山ニオイテヤト、ノタマヒシコソ、アサマシケレ、サラバナド其座ニアリシ範兼・俊成等ハヲシ返シテ、清輔ヘ申サレザリシト思ヘドモ、當坐ニ至リテ、此基俊ノフカキ心持不_レ出_レ歟、又清輔ノ淺智ヲアサマシク思テ、ワザト云キカセズシテヲケルカナルベシ、ヨシ／＼ソレハトモアレ、カクモアレ、山ニモアラヌ所ニ書ル、此面彼面ノ詞ヲ以テ、基俊ノ判ヲカヘリテアヤマリト思ベカラズ、今丸ガ爰ニ委カクハ子細アリ、此顯昭ノ書置タマヘル袖中抄ヲミテ、其後ノ浦哥・歌ヨミモ、コクモカノモト云詞ハ、イヅクニモ不_レ苦_レトコ、ロエテモチユルニナレ、バ如此申ナリ、向後ワレラガ門流、カヤウノ詞ヲムサト不_レ可_レ用_レ給_レ者也

一コシアメ

久方ノハニフノコヤニコシ雨フリ床サヘヌレヌ身ニソヘワガイモ

顯昭云、小サメ也、万葉ニイシツ露イシツ字イシツ（○露霧イシツ霧イシツ霧イシツ）ト書、無名抄ニ「コシ雨」ト云ハイタウフリヌレトヲリテ、ハカマノコシナドヲヌラスヲ云。雨中葦葉ヲ、俊賴

タレトミテ忍ガリセンツレムトコシアメフリテ葦咲野ヲ

此人「腰雨」ト被_レ執ニヤ

丸案ニ、顯昭ノ説尤可然、俊賴ノ腰ノ説、不_レ可_レ然、但顯昭モコシ雨トヨミテ「小サメ」ナルベシ、「シ」ハ休字、ト心エラレタリトミユ、今ヨク分別スルニ、タトヘバ昔ノカンナノ書ヤウニ、メウホウレンダエキヤウ、トツケテ、「レンダエキヤウ」トヨム如ク、コシアメト書テ「コサメ」トヨムベシ、ヒサメ・ハルサメ・ムラサメ、皆ワランペナドハ「シヤメ」ト云ナリ、例セバ沙弥ヲ、吳音ニ「シヤミ」ト云ガ如シ、「サ」ト「シヤ」ト同ジヒマキニ行ナリ。露之我切、之成切。露（カヤウニモアリ）。此ヨミハソ、グトモ、ナガアメトモ付タリ、又久雨トモアリ、葦（扶尤切）雨雪貝トアリ。万葉ニ此兩字ヲ書タルヲ、コシ雨トカンナニツケタルハ、尤キコエタルコト也、而ヲ「コサメ」トヨムトハシラデ「コシ雨」ハ微雨也ト註セラル、少トマカザル歟、露字ヲ「ソマダ」トヨムニ付テ微雨ト云歟

丸存ハ朝カハリメアリ、ソ、グハ、コマカナル心ナリ、少フル雨ニアラズ、春雨ハコマカニフリテ、晴カヌル

ニヨリ、此字ヲ長雨・久雨ト注アリ、サルホドニ「コサメ」トヨミテ、ハルサメト同ジモノト心得ベキ歟、カンナニ「コシアメ」トアルヲモ「コサメ」トヨミテ可レ然也、カヤウノモノ、名ニ、休字ノ「シ」文字アルベカラズ、又休字ナラデハ「コシ」ト云ベキ義ナシ、上代ノ口傳、顯昭ノ比ニモハヤウセテ、カヤウノアヤマリ多出来トミエタリ、俊頼ノ歌ハアヤマリナリ、カヤウノ事ドモニコソ、甚優ハ散々ニ申サレタレ、少モ同聲ノネタミニアラズ、シラザル事ヲモ、ムザトヨミチラス、道ノ魔障トソシラル、歌ヲ下手トハイハザリシトミエタリ

一 コヒチ

五月雨ニ苗引ウフル袂(タゴ袖)ヨリモ人ノ戀路ニワレゾヌレヌル

顯昭云、順和名云、泥字「コヒヂ」トヨムナリ、ソレヲ戀路ニソヘヨムナリ、サレバ袖ヌラストモ、オリタツトモ皆泥ノ心ヲヨムナリ、而ニ近來ノ人、偏ニ戀ノ路トソヘテ、水ニヨスル心ヲワスレタリ

丸云、此顯昭說ハ不可然、童蒙抄ニ、「ヒヂ」ト泥ヲイヘバ戀デニヨソヘタル也、此說正義ナリ、古歌ニモ水ニヨセズシテ

逢コトヲイナオホセ島ノヲシヘズバ人ハ戀路ニマドハザラマシ

泥ヲバ「ヒヂリコ」ト云、惣別「ヒヅ」トハヒタルコトナリ、ヌル、義ナリ、サレバ土ノヌレタルヲ「トロ」トモ「ヒヂリコ」トモ云ナリ、袖ヒヂテナド、ヨムハ、泥ニ非ズ、タマヌル、由ナリ、泥ヲ「ヒヂ」ト云ヨリ、戀路ニトリナシテヨミナラハシタル也、シカルヲ顯昭ハ「コヒヂ」トハ泥ノコト也、ソレヲ戀路ニヨマンナラバ水邊ヲ

カマヘヨ、無ニ水邊之詞ニバアヤマリトイヘリ。丸存ハ、戀ノ歌ナレバ戀路ヲ正寐ニシテ、泥ヲカリニヨセタルモノ也、モトヨリ戀路ト云詞ノアルニヨリテナリ

一 コスノキケキ

玉タレノ小籠ノ寸鷄吉ニ入カヨヒキネ、タラチネノ母ガトハ(○ン袖アリ)ハ風トマウサン

顯昭云、「キケキ」ハ「シケキ」ト云詞ナリ。万葉ニ

ムサシノ(○ノ歌カ)ヲ具キ我キケシ立別イニシ宵ヨリコロニアハナフヨ

此「キケシ」ハ「シケシ」ト云歟、東國ノ風俗ノ詞トミエタリ。俊賴歌云

トシフレドコスノキケキノ絶マヨリミエシシナヒハ佛ニ立

丸案ニ、東詞ノ「キケシ」ハサモアルベシ、コスノキケキヲ「シケシ」トイハン事心エ難シ、寸鷄吉ノ「寸」ノ字ハ一寸二寸ノ寸也、馬ナドノイタキト寸尺ニ用字ナレバ、寸隙歟、サアレバコスノヒマノ絶間歟、カケナラベタルミスノアハヒノ事ナルベシ

一 心アヒノ風 催馬樂ニアリ

道ノ口タケフノコフミ(○ニカ)我ハアリト親ニハ申タベ心アヒノ風

一 譚ノ云、道ノ口トハ越前國ヲ云、心アヒノ風ハ、風ノ名ナリ

丸云、越前・越中・越後ヲ三越路トイヘバ、路ノクチハ越前ナリ、此哥ヲ陸奥ノト書アヤマレル書アルニヨ

リ、古來不審ヲコルユヘ、今コ、ニ詔ス、無名抄云、女ノス、ミアヘランナトニヨムヘシ、俊賴朝臣

心アヒノカゼホノメカセヤヘスカキヒマナキヲチニ立ヤスラフト

八雲御抄ニモ、風ノ名トノミアリテ、イツ方ヨリ吹トハミエズ、心アヒノ風ヨリ遙ニ先ニ、イカホ・アユ東風ト書リ、是家持、越中守時作歌也、コレ北陸道ノ詞ナリ。カヤウニアレド、アユノ風ト、心アヒノ風トハ別々ニ上タレバ、混亂シガタシ

丸案、是ハ人ノフケカシト思フ時、吹風ヲ云カト思ハレ侍

【エ】

一エサルトキナキ

沖ナカノエサルトキナキ釣舟ハアマヤサキダツ魚ヤサキダツ

顯昭云、朗詠庚申ノ題ニ入り、カノヘサルヲカクセリ、スナドリニ鹽ノ叶ヲバ獲ト云也、世俗ニモ、エントテヤハ狩ハスル、ト云ハ必シモエサラン事ヲ云ナリ、ソレヲ祝テ不レ獲時ナキトハ云ナリ、コレヲアシク心エテ、江去時ナキトヨムハ僻事也

【テ】

一テルサツ

テルサツガ手ニマキモタル玉モガモ其ヲハカヘテ我玉ニセン

人ノ名賦、但羅雄・羅弓ノ羅字ヲ書タレバ、武モノヲ云ナルベシ、タマキトテ、ウルハシキ玉ヲ手ニ巻タル也、テルハホメタル詞賦

ニヒムロノ踏靜子ガ手玉ナルソノ玉ノゴトテリタル君ヲウチニトマウセ

フムシヅケコ、テルサツナド云人有ケルナルベシ

歌林樸楸 第十九

【ア】

一アモナルヤ

阿妹奈屢夜 乙登多奈波多迺 汗奈俄勢屢 多磨迺素磨屢迺 阿奈陀磨波夜彌 多尔輔拖和拖羅須 阿泥素企多伽避羅彌

アモナルヤハ、天ニ在也、ミスマルノトハ、玉ノ御統ナリ、アナタマハヤミハ、穴玉早也、タニフタワタラスハ、谷二也、ワタラスハ、ワタル也

日本紀神代下云、天照太神天稚彦ニ勅シテ曰、豐葦原ノ中國ハ、是吾王タルヘキ地ナリ、オモンミルニ、殘賊強暴アシキ神アリ、汝先ユキテ平ヨトテ、天ノ鹿兒弓天ノ鹿兒矢ヲタマフ、天稚彦降來リ國神ノ女子ヲ娶テ、八年マデ報命セズ、太神思兼神ヲ召テ、其不來ノ狀ヲノ給、思兼神ノ云、先雉ヲツカハシテトヒ給ヘトアリシカバ遣ス、其雉ノ天稚彦ノ門ノ前ノ湯津松樹ノ梢ニシテ鳴テ曰、ヤトセノ間何ノ故ニ復命セザル、時ニ國神ニ天探女ガ云、此雉ノ聲アレハ、コレヲ射タマヘ、則天稚彦、太神ノタマヘシ弓矢ニテキル、其矢雉ノ胸ヨリトヲリテ、太神ノ御前ニ到ル、太神コレハワガ天稚彦ニトラセシ矢ナリ、乃チ取リ矢而呪之曰、モシ惡心ヲ以テ射バ、スナハチ天稚彦ニアタレ、平心ヲ以テキバ、ツ、ガナケン、トテカヘシナゲタマフ、其矢高

胸ニ當テ死ス、時ニ天稚彦ノ妻子、アメヨリ下テ極ヲ天ニ上セテ喪屋ヲ作り、轆シテ哭、天稚彦ト友善味相高彦根天ニノボリ、喪ヲ弔、此神ノ形、天稚彦ニ似タリ、其妻子ヨロコビテ、ワガ君ナリトテ狩衣帶ニトリツキ、ヲシハナタレザルニヨリ、高彦根イカリキ、我ヲ死人ニアヤマツヤトテ、劍ヲヌキ喪屋ヲ切タラス、其屋オチテ山トナル、コレ美濃國裏山是也、高彦根ノ光儀華、二ノ岳、二ノ谷之間テリカマヤク、ユヘニ喪ニ會者、右ノ哥ヲヨムト云々、或云、味相高根彦ノ神ノ妹下照姫ノ哥云々

又哥之曰 阿摩佐个屢 避奈更註迺 以和多羅素西渡 以嗣个播箇拖輔智 箇多輔智尔 阿彌播利和拖嗣 妹慮豫爾 余豫爾 以嗣个播箇拖輔智

アマサカルハ、逆也、下也、離也、ヒナハ、夷也、ツメハ、齧也、イワタラスハ、得ワタラス也、アイウエオ五音也、セトハ、エワタラストイヘドモナリ、イシカハカタフチハ、石川片淵也、メロハ、妻也、「ロ」ハ助詞ナリ、ヨシハ、吉也、ニヨシハ仁吉也、此哥習紀ノ如ハ、下照姫ノ哥トアレドモ、歌ノ心ヲ案ルニ、高彦根ノイモウトノ下照媛ヲ、他ヘクダシテ妻ニセントテヨメル哥ナリ、天ヲ以テ華トシ、他ヲ以テ夷トセリ、此兩首哥辭、今号ニ夷曲

丸云、御日本紀ニ、右ノ如ク、後ノ哥ハ下照姫ノ作ニハアラズトイヘルハ、哥ノ中ニメロヨシトアル詞ヲ以テイヘルカ、婦人ノワレトメロカタメニ、石川カタフチハ、ヨキトコハルマジキニアラズ、日本紀ニ、又哥之

曰トアル上ハウタガフベカラズ、先ノ哥モ、古今ノ序ニ下照姫トアレバ、始ノ説不可用、兩首トモニイモウ
トノ兄ニメデ、ヨメルトミエタリ、天稚ノモヤヲトムラヒニ天ヘノボルトアレハ高彦根ハ地ノ神トミエタリ
、サレバ下照姫モ地ヘオリテ、兄トスマント云、後ノ哥ノ心ナルベシ

一アハフニハケミラヒトモト 日本紀第三、神武長髓彦ト戰、カツコトアタハサレドモ、昔孔舍衛ノ戰ニ
五瀨命 矢ニ中テ瀨コトヲツネニウラミ、究誅ト思シテノ御謠ニ

瀨都瀨都志(滿々也) 俱梅能故羅餓(來目子等) 介耆茂等珥(垣下也) 阿波赴珥破(粟畠也) 介彌羅(大
薙也) 毘苦茂苦(一本也) 曾酒餓毛苦(其下也) 曾彌梅(其妻ナリ) 尾那麿屋(麿也) 于資尼之夜葬務
(嚙止也)

又

瀨都瀨都志 俱梅能故羅餓 介耆茂等珥 宇惠志破何介彌(蓋也) 句致(口也) 弭比俱(移也) 和例破
(我也) 瀨輪例備于智尼之夜葬務

丸云、アハフハ粟畠ト註ス、粟生也、蓬生・葎生ノ類ナルベシ、御歌ノ心ハ、下瀨心ニダガフ時、妻ヲ打擲ス
ルヤウニ、長嗣彦ヲウツベキ由也、粟畠・薙下ハ其居所ヲ稱ス、几卑ノ義也、後御哥ハ、蓋ノ口ニ久ヒラ、ク
如ク、五瀨命ノ矢ニ當シコトヲ、御心ニワスレネバ、戰ヲキハメタマハン由也

一アフサカ 日本紀第九、氣長足姫尊 神功皇后、武内宿禰、和珥臣祖武振熊ニ命シテ、忍能王ヲウ

タシム、是ハ應神天皇ノ別腹ノ兄也、武内山背ヨリ出、葦道ニ到テ河北ニ屯、忍能王ニ出レ習(○營カ) 饑之瀧
ト云ワガ軍ノ先鋒ヲス、メテ、高唱哥曰

ヲチカタノ(水表也、謂瀨江河水之所也) アラ、(荒也) マツバラ(松原) マツバラニワタリ行テ
(渡) ツクユミニ(柳弓也、久与倭五音通) マリヤ(曾矢也、稱未利矢者、甲冑之間伊礼加久瀨也、
今世古津万伽鼓懸) タグヘ(謂具也、弓矢之類取具之義也) ウマハ(馬人也) ウマハトチャ(等也、似
与多五音通) イトコハモ(從父兄弟也、武内与能羅者共臣下也、親昵之由也) イトコドチ [○イサ
アハナ、ワレハ、タマキバル、脱カ下の注は、阿曾云々の注に續くべきか] (我所陳之宇縣者、爲勝地
之由褒美也) ウチノ(宇治) アソカハラノチハ(阿曾所名也、河原地也) イサコアレヤ(砂在也、言如
張玉有沙也) イサアハナ(謂合也) ワレハ(我也)

哥意、ワガ陣ヲトルハ勝地也、武内トタ、カハント也

時武内三軍号令曰、各弦 髮中ニカクシ、木刀ヲ佩リ、皇后之命ヲ 擧テ、忍能王ヲ 誘曰、吾天下ヲ
勿貪、タマ懐ニ幼主ニ君王ニシタガハンモノナリ、豈距戰ヤ、爾ハ其弦ヲタチ、兵ヲ捨テ、与連和焉トテ、
斷弦解刀、河水ニ投入、忍能王其誘言ヲ信テ、悉解兵斷弦河水ニ投、爰武内弦ヲカケ、價刀ヲハキ、河
ヲ度テス、ム、忍能王退ク、武内道之逢坂ニテ破ツ、故其處ヲ曰逢坂、サ、ナミ栗村ニ及多キル、血流溢、
故コレヲ惡テ今ニ至迄栗村ノ菓ヲ禰所ニ不進、忍能王無所入、五十狹宿禰ヲ喚テ歌曰

イサアギ(欲_レ讀_ニ五十狹茅_ノ之發語也) イサチスタネ(五十狹宿禰也) タマキハル(玉城張也) ウヂノ(宇治) 阿曾餓(河名) カブツチノ(餓名) イタデ(痛手也) オハズハ(不_レ負者也) ニホトリノ(水鳥ナリ、倍与_レ没五音通) カヅキセナ(沉也、言如_レ鳥之可_レ入_レ水也)

共沉_ニ瀬田濟_ニ而_レ死_ニ、于_レ時武内歌曰
 アフミノミ(近江海也) セタノワタリニ(勢多) カヅタトリ(沉鳥也) メニシミヘネバ(目不見也) イキドホロシモ(不_レ知_ニ行處_ニ也)

於_レ是探_ニ其屍_ニ而_レ得_レ也、忍熊王ヲ鳥ニタトフ
 數日之優ウチ川ニ出、武内哥曰

アフミノミ セタノワタリニ カヅタトリ タナカミスギテ(田名上河与_ニ宇治河_ニ一流ナリ) ウヂニトラヘツ(於_ニ宇治_ニ因_ニ之 一本治作_レ道)

忍熊王ノ屍ヲウヂニテトリ得ルト也

丸云、タマキハルヲ、勝地ノ註如何、只ウヂノ枕詞ナリ、又イキドヲロシモノ註ヲ、不_レ知_ニ行處_ニト付タリ如何、コレハ忍熊王ノ屍ヲ未_レ見ハ、イキドヲリテ思フト云心ナルベシ、體憤ノ字ナリ

ニアシヒキ 日本紀十三卷、允恭履中天皇廿三年春三月、木梨輕皇子ヲ立テ爲_ニ太子_ニ、容姿佳麗、同母ノ妹大娘皇女亦_レ美妙也、太子ツネニ念_レ合_レ罪ヲ畏テ歎ス、然_ニ感_レ情_ニスデニ盛_ニシテ死_ニベクナリヌ、徒_ニシ

ナンヨリハ、罪アリトモトテツキニアヒテ思事少ヤム、因_レ似歌曰

アシヒキノ(足引也、私記曰、言山行之時、引_レ足而歩也) ヤマダヲツクリ(作_ニ山田_ニ也) ヤマナカミ(山中也、欲_レ讀_ニ下_ニ通_ニ之發語也) シタヒヲ(土下度通也) ワシセ(謂度也、或說謂_ニ移走_ニ也) シタナキニ

(下泣也、言忍泣也) ワガナクツマ(言輕皇女戀也) カタナキニ(固片泣也、或說、不_レ流_レ涕而泣也、或說、獨泣謂_ニ之片泣_ニ) ワガナクツマ(我泣妻) 去_レ會_ニ(其義未_レ詳、或說、重點也、至_レ誠心_ニ之由、私記

曰、鐘如謂_ニ与倍_ニ、古曾、案、古事記作_ニ許存_ニ許曾_ニ、又案、鐘音存_ニ因_ニ反_ニ、礼云、進_レ戈者前_ニ其鐘_ニ、鄭玄曰、鐘存_ニ下云_ニ) ヤスクツヤフレ(安轉也)

几哥意者、如_レ通_ニ下_ニ通_ニ之水_ニ忍戀之心、密通之後、聊休之由也

丸云、源氏物語ノ匂宮ノ、女一ノ宮ニ心ヲカケ給シハ、是等ヲ下ニアテ、書載、〔頭注。但同母妹トアルハ皇子ノ嬖賊〕又足引ノ山ノ説、此私記ノ義正説タルベシ。芦ヲ引テツミカサネタルガ山トナルト云説如何、照日來モアシ、山ハ成効ノ泥ノ波ノチカタマリタル形也、又一角仙人ノスベリタルハ經説ナリ、允恭ノ御時イマダ聖教ハワタラスニ、此哥ニアルベキ義ナシ、日本武尊ノ、御足ヲイタミタマヒシ説、更ニアタラヌ事也、此山ヘノボルニハ平地ヨリ歩ニクキヨリ、足ヲ引トアル義ヤスノトキコエテ可_レ然、猶_レ案ヲメグラスニ、ヤマトハ、山ノ跡也、上古ハ山ニ住タルニヨリ、人ノ足跡多アルニヨリテ、日本ヲ「ヤマト」、云トアレバ、必足ヲ引ツル事ヲ云ト心ウルヨリ、只足跡ノ多引山トミテ甚_レ可_レ然也、又此哥ニ「ヤマナカミ」ノ注ニ、山中トアリ、

コレハ山水ミナルベシ、「ワシセ」ハ定カスノ説マサルベシ、カタナキハ片戀ノ心ニ、ワレノミナクノ謂マサルベシ、コソノハ、ツネノテニハノ「コソ」ナルベシ、ヤスタツヤフレハ、大娘皇女コソ安ク、ツヤノ月日ヲフレ、ワレハ片泣ニ泣ト云、一首ノ心ナルベシ

一アマトフカル 允恭天皇廿四年夏六月、御隨蒸汁漿以作氷、天皇アヤシミ給フ、卜者ノ曰、内亂、親相好乎、時ニ木梨輕太子ト輕大娘ノコトアラハル、太子ハ儲君ナレバツミスルコトヲエズ、皇女ヲ伊豫ヘ流ス、時ニ太子哥曰

オホキミヲ(大君也、謂皇女也) シマニ(伊豫嶋也) ハフリ(葬也、言配流也、私記曰、古謂配流ニ爲イ葬、或説、遠流同死罪之故也) フナアマリニ(二餘也、離与多同聲也、兩度也) イカヘリコンゾ(生反來也) ワガタ、ミ(我疊也) ユメ(努也) コトヲコソ(別也) タ、ミトイハメ(疊言也) ワガツマヲ(我妻也) ユメ(努力也)

凡歌意、輕皇女配流ト云トモ猶カヘリ來ベシ、其間皇女トネタル疊ヲバ他人ト數ベカラズト云義也
裏書云。吾疊三重乃原之確裏尔如是體跡鳴河蝦可物

又歌曰

アマトブ(天飛也) カルヲトメ(輕乙女也) イタナケバ(痛泣也) ヒトシリヌベミ(人可知也) ハサノヤマノ(名所也) ハトノ(鳩也) シタナキニナク(下泣也、謂忍泣也)

哥意者、皇女遠旅之間、涕泣之聲高者、若人聞之擊心歎、如彼山鳩可忍泣之由也

丸云、此心ヲカクル人ノアラシカト云註如何、アマトブカルトツマクルハ、鳩ヲカケタル也、イタナケバ、輕乙女ノ痛泣也、此泣ヲ悲ク思ヘドモ、ワレモサヤウニナカバ人ガシラント思ヒテ、ハサノヤマノ鳩ノ如ク、太子モ下ニナクト云心ナルベシ、幡舎ノ山、國未勘

裏書云、天飛也轉路者・天翔哉轉路從・安麻等夫也屬ヲコレヲ万葉ノカキヤウ也、日本紀ニハ阿摩備

一アキツ野

雄略四年秋八月、吉野宮河上小野ニ御狩ニ行幸、蛇來テ天皇ノ臂ヲクラフニ、蜻蛉忽然ト來

テ其虹ヲ將去、ヨロコビ給テ群臣ニ哥ヨメトアレ共、蜻蛉ヲホムル哥タレモエヨマザリシニヨリ、天皇曰

ヤマトノ(大和也) ウムラノタケニ(嶺也、名所也) シ、フスト(鹿臥也) タレカ(誰也) コノコト(此事也) オホマヘニ(御前也、謂天皇也) マウス(奏ナリ) オホキミ(大君也) ハフコヲ(昆兒也、言以鹿兒昆兒也) キカシテ(聽也) タマ、キノ(珠時也) アクラニ(胡床也) タ、シ(立ナリ) シヅマキノ(施都卑也、以如藥麩卷成之胡床也) アクラニ(胡床也) タ、シ(立也) シ、マツト(鹿待也) ワガイマサバ(我居坐也) サキマツト(狹猪待也、師説、古語呼猪言佐井) ワガタ、サハ(我立也) タダフラニ(竹原也、俱与加五音通也、符与波又五音通) アブガキツキツ(蛇來來也) ソノアブヲ(其蛇也) アキツ(蜻蛉ナリ) ハノクヒ(早蟬) (丸云、蜻蛉羽ノ蟬也) ハフムシラ(昆兒也) オホキミニ(大君也) マツラフ(謂仕也) ナガ、タハ(名形也) ヲカム(置也) アキツシマト(秋津以日本也) (一

本ハフムシモト云ヨリシモカヘタリ。カクノミト(如ク此能美也) ナニ(名也) オハント(負ナリ) ソ
ラミツ ヤマトノクニヲ アキツシマト(處見日本國、於秋津島也) イフ(称也)

因讀ニ蜻蛉一名此地爲ニ蜻蛉野

凡御哥意者、君臣出ニ狩場、君者立玉床、臣者居卑床、(志津蔭胡床是也) 蜻蛉之蟬、虻之条、昆虫ニ皇威ニ之
間、讀ニ蜻蛉之有情、欲傳名於後葉之由也、仍号ニ其地於秋津野

丸云、或書ニ、昔神武天皇富士山ニノボリミタマヘバ、東ハ廣ク、西狭ク、良ヨリ坤ニヨコタハリテ、蜻蛉ノ
形ニ似タルニヨリ、日本ヲ秋津嶋ト号トミエタリ、此虫ヲトシバウト云モ、東方ト云心ト云ミ、今爰ニ雄略ノ

御哥ニハ、ヤマトノ國ヲ、アキツシマトイハントアレバ、日本ノ名ヲアキツシマト云ハ、是ヨリ始トミエタリ、

サテコソ、其所ヲアキツ野ト云ト有、然バ神武ノ富士ヘノボリタマヒテ、付給ト云説、出所不レ燿、向後不レ可
レ用之乎、但仁徳ノ御哥ニ、秋津島ト日本ヲアツバシケリ、雄略ヨリ先皇也、シカレバ只今ノ蜻蛉ヲホメ給テ、

日本第一ノ虫ノシワザトホメタマフニヨリ、其所ヲ只秋津嶋トイヘ、トヨミ給シヨリ、此野ノ名トセルナルベ
シ、出所ハ未レ見トイヘド、秋津島ト日本ヲ云事ハ、蜻蛉ニ似タルノ説、正義ナルベシ

一アハレイカニ草葉ノツユノコホルランアキカセタチヌミヤキノ、原

此義マテノナレド、只今ミン跡ノ草花ノ露ヲ、コボルラントヨメリ、此外不レ用 ヤガテ多ノ來ラントシル
ノ心也

一アケノソ本舟 宗祇云、新キ舟ハ久ナレバ赤色ソフ物也トアリ、例ノツカヒ太刀ノ説ナルベシ

丸案ニ、丹ヲヌリタル舟也ト云説可レ用、「ソホ」ハ「ヨソホヒ」ノ上略也

一アマノコハ 寄遊女ニヨム也

白浪ノヨスル汀ニ世ヲスグスアマノコナレバヤドモサダメス

タレトナクウキネヲシノブアマノコモオモヘバアサキチギリナリケリ 家産

一アフサキルサ 宗祇云、右様左様ト云

春ハタマヤマデヲ行モ野ヲ行モ花ゾニホヘルアフサキルサニ

一説、往様來様ト云心云々

一アサナケ 「ナ」ハ添字也、又愚句ニ(宗祇ノ事也)

朝ナケニサシソフ春ノ光説トシ侍ハ、春日ノ末社ニサナケノ御社ト申、左投ト云ヲ立コメ侍

一アサニケニ 朝尔食ト云、朝ノ食・夕ノ食也、「ケ」ハ器ノ字歟、器トイヘバクヒモノ、事ニナル也、家

ニアレバケニモル飯ヲ、箭ノ字カリテカケドモ、正字ハ器ノ字ナリ、誰モ朝夕食ヲバタヤサズ、故ニ必食ノコ

トナラネドモ、常住ノ事ニハ「アサニケニ」ト云詞ヲ用ナリ。万葉ニ

イカナラン日ノ時ニカモワギモコガモ引ノスガタアサニケニミン

一アフナク ヤウノト云義ナリ、又アラウヤノト云義モアリ、是宗祇ノ説也

第十九 アキアハ

1111

丸案ニ、是例ノツカヒ太刀鯨、只常ニ伊勢ニテ沙汰スル如ク、懸ニト云心也、定家卿「フ」ノ字ニ濁ヲサ、ル、シカレバ「フナ」トヨムベシ、懸ノ心ヲ「フナ」ト云ベキ義ナシ、アブナキト云詞コソ懸ニハヨク叶侍レ、アヤウキ事ヲバ、ソサウニ人ノエセヌモノ也、唱テモ濁タルハキ、ヨキヲ、末代耳イヤシクテ、結句アシキヤウニ思テ、清テヨミ來レリ、定家卿 聲ヲサシタルコトナレバ、向後ハ「フ」ノ字濁テヨミ侍ベシ、キ、ナレタラバ「フナ」一段ヲコナルベシ

一アマソ、キ シゲクフルヲ云、祇説ナレドモ不レ叶、今川了俊説ニハ、水ノウヘ、フル雨ノトハシルヲ云ヤウニ侍與、ソレモ不レ叶、タマ瀧ト云字ニテ、水ソ、グナド同心ナリ、雨ノフル時ナリ

一アナジフク 大和ノ穴師山ニ吹風也、アナシト云風ノ名ニナル也、巽カラ吹風ヲ云也

一アタラ夜 新夜又堂夜也、オシム心也

一アマサカル 筑前國ニアマザカルト云名所モアリ、惣別ハヒナノ枕詞ナリ、天サガルトハ天ヲトヲクミレバ下ヘサガリテミユルト云心、又天離トカケバ「カ」ノ字ヲ清テ遠ザカルト云心、正義也

一アテムラ駒

ヤマノハニアテムラ駒行ナレド我ハ左夫思惠君ニシアラネバ

白駒ノ日ノカゲトテ日駒ニタトフル例ニテ、此哥山ノハニ日影ハ出行ドモ、君ト居ザレバ我ハサムシト云義ナリ、奥義抄ニハ、山ノハニアテムラ駒ハアルナレドワレハサムシモ君ニシアラネバ、カヤウニ古ヨリアレド、

袖中抄ノ顯昭説尤ナリ、駒ノ字ヲ「サハギ」トヨムベシ、左夫思惠ハサヒシトナリ、アチノ村鳥ハ多サハゲドモワレハサビシト也、駒ハヒガゴトナリ

一梓弓末中一伏三起 暮三伏一向夜 丸云、弓ハ末ライハンタメ、三伏一向夜ヲツクヨトヨムハ、小兒

ノ、竹ニテ、ツキト云コトヲスルニ、手ノコウノウヘニテ、竹ノアラ面ニナル事アルニタトフルナリ、コレヲダト云、竹六本アリ、ソレハタムルモノニアラズ、タムルハ弓ノ事ナリ

一アサモヨヒ

朝モヨヒキノ關守ガダヅカ弓ユルストキナクマヅエメル君

天平勝賢五年春二月於左大臣橘卿之東家宴飲諸卿大夫等、アサモヨヒ アガモヘルキミ 其情奈何、式部卿石川卿説云、古俗ノ語稱、朝炊レ飲因レ是將ニ曰ニ紀伊國一破言以爲ニアサモヨヒトニ耳云云、爰ニ知古哥ノ難義、先賢發疑、况後代愚叟無由ニ據勘ハ、聊合首尾ヲ頗以會尺云云。コレハ万葉ニ人丸ナドノシロシメサヌコトヲバ石川卿ニトヒタマフニ、今自見シテ師傳ヲセヌ哥人ハ、アサマシキコト、云事ナリ

アサモヨヒキヒト、モシモマツチ山ユキクトミランキヒト、モシモ

アサモヨヒキノ川ユスリ行水ノイツサヤムサヤイルサヤムサヤ

イツサヤムサヤ、是ハ句ノ切處アリ、出サ、止サ也、アサモヨヒキトハ、アサ毎二人ノ飯カシグ時ノ木ナリ、朝毛吉ト云ナリ、アシタニモヤシテ、ヨキ木トイフ事ナリ、又タヅカ弓ノコトハ 昔女ノ夢ニ我遙ナルトコロ

ニ行ン、形見ヲトメメントテ弓ヲノコス、ミルニ女ハナクシテ、枕上ニ弓アリ、ソレヲアケ暮愛スルニ、此弓百鳥トナリテ、雨ニ飛去、シタヒ行ニ、紀伊ニ到テ又人ニナル、サテ此哥ヲヨム、イツサヤムサヤトハ、狩スル野也云々、又曾丹歌

枕ナルヲフチノマユミ、ル時ゾイモガテカゼハイト、戀シキ

ヲフチハ陸奥ノ名所ナリ、一説ニヲフチノマユカキト云リ、顯昭ハ、コレモ面白説ト云リ

丸案ニ、此説ハ難用、曾丹ガ心ヲ推スルニ、女ノ弓ニナリタル例ヲ以、ヨミタル哥ナルベシ、奥州ノオフチヨリ出タル弓ナリ、又万葉ニ

アサモヨキカタ行君ガマツチヤマコユランケフゾ雨ナフリソネ
カヤウニ「ヒ」ノ字ヲ略シタルモアリ

一 アヲニヨシ

アヲニヨシナラノ家ニハ万代ニワレモカヨハンワスルト思フナ

日本紀第五、崇神ノ御時、軍兵草木ヲフミナラシタルヨリ「ナラ」ト云、其時官軍ニ、青瓷ノ器ニ酒ヲ入テノミタリ、其軍勝タルニヨリ、アヲジノモノヨキナラトツマクトモ云リ、アヲジノニト云アヤマルト云々。清輔ハ、モノ、色ヲ云ニハ、丹青ヲ宗トス、サレバ畫圖ヲイロドルニモ青ト丹ナリ、而平城新都ノ目出ヲホメテナリ、又万葉ニナラトツマケヌ哥モアリ

クヤシクモカクシラマセバアヲニヨシクヌチコト、ミセマシモノヲ
又青幣ヨシト云、ニギテノナラ、トサガリタルヲミテ、アヲニヨシナラトツマクト云。又袖中抄ニ、万葉集云

昔ナラ坂ニ、アヲキ地ノアルヲ取テ、繪ニツカヒタルニヨリテ、カクヨメル云々

丸案ニ、万葉ノ註ニアル歟、委丁考ト顯昭ノカケルマ、即日本紀第五崇神天皇ノ時、植安彦ト合戦ノ所ヲミルニ、以忌免^{イニハ}鎧^{カウ}坐^マ和珥^{ワヰ}武鏡^{ムツキ}坂^{サカ}上^ノ則卒^ス精兵^{セイヘイ}進^ス登那羅山^{トナラヤマ}而軍^シ之^ヲアリ、コレヲ忌免ハ青磁ノ器、ソレニ酒ヲ入タレバ、アヲニヨシト云ト申説、甚難用、其時草木ヲフミナラスニヨリ、ナラト云トハ髓ニアリ、アヲニヨシト云ベキコトハ、少モミエズ、只万葉ノ丹青ノ説ヲ可用也、但此万葉集トコ、ニ曹ハ、袖中抄ニ万葉ノ抄ト云心歟、万葉集ニハサヤウノ註ヲバカ、ズ、コ、ニ釋日本紀トテ、日本紀ノ和哥ヲ委尺タル書アリ、仁德天皇ノ皇后ノ歌ニ

ツキネフ山シロ川ヲミヤノボリワカノホレマ(者心也) アヲニヨシ 下略

私記曰、師説、檜木^{ヒノキ}之葉^ノ色如^シ青玉^ノ、故^ニ喻^フ之^也、或説、昔饒速日自天降^ル、見^ル乃樂^ノ之地^ニ、蔓菁^ノ繁^ク無^ク故^ニ欲^フ言^フ乃樂^ノ之^也、有^ル此^ノ發語^也

丸案ニ、此饒速日神ノ時ハ、ナラノ名アルベカラズ、モシ大和國ヲサシテ云ルカ、惣國ヲサシテノタマフヲ、今ナラノ一所ノ枕詞トハ定難シ、又ナラト云名ノサキニ別号アルカ、崇神ノ時、軍兵フミナラシ、ヨリノ詞ト

云ニ不相叶ハ、或説ト云バカリニテ、何ノ本ト云出書ナケレバ難ニ信用ハ、タゞ丸ハ、私記曰、檜木ノ葉ノ色ヲホメテイヘルト云議、諸々ノ中ニハ第一カト存、私記ニハ、青玉ノ如ト書タレドモ、ソレニテハ青バカリニテ「ニ」ノ字ノ心ウスシ、瓊ノ字ニテヨクキコエ侍ル、瓊ハ玉ナリ、アヲキ玉ノヨキト云褒美ノ詞ナリ、數百年ノ歌人ノマトヒ今爰ニハラシ侍ル

歌林樸楸第十九卷畢

歌林樸楸

第二十

〔ア〕

一 帷屋 幕ナドニテカリヤヲスルヲ云

一 海手古良 師氏大納言集

一 赤毛 止雨 祈雨 禁秘抄ニアル事也

一 白馬節會

一 庵室

一 アマノスサミ スルワザヲ云也

一 アマノマテカタ 兩説、貝ヲサシトル、倭成説。アマノシホヒガタニ塩ヲマクト云、清輔説。イツレキ

ヒマナキ事ニヨメリ、和式部。海人ノマクカタトヨメリ

一 明ヌヘク千鳥シバナク白妙ノ君ガ手枕イマダアカナクニ 此白妙ハ衣ノコトナリ

一 アレマクラ

スガハラヤ伏見ノ里ノアレマクラユフカヒモナキクサノ霜カレ

ヨヲヘテハウキネノトコノアレマクラ鶺鴒ゾナクナル池ノ氷ニ

右兩首トモニ家隆ノ哥也

丸案ニ、荒キ枕賦

一朝驚狩 鷹場ノ朝、カヘリ行モ春ナリ、春ハ胡ナラデハ鷹ガリニハ不出也、宗祇説也

一アヤメ草綱モスサメス

オフレドモ駒モスサメズアヤメ草カリニモ人ノコヌガワヒシキ 躬恒

顯昭云、世俗ニハ不許容ヲ「スサム」ト云テ、哥ニハ許容スルヲ「スサム」ト云ナリ、アヤメハ馬ノクハヌモノ也

丸案ニ、二様アリ、不許容ヲ「スサム」ト云ハ、始ハ温ナル氣ノアル物カ、末ノサムルト云義ナリ、スタルヤウノ心ナリ、スタルモ長モノヲ持クルニ、カタラネバ末ノ下ヘ垂ルナリ、ソレヲバモチコダヘヌナリ、又許容スルヲ「スサム」ト云ハ、ス、ムト云詞也、「サ」ト「ス」ト同音ナレバ、ス、ムヲ、スサムトモ云ナリ、サレバス、ミイサム心ナリ

一アカシノウラノ嶋 ホノトノ歌

顯昭云、顯輔被申シハ、公任卿三年之後、始案得云ミ、何事ノ不審ナリケルコ賦、或人云、明石浦ニ無レ島、陸路云、淡路賦、又云、ソレハ一國也、嶋カクレ行舟トハヨムマジキ賦、今案ニ、明石ノ沖ニハクラカケ嶋・フタゴ嶋・ミナヲ嶋、此三近相双テ、沖ヨリコグ行ホカケ舟トモノ、此小嶋トモニ、カクレアラハレ行ナルベ

シ、或人、舟、ヲシニラス、心ヲソヘタリ、トイヘリ、アシ、

丸云、公任卿三年之後始案得トノ給事ヲ、三年マデハアマリノ事也、何事ヲカトノ給シハ定家卿ト世ニ云傳今爰ニ顯昭ノカケルハ顯輔ナリ、定家ニテモマシマセ、顯輔ニテモマシマセ、是ハカヘリテ愚ナル詞ナリ、此人等ノ安得セラレシ分ヲ、公任サシヨリ知テ、ソレヨリ重々段々ヘノボリテ、三年以後ノ義理、イカヤウトモ知人ナシ、若曹モトマメヲカレシ事ナラバ、カホドノ讓ヲ何トテ三年マデハカ、リテ案ジ給シゾトイハンモコトハリ也、人丸ノ内證、公任ノ了智、後人ノ及所ニアラザルベシ、智門ホドタカキモノハナキヲ、後人ノカヤウニ我知タルヤウニイハレシハ、努々ウケラレヌ事也、唯佛與佛ノ妙理ハ、菩薩モシロシメサズドコソ

一アシツ、

ナニハガタカリツム芦ノアシツ、ノヒトヘニ「○モ」君ガ「○ヲ」ワレヤヘダツル

奥義抄、芦ノヨノ中ニ、ウスヤウノヤウナル皮也、ツ「○」ヨクウスキモノナリ、サレバアシツ、バカリノヘダテモ我心ニハナシト詠ナリ。顯昭云、其皮ハ竹帛トテ竹ニモアリ、昔ハソレニテ文ヲ書リ、其帛字ハ「キヌ」トヨメリ、ツ、ト云ベカラズ、アシツ、ハ簡ナリ

丸案ニ、後撰ニ、ヒトヨモ君ニトヨミ、アシツ、バカリノヘダテモ我コ、ロニナシ、トヨメバ中ノウスヤウナルベシ、ツ、ハ簡字也、清テヨムベシ、然而、顯昭ノ、タマヘルヤウニ、簡トバカリ心得テハ、一夜ノヘダテナドヨミガタシ、一夜ハ、一重ヲトリナヲシテヨメリ、コレハ竹帛ヲ、チキレズ、破レズ、ヨクコシラヘトレ

バ、筒ノ如ニヌケ出ベシ、サレバアシツ、トイハンニタガフベカラズ、ツ、ト濁ハワルシ

一 アヘタチハナ

ワギモコニアハデ久シク馬下ノアベタチ花ノ若生ルマデ

万葉ニ 阿倍橘、 尔雅云橙、和名 安倍太知波奈、 似袖而小者也、 一説、橙ハ 宅耕反、タウトヨム、 訓ハアマタチバナ也、 陳皮ニハ不用之、 橘ヲトラントテ橙ヲトルト云ハ愚ナル事ヲ云ナリ

丸案ニ、馬下ノアヘハ名所歟、 又ムマキ舌ノ粘トツマケタル歟、 橙ヲダイノト道王ノカ、レタルモ相違ナリ、 余雅ニ袖ヨリ小トアリ、 陳皮ニトラズトアレバ蜜柑ノ内ニアルトミエタリ、 柑子ナド云モノニヤ、 コレハミカンホド甘カラヌヲ、 アマ橘ト云モワケナキコト也、 但熟スレバ甘ニヤ

今案ニ、万葉ノアヘ橘ハ、アメノ如クアマキ橘ナレバ、蜜柑ナルヘシ、 尔雅ニ橙ヲアベタチ花トツケタルハ、アヤマリナルベシ、 コレハダイノナルベシ、 似袖而小ト云コト、 カラノ説ナラバ、 ワルキミカンノ類ナルベシ、 和名ノ籙ノツマキナラバ、 コレモアヤマレルナルベシ、 トカク哥ニヨメル万葉ノアヘ橘ハ、 橙ニハアルベカラズ、 名所ノ安倍ヲ、 粘ノアマキニウケテヨメバ、 蜜柑ト心エテスム也

一 アマノナハタキ

思キヤヒナノワカレニオトロヘテアマノナハダキイサリセントハ

健ニアラズ、タグル也、日本紀ニモ、万葉ニモ、梓籙ト書リ、公任ノ問答抄ヲバ世ニ歌ノ論議ト申、ソレニモ

此歌ヲ尺スルニ「クル」ト云コトヲ「タグ」ト云モ田舎ノ詞也、手ニテ引ヨスルヲタグト云其義也ト云々、其籙ルハツリ籙ナリ、古今ニ

イセノ海ニアマノツリナハウチハヘテクルシトノミヤオモヒワタラン

此歌アマノタグナハト書タル本モ有、ソレハアミニ付タル籙ナリ、ツリ籙ニハアラズ、網引籙ナリ

一 アラヒトカミ

アヒオヒ、又オヒアヒトモアリ

天クダルアラ人ガミノオヒアソビ思ヘバヒサシ住ヨシノ松

顯昭云、マサシク人ノ神トナルヲ云ベシ、後拾遺ニ八幡ヲ

スベラギモアラヒトガミノナゴムマデナキケル森ノ時鳥カナ

續詞花ニ、北野ニヨセ奉歌

思出ヤナキ名ヲ立ハウカリキトアラヒトカミモアリシ昔ヲ

万葉長歌ニ、住吉ノ荒人神トヨム、但今ノ歌ニアマクダルトアルゾオボツカナキ、又日本紀云、現人ノ神、アラ人ガミ師説、神ノ白稱スル号也、治部卿在原景曰、此事可指天皇而言也、公望案、假名日本紀可謂上帝之号、又云天神アマツヤシロ、地祇クニツヤシロ、人神曰鬼、オニハ隱音也、訛也、故左京兆被申、住吉神主云、住吉モトハ三社也、第四ノ社ハ玉津島、後ニイハ、レ給、仍好和哥云々、安法ガ天クダル哥ハ、詠衣通姫歟。奥義抄ニアラ人神ハ地祇ナリ、或物ニハ惣而地神ヲアラ人カミト名付云々、今云、然バアマク

ダル詞如何、又日本紀ニ天神地祇之外學ニ現人神如何、但現人神モ天ニ上リテアマタダルナルベシ
 丸案ニ、右条ニ未ニ落居、是ハ公望ノ帝ノ号ト云ニ付テミレバ、衣通姫ニモアラズ、底津・表津・中津等ニモ
 非ズ、神功皇后ヲサスベシ、攝津國ニテコ、ヲ住吉トノタマヒシ時ノ義ニテ、何ノウタガヒナキ歟
 一アシタツ

ユノハラニナクアシタツハワガゴトヤ妹ニコフシ(レ補一本)ヤ時ワカズナク

アシタツモ田鶴ナリ、芦ノ中ニモキレバ鶴ヲ芦鶴ト云ニ同ジ、「ツル」ト「タツ」トハ同物ノ内ニカハリ目アリト
 ミユ。順和名ニ、鶴ヲハ「ツル」トツケ、鶴ヲバ「タツ」トツケワケタリ、文字モヨミモ別ナレバ同ジモノトハサ
 ダメ難シ、サレドモ歌ニハ鶴題ニ「タツ」トヨミテモ不レ苦、醫師ナドコソ藥性ノカハリメアリヤト、其形ヲトヒ
 キハムベケレ、歌ハ差別シテ用ナシ、イカサマツルノ一類ナレバコソ「タツ」トハ名ヅケタレ、田ニヨリテ居ル
 ツルト云心ニテ、タヅト申トミエタリ、同鼠ノ野ニアルヲ「ノネズミ」ト云類ナルベシ、ヨクシレル人ニトヒタ
 ラバ、箸カ羽ニカ、少ノカハリ目ノアルベキナリ

一扇ユ、シ 昔ハ扇ヲ人ニトラスル事ヲバ忌コトニセシナリ

名ニシオヘバ頼ヌベキヲナゾモカク扇ユ、シトナツケソメケン

大和物語ニ、三桑左ノ大臣、中將ニイマソカリケル時ニ、祭ノ使ニサシテ出給ケル、絶テ久ナリケル女ノモト
 カ、ル事ニナンタツ、扇モタベカリケルヲ、サハガシクテ忘ニケル、一ツタベトナン云ヤリ給ケル、ヨシアリ

シ女ナレバヨクテヲコセテント思ヘルニ、色ナドイトキヨラカナル扇ヲ、イトカウバシウオコセタリ、引返シ
 タルウラノモトノ方ニ

ユ、シトタイムトモイマハカヒモアラジウキヲバコレニ思ヨセナン

後撰、男ノ心ツネヨリモカハル氣色ナリケルニ、サラザリケル時、心ザセリケル扇ニカキツケ、ル

人ヲノミウラムルヨリハ心カラコレイマザリシツミト思ハシ

公任卿集云、宣方中將カモノ祭ノ使立ケル、ガヒノ花カタヲ作りタリケル扇ヲ、指(スリ補)バカマニソヘテヤ
 リタマヘリケレバ

扇ヲバユ、シトノミゾ思コシケフハカヒアル形見ナリケリ

丸案ニ、班女ガ事ヨリ戀ニイムコトナルヲ、後ニハ何事ニモイムコト二人ノ思ナシタル歟

一アヌカ爲 紀女郎

アヌガ爲ワガテモスマニ春ノ野ニヌケルツバナヲミケテコエマセ

戲奴 六反云、和氣 アヌモ、ワケモトモニ我ト云詞ナリ、筑紫詞ナリ。ミケハ御食也、ツバナハ人ヲコヤス
 モノナリ。家持返シ

ワガ君ハ(〇ニ補)ケヌハコフラシタフヒタルツバナヲクヘハイヤ、セニヤス
 ワガ君ヲワレハコフルト云コトナリ

ヒルハサキヨルハコヒヌルネブリノ木君ノミランヤ和氣サヘニミヨ

一 アマノシマツ

イセノウミノアマノシマツガ砲貝ダニイトリテノチモガ戀ノシゲ、ン

顯昭云、嶋ハ只嶋也、津ハ助字ナリ、又人ノ名歟

丸案ニ、海人ノ内ニ、嶋津ト云者アリシト云説可レ然

一 アタ、テマ弓

陸奥ノアタ、ラマユミツルスケテヒカバカヒトノワガコトナラン

顯昭云、吾田多良眞弓ト書、奥州ノ在所也。能因哥枕云、アダ、ラネ有ニ神峯云々。陸奥防人云

アダ、ラノネニフスシ、ノアリツ、モアレハイタランホ○ホドナサリソネ

竄蒙ニ、アダ、ラ弓ト此哥ヲ書テ、アダチノシラマ弓ト云リ、不知ニ案内ニ歟

一 アシカラヲフネ

モ、ツシマアシガラ小舟アリキオホミメコソカルラメ心ハモヘツ○ド

顯昭云、相摸ノアシガラノ舟也、コレハ相摸防人歌也、一説、葦刈舟ナリ、一説足輕舟也、万葉ニ

アシガリノ箱根ノ、ロノ・アシガリノワヲカケヤマニ・アシガリノマノ、コスゲノスガ枕・アシガリノア

キナノ山

敦隆等ハアシ鳩ト心エタリ、部類ニ此哥ヲ葦鷹ニシテ鷹ノ部ヘ入タリ

一 アナメク

アキカゼノフクニツケテモアナメクヲノトハイハジス、キ出ケリ

顯昭云、アナ目イタト云コト也、此哥小町集ニアリ、昔野中ヲ行人アリ、風ノ音ノヤウニテ此哥ヲナガムル聲

キコユ、立ヨリテ尋キ、ケレバ、觸レノ目ノ中ニ薄出ケリ、其薄ヲ取捨テ、其頭ヲ滑キ所ニヲキテカヘリス、

其夜ノ夢ニ、我ハ是昔小野小町トイハレシモノナリ、ウレシク思ヲ蒙ヌルト云リ、サテ此哥ヲ彼集ニ入タルト

ゾ、野中ノ風ノ聲ハ浦哥ナリ、後朝葉平下句ヲ付タリ、古今目錄、小町ハ出羽郡司ガ娘ナリ、數十年在京ノ好

色ナリ、而本國ニ飯テ死去畢、古今ニ小野ガ姉ノ哥ニ

時過テカレユクヲノ、淺茅ニゾイマハ思ノタエズモヘユク

シカレバ小野ハ姓歟

一 アユノ風

アユノカゼイタク吹ラシナゴノ海人ノツリスル小舟コギカヘルミユ

顯昭云、万葉云、東風、越俗語東風謂之○安由乃可是也○今云、コチカゼ也

丸、此万葉ノ註、落字アル歟

竄蒙云、南ノ風ヲアユノ風トゾ申タル、昔今ノタガヘルニヤ、或人云、此比モ東風ヲゾアユノ風トハ申云々

丸案ニ、「ア」ハ「雨」ニ「ユ」ハ「由」字、アメヨリ歟、東風トハアマダニナルモノナリ

一 アスハノ神

ニハ中ノアスハノ神ニコ柴サシアレハイハ(○ハ袖アリ)ン飯クルマデ

上總ニアスハノ神オハス、其神ノ誓ニテ、チイサキ柴ヲタテ、祈事有ト云、俊頼悔ニ離別ト云コトヲ

イマサラニイモカヘラメヤイチジルキアスハノ神ニ小柴サストモ

一 アハユキ

シハスニハ沫雪フルトシラヌカモ梅花サクツ、ミテアラデ

顯昭云、消ヤスキ雪ナリ、世人春ノ雪ト思ヘリ、冬モ春モヨムベシ、ツ、ミテアラデハ、ツボミテアラデナリ。又

フル雪ハアハニナフリソヨゴモリノキガヒノヲカノセキニセマクニ

一 アリス川

チハヤブルイツキノ宮ノアリス川松ト、モニゾカゲハスムベキ

顯昭云、アリス河ハ、齋院ノオハシマス本院ノカタハラニ侍ル小河也、又古哥ニ

昔ニノミ(○キク)イツキノミヤノアリス川タマフナヲカノワタリナリケリ

或人云、太秦ヨリ、洪輪ヘマイルミチニアル小河ヲ云ナリ、サレバ難峨野ノ行幸ニ、ミツネニ、此河ヲ何ト云

トトハセ給ケレバ、躬恒云

イザシラズミツネハコ、ノ(○ニ袖)アリス河君ガミニキニケフコソハミレ

私云、是ハ僻事也、北野行幸之時、本院ノ邊ナルアリス川ヲ躬恒此哥ヲ詠

一 アマノスカン

中トミノアマノスガソヲタツミソギ祈シ神ハケフノ爲コソ

顯昭云、アマハ天ナリ、スガハ菅也、ソハ麻也、祓ニハ麻モ菅モ入モノ也、初句ハ中臣祓也、ナカトミノフトノリトゴトトモヨメリ、又万葉ニ

御社ノスガヘニタテルカホガ花ナサキイデソネコメテシノバン

此スカヘトイヘル瓶カト思フニ、スカト云コトハオボツカナシ、若菅ニコトカ、リタルコトノアル歟、瓶ニテハ、カホガハナタテリトイハン事如何トキコユ、菅邊ニタテルト云歟、孫姬式云、裂ニ菅麻ニ而禱神、終ニ得ニ樂於今日、禱掛ニ木綿ニ而禱社ニ未ニ知レ起ニ於誰ニ世ニ共ニ古神ノ哥也

神葉ニ木綿トリシデ、タガ世ニカ神ノキガキヲ祝ソメケン

丸案ニ、中臣ノ歌ノ註ハ、委キコエタリ、御社ノ哥ノヌホヘハ、菅邊ニハアルベカラズ、酢瓶ナルベシ、必酢ヲイレネドモ、スカメト云ツボノアルナリ、ソレヲ花イケニシテタテタル良ガ花ナルベシ

一 アマトリ

アマタユヒユタヒタユタフ雲間ヨリキコエヤスランアマ鳥ノ聲

顯昭云、雲中ニ住テ人ニシラレヌ鳥也、六月ノ晦、七月ニナルホドニ、雲中ニ集ヲ作コヲウム、風ニ其集ノヤブレヌベケレバ、ワビテナク也、其時バカリゾ、世ノ人聲ヲ聞ト云、實トオボエネド、古草拵ニシルシタレバ書載ナリ、但和名ニハ、胡鷺ト書テ、アマトリトヨミ、又アマトリトモヨメリ、又鴉子鳥ト書テ、別ニアマトリトヨミタレト別歟、アマトリトヨムハヒガ事ナリ、鴉子鳥、俗名阿止利、辨色立成云、鵲新鳥、一云胡雀、此鳥群飛如列卒之滿山林、故名鴉子鳥也、胡鷺、兼名苑註云、雲有胡越二種、楊氏漢語抄云、胡鷺子、阿万止利丸云、肥前鍋島ノ家中ヨリ、アマトリトテ足ノナキ鳥ヲ、江戸ヘモテ行ト云説ヲ聞侍、雲ニ集ヲクフト云モ無足ト云ニ付テ、サモヤト其時思ハレ侍キ、佛説ノ中ニ、サマノノ衆生アレバ、小智ニテサモアルマジキ事ト、モノヤブリノミスルモ愚癡ニシテ、ミコ視ニタボラカサル、トヒトシカルベシ、鶴アマトリ、舞則天大ニ雨フル

一 アミノハカヒ

ミナクル、(○クル)アミノハカヒノカヒモナク人ヲ雲井ノヨソニミルカナ
水ヲクマルアミト云鳥ナリ、アニトモ云、「ニ」ト「ミ」トカヨヘリ、ニヲ・ミヲ、ニラ・ミラ、ニフ・ミフ等ナリ。大アニトモ云鳥ナリ、下ニ、トブカヒモナク、ヨソニノミ人ヲミルトソヘタリ
丸云、此正字未尋

一 アナシ吹 俊嗣

アナシフクセトノシホアヒニ舟出シテハヤクソ過ルサヤカタヤマヲ
アナシ吹清見ガ關ノカタケレバ浪ト、モニテ(○モ)タチカヘル哉
無名抄云、シナトノ風トテ、中臣被ニアル風ハ、スナハチ是ナリ。顯昭云、シナトハ所名ナリ、以外ニ風早トコロナリ。日本紀云、級長戸部命、是風神也、一書云、伊弉諾尊与伊弉册尊トモ生大八州國、然後伊弉諾尊曰、我所生之國、唯有朝霧而霧滿之哉、乃吹撥之氣化爲神、号曰級長戸邊命、是風神也、經定卿歌合、月 維順朝臣

ヤマノハラシナドノ風ハフキハラヘカタブク月ヤシバシトマルト
丸云、シナドノ風ト、アナシト同風ト云註、非ナリ、或書ニアナシハ乾ノ風ト云ヘリ、シカレバアナシハ、イヌキノ風ノ名同、イヌキヨリフケドモ、シナドノ風ハ別而早キヲ云ヤウニ心得ラル、也

歌林樸樸第廿卷畢

歌林樸橄 第廿一

【サ】

一サネトコ

館企都茂播 降尔播譽辰耐母 佐祢耐據茂 阿瀧播怒介茂譽 播磨都智耐理譽

オキツモハ瀧之瀧也、吾田津姫ニダトフ、ヘニハヨレドモトハ、皇孫ノ邊ニハヨレドモ也、皇孫ヲ恨奉テトモニモノヲイハヌ也、サネドコハ實床也、鸛ハ皇孫ニヨス、瀧千鳥ハ無伴喩也、是ハ皇孫戀吾田津姫ノ一夜ニ有身ヲウタガヒ給、遂ニ又火酢芹命ヲウム、次ニ火折尊ヲウム、彦火々出見ト号母ノ誓己ニ 諭 實ニ是皇孫之胤ナリ、然ニ吾田津姫、皇孫ヲ恨テモノイハズ、皇孫此歌ヲヨミ給也

丸思フニ、小寢床也、アタツヒメノ皇孫トネタ事ナリ、アモハヌハ、オモハヌナリ、釋ニハ、鸛ハ皇孫ニヨストアレドモ、姫ナルベシ、ハマチドリハ、皇孫ノ御身ニダトフル歟、又姫ヲ鸛ヤチドリニダトヘテヨメル歟

一サトカホリタル

一作文

一サハヘナス神

一坂鳥 秋小鳥ナリ

一サヘテ サヘシハ遮也

日ヲサヘシ跡マデミエテヤマカゲノムラノキユル霜ノ下榮

一サテハヘシ、ノ夢

網兒之山五百重カクセル佐堤ノ崎左手齧齧子ノ夢ニシミユル 袖中抄ニ、サマノ了簡アレドモ、終末ニ分明

丸案ニ、是ハ先「齧子」ヲ「シ」、トヨミテガヘタルニヨリ、故人不審ヲコル也、子ノ字ヲ「コ」トヨメバ其マ、キコユ、網兒之山ノ五モジモ、皆左手ハヘシコニ縁アリテ用ニ立歟、アゴシ山カ、サデノサキヲ、五百重モヘダテシ也、名所ナリ、佐手ノ崎モ名所ナリ、左手ハヘシハ「左手」ト云網ヲ、左手ニ持ナリ、非「齧子」ニシハ過去ノ「シ」ナリ、子ハ兒也、必ワラベナラネド、ヲトナヲモ人ヲ「コ」ト云ナリ。イザヤコラナド云モ皆人ナリ、サレバサデノ崎ニテ、左手ヲツカヒシ人ヲ夢ニミル、ト女ノヨメルナルベシ

一サホヒメ 諸國圖ニ、ハルヲ染ル神也云々、佐保山ノ神ヨリ事ヲコリテ、サホヤマノ體ヲ詠哥等ニヨセテ、春ヲ染ル神トイヘリ、サアヲイト、春色ヲ云説不用。又龍田姫ノ春ヲツカサドル詩歌。万葉梅哥ニ

ワガユキハ七日ハ過シ立田姫夢此花ヲカゼニチラスナ

丸案ニ、此哥ニテ、掉姫ノ如ク春ヲ領スルトハヒガ心得歟、是ハ金刻木ノ道理ヲイヘリ、立田姫ハ秋ヲ主ル神ナリ、秋ハ金也、サレバ春ノ木ノ花ヲチラスハ、秋ノ神ノワザナルベシ、巽風モ、瓮ノ封ノ遊魂ナレバ、風モ

西方ノ金ノ魂ナリ、歌ノ心ニヨク叶ベキ義ナリ、是モ万葉ノ此哥ノ作者ニ尋聞バサヤウニヨミタリト申サルベキヲ、末代ノカナシサハ、理ニ當タル事ナレドモ、不肖ノ者ノ云事ハ、人耳ニモ不聞入ニアサマシク

一サニツラフ

散類相イロニハイデズチヒサクモ心ノウチニワガオモハナクニ

左丹類經イモヲ思フニ霞タツハル日モクニ戀ワカルカモ

サハ狭小也、サニホヘル味トモ、君トモ、紐トモツマク、少アカキカホ也、サニヅラフモ、サニホヘルモ、共ニホムル詞ナリ

旅ノ夜ノ久ナレバサニツラフ紐トキアケズコフル此ゴロ

カキツバタ丹類經君ヲイサナミニ思イデツ、嘆ツルカモ

一サクサメノトシ

今コントイヒシバカリヲ命ニテマツニケヌベシサクサメノトジ

顯昭云、コレハ後ニ人ノムコノ、今コントテマカリニケルガ、文カヨハス所アナリト聞テ、久マデコザリケレバ、アトウカタリノ心ヲトリテ、カクナンイヒツカハシケル、女ノ母ノ哥ナリ、サクサメトハ能因歌枕ニハ、シウトメヲ云、トジトハ順和名云、劉向列女傳云、古語ニハ謂老母爲負。今案勝負ノ負ノ字也、俗老女ノ名ニ用ニ刀自二字者訛也云々、然者トジハ或老母、或老女ノ名ナリ、但總而女ノ名ナルニヤ、万葉ニハ、母

トジトヨメリ、又其兒ノトジナド所々ニヨメリ、コレハワカキメニカヨヘリ、又公家ニモトジト云モノアリ、又行成削ノ書レタル後撰ニハ、丁年トアリ、丁年ハワカクサカリナルベシ、又丁年ヲバ或廿廿(○)或六十ト云事モアリ、或年トヨムベシト云リ、興義抄ニ、アトウカタリト書リ、或本ニハ東歌ノ心ト書リ、或本ニハ、アヅマ語ノ心トアリ、アトウガタリハ、アヅマ語ト同義、東ノ古語風俗ニ「シウトメ」ヲ「サクサメ」ト云事アレバ、ソレニ叶ヘル詞ヲ用ベシ。童蒙抄云、四条大納言和歌論義ニ此事云キカセン人モガナト書リ
丸案ニ、定家卿ノ僻案ニ、早草妻ノ説モアレド、只シウトメノトジナルベシ、トジハ老女ノ事ナリ、若女ノトジト云ハ、ワレト卑下ナルベシ、アトウガタリハ、アツマガタリ也、カタリハ、コトバト云心ナルベシ

一サクアラサ

櫻麻ノヲフノ下草ハヤクオヒバイモガ下紐トカザラマシヲ

顯昭云、麻ノ花白シテ、少アカク櫻ニ似タル故ナリ、又下人ノ申ハ、クラアサト云アサアリ、クラ、アサト云事歟、ソレニ「サ」モジヲ加ンコト心得ズ

丸案ニ、サクアラサヲ上略シテ「クラアサ」ト下人ノ云ナルベシ

顯昭云、櫻麻ノ麻原、是ハ麻ノ義ニ叶ヘリ、櫻麻ノ苧原トモ書リ、是ハイハレズ、麻ト苧ト別ノモノ也、苧ハ平乎(○)マヲ(○)トモ、カラムシトモ云ナリ。万葉ニ

櫻麻ノ苧原ノ下草露シアラバアカシテユカン親ハシルトモ

或ハサクラ亭ノ亭婦ノ不草トモヨメリ

丸案ニ、麻ト亭ト別モノナレド緒ニナル事ハ一同ナレバ、イヅレヲモ櫻アサト云トミエタリ、櫻アサトテ、麻ノ中ニ一種アルヤウニ心得ベカラズ、亭モ麻モ、サクラアサト云トミエタリ、万葉ノ文字ノカキヤウニテ心ウ
ルニ、櫻ト云木ハ皮ヲムキテ、カサツラニ用レバ、麻モ亭モ皮ヲ用故ニ、サクラト号シケルナルベシ、花ノ色ノ説
ナレバ亭ノ字ノ義ニ不レ叶

一 薩翁

一 薩相

カンナニハ「サイシヤウ」トハ不レ書

一 神樂波

又樂波トバカリモ書ナリ、此万葉ニカク、日本紀ヨリ出タルヨミナリ、神者ヲ佐余羽トヨム、
神樂ヲ称シ沙佐之庭ト

一 サツ人ノユツキカタケ

カケロフノ春サリクレバ作豆人ノ弓月ガダケニカスミダナビク

顯昭云、薩人武士也、薩雄モ同、サツ弓モツヨキ弓ヲ云、サト人ト云モ同音ナリ、郷人ニマギレヌベシ、万葉
ニハ、長谷ノ弓機、又マキモクノ弓機カタケ、又卷向ノ十(小輪)機ガダケトモヨメリ、白櫻山ヲモ、白月山ト
モ書、一説、雄略ノ弓ヲツキ給シヨリ、弓ツキガダケト云、ソレハ弓村也、又マスラオ・武士・薩雄同音、
マスラオハ輪ヒロシ、サツオハ武士ニカギルナリ。童蒙抄云、サツオハ五月ニ狩スル人ト云、僻事也、サツオ

ハ、シツオト云詞ナリ、「サ」ト「シ」ト同音也。昭云、サツオ・シヅオ別ナリ、シヅオハ下部ナリ、五月農人ヲ
コソサツヲメトハ申セ

丸案ニ、サツオト云ソメシヲコリハ、五月ノ男賦、又殺ノ字賦、イヅレモアラケナキ武士ノウハサ也、薩雄ノ
下ツ臨ハ死生ヲシラズ、今モ野郎トテ長キ刀ヲヨコタヘアリク也、サレバサツマ人ト云ヨリ出タル詞賦、彼國ノ
五文字ニハ、隼人ノサツマト万葉ニモヨメリ

一 サカリヨケ

一 サジキ 棧敷

一 サ、ナミ

サ、浪ノシガノカラサキサチハアレド大宮人ノ舟マチカネツ

顯昭云、サ、浪ハ近江ノ名ナリ、日本紀云、天智粟津宮ニオハシテ佛寺ヲ作ラント勝地ヲ求タマフニ、御夢ニ
沙門奏云、乾方ニ雙闕アリト、帝其朝其方ヲ見給ニ光明アリ、人ヲツカハスニウバソクアリ、帝行幸シテ此山
ノ名ヲ問タマフニ、古仙靈廟伏藏地、佐々名宮長等山云テ失ヌ、其所ニ伽藍ヲ立、今ノ崇福寺是也、此心ナラ
バサ、浪ノナガラトバカリヨムベキ事ナルヲ、万葉ニハ志賀トモ、國トモヨメリ、又天智天皇ヘ奉ル歌、少納
言長谷雄哥

サ、浪ノヨスル海ベニ宮ハシメ世々ニタエヌカ君ガミノチハ

ミノチハ、御後ナリ、日本紀ニ狹々浪粟林ト書、チイサクチイサキ浪也、能因歌枕ニ、近江ヲバサ、浪ト云ヘリ、此故ニ近江ノ外ニハヨマヌ事ト先達思ハレタリ、八条大相國哥合ニ琳賢歌

ナニハガタサ、ナミヨスル浦風ニテルミナ月モスマシカリケリ

六条修理大夫離云、サ、浪キ、ナラハズ、シガナド云テコソ、サ、ラ浪ト思ヘルニヤ、似ヌ事ナリ、但サ、ナミ・サ、ラ浪ハ同詞ノ廣略也、金葉ニ師俊卿

水鳥ノ羽風ニサハグサ、浪ノアヤシキマデニヌル、袖カナ

丸案ニ、サ、浪ト云詞必ナガラニカギラズ、近江ノ内ノ名所ナラバ可レ詠、又無理トハ存ナガラ、琳賢ガ離波ニヨメルヲ、六条修理太夫トガメラレシカバ、他國ノ海川ニテヨマン事ハ無用ナリ、サレドモ、サナミ・サ、ラナミ・サ、浪イヅレモ同ジ浪ナレバ、名所ナラヌ池澤海川ニテ、サ、ナミトヨミテモ少モ難ニハアラザルベシ

一サキタツマ

野邊ミレバ弥生ノ月ノ廿日マデマダウラワカキサキタツマカナ

顯昭云、草ノ名ナリ、故堀河源左府以ニ淺青朽葉色ニ稱ニ左伊多津万色下。綺語抄云、ワカク生タル草ノ名也。私云、ウレ葉・ウラ葉ト云也、万葉ニ

ウラワカキ(ミ)花サキガタキ梅ヲウエテ人ゴトシゲミ思ゾワガスル

草木ニ付テ如此ヨミタルヲ、ウラト云ハ「シタ」ト云人アレド、アシノウラ葉・クズノウラバ・藤ノウラバ皆ウハ葉也、下葉ハトリ出ヨムベキ事ニアラズ、又弓ノウラハズト云モ、末ノ管也。以上

丸云、虎杖ヲサキタツマト云トイヘド、連歌ノ書ナドニノミアリテ出證未見、只若草ノ異名ニテスマスベシ、
「ウラ」ヲ上ノ説、是モ草ノ葉ニハヨク叶ヘリ、サレドモ、ウラサビシ・ウラカナシ、ナド、云時ハ、上ノ字ニテ心エニクシ、幽齋法印御口傳ニ、ウラハ心ト云義也、人ノ心ト云物ハ、上ヘハミエズ、裏ニアル故也、サレバ心サビシ・心ガナシト云理也ト被仰侍ル、尤ト存ナガラ藤ノウラ葉ナド云詞ノ時ハ少モ不レ叶

丸案ニ、ウラガナシ・ウラサビシノ類ニハ裏ノ字ニモヨク叶ヘバ、心ト云理ニテ其心ヲ得、物ノウラ葉・ウラワカミナドノ時ハ、上ノ字ノ説ヨシ、ト兩様ニ分テヲクベシ、ウラワカキハウラサビシノ詞ニ用テモ不レ苦ベシ、ウラナクモノヲ思ケル哉ナドハ、心ト云ニテモフトハ不レ叶、裏ノ義ニテ心エヤスシ、表ウラナキ也、ソレモヨクイヘバ心ノ義ナリ、ウラ葉ノ時ハ大ニ違ナリ、ソレハ上葉ノ説ヨシ

一サイハリ

サイハリニ衣ハ染シ雨フレドウツロヒガタシフカクソメテバ

顯昭云、神樂ニ大前張・小前張トテアリ、サイハリハ「サイ」ハ前也、「ハリ」ハ萩也、又サイタツマト若草ヲ云モ、「サイ」トハ、チイサク新心ナリ

丸云、只「サキ」ト云コトナリ、余ノ花ヨリハサキニサク也、初萩也

イカホロノソヒノハリハラ我キヌニツキヨフ(○ラカ)シメヨセタヘト思ヘバ

上野防人歌也、日本紀波利我曳陀、師説所登之木也、是樺木也、然者「ハリハラ」ハ萩原也、又云、樺原

時ナラヌマダラ衣ハキホシキカシマノ針原トキニアハズトモ

同
タテフコノ衣スランニ匂ヒセヨシマノハキハラ秋タ、ズトモ

此二百同心也

丸案ニ、ハリ原・ハキ原ハ同ジ事ト云義ハスミ侍レドモ、樺ハ大木ナリ、萩ハ草ナリ、此哥共ニ花ヲヨメバ萩ナリ、ハリノ木ニ花アリトモ未知、タトヒアリトモ萩ノ花ニハ似ベカラズ、或人云、萩ニ木ハギトテアリ、年々ニカレズ、クキノコリテ花サク、コレヲモトアラノ萩ト云トイヘド、ソレヲ樺ノ木ト云ベキニアラズ、萩ト樺トハ各別ノモノナルヲ、只同物トバカリ註シテヲキタルハ不審ナリ、是ヲバ何トサバクベキト思フニ、萩ヲ「ハギ」トモ「ハリ」トモ云ナリ、ソレヲ万葉ニ樺ノ字ヲカリテ書タルヲ、今正字カト思ニヨリ疑出來セリ、針ト書トモ、樺ト書トモ、波利ト書トモ、皆假名字ナリ、萩ノ花ノ事ト可得心也、但大木ノ樺ノ花葉、萩ニ似タルモノ歟、山人ニヨクタヅネテミルベシ

一サ、ラヘ男

山ノハニ左佐良種壯子天ノ原トワタル光ミラクシヨシモ

アメニマス月讀壯子幣ハセン今宵ノ長サ五百夜月コソ

月ヨミノ光ニキマセ足引ノヤマヲヘダテ、トヲカラナクニ

大船ニマカヂシマヌキ海原ヲコギ出テ渡ル月人男

ユフダ、ミ行カフ天道ノイツマデカアフギテマタン月人男

イヅレモ月ノ事ナリ

一敬位 上太政大臣ヨリ、五位六位ニ至マデ、前官ノ人ノ懷幣ニハ書セタマフ事、ト和歌庭訓ト云本ニア

リ

一サクラカリ

櫻狩雨ハフリキヌ同ハヌルトモ花ノカゲニカクレン

顯昭云、「サ」ハ詞ノ助、サワタルナド云ガ如シ。万ノ長歌ニ

タナクモリ雲ハオチキヌ、左雲理アメハ落キヌ云々

此左雲理ヲモ「サクラガリ」トヨメル本アリ、雨ハ落キヌヲバ、遠(○補ナシ)モ降キヌトヨムベシ、ソレヲアシク心エテ、花ゾノヤマヲアサタバトヨムニヤ、又古ヨリサマノノ義アリ、或サトクラカリト云、或ハ狹也、チイサク少心ニテ、少クラカル(○心懸カ)或櫻ノ狩ト云心(○懸カ)櫻ノモトヘフリクト云歟、和泉式部
サキヌラシ櫻狩トテキヌレドモコノ木ノモトニ主ダニナシ

道命阿闍梨

折シマレ花ノ盛ニイキタラバ櫻ガリトヤ人ハ思ハン

花見ノ御幸ニ、實際卿

コノ御幸サクラガリトヤ思フランアナウレシゲノ花ノ景色ヤ

是等同心歟。奥義抄云、或先達ノ申ハ「サ」ト云ハ「ア」ト云詞ナリ、アクラガリテ雨ハフリキヌトヨメル也、ト申セド如何ト聞ユ、櫻ヲ尋求也、何ヲモ求ヲバ「狩」ト云ナリ、又古今ニ素性ノ哥ノ詞ニ、タケガリニ北ヤマニマカリケル、トアルハ、松茸求ニコソ侍メレ、中比ノ人ノ歌ニ

春ガスミ花園ヤマヲアサタテバ櫻狩トヤ人ハミルラン

是「サ」ト云詞ノ義ニアハズ、狩ト聞タリ。私云、花ト云義ハ此花園山ノ哥ヲ、良邊打開ニ入レタレバニヤ、アマタノ人申メリ、但アサ立テ行旅人ヲ、サクランノモトヘ來ルトヤミルラント云ツベシ、又東ニムラサキガリト云モ、紫ノ花ノサキタルニ、馬ニノリ野ニ出、弓ノハズニテヲシヘテホリトラスルトゾ申

丸云、顯昭ハ万葉ノ長歌ニヨリテ「クラカル」ト云ヲ正説ニオモヒ、タナクモリ雨ハ落キヌト云詞ト、サクラガリ雨ハフリキヌト云同詞ナリ、ト書レタルハ、左雲理ヲ「サクラガリ」トヨム流ノ万葉ノ本ヲ被レ信トミエタリ、只左雲理ハ「サクモリ」トヨメバ、何ノ疑ナシ、只此古今ノ櫻ガリノ哥ハ、櫻ヲ狩事ト中ゴロノ歌仙達ノ心得テ、雨ナクテヨミヲカレタレバ、櫻ノ字、思定ベシ、若万葉ノ「左雲理」ヲ「サクラガリ」トヨムトモ、ソレハ又別ニ「クラカル」詞ニ「サクラカル」ト云詞ト心ウベシ、雨ハ落キヌヲ遠ト心ウベキ説不レ可レ然、コレモ落字タルヘシ

一 辨サスマ

古ヲオモヘバクヤシ、メノ中ニサカキサスマハオリマシモノヲ

伊勢齋宮ニハ、イマダ男セヌ女ハ、^{オイ}辨サスオリニハキロサズ、男シタル女ハ、ヲロストナン、サレバ逢事ヲイヤシムト云題ニテ俊頼ノヨメル也

一 サナカツラ サネカヅラト同

ユフダ、ミシラツキ山ノ佐奈葛後モカナラズアハントゾ思フ

ユフダ、ミ田上ヤマノ狭名葛アルモイニシモアラシメズトモ

又櫻葛トモカケリ 本ノママ

丹波道ノ大江ノヤマノ眞玉葛^{マコト}タエンノコ、ロワレハオモハズ

又サナカツラトモヨメリ、「カ」文字ヲ略也 本ノママ

玉匣ミンマトヤマノ狭名葛サネズハツキニアリガテマシヲ

コレハ狭名ト書テ「サネ」トヨメリ、サテ下ノ句ニサネズハト詠

玉露^{カク}カケヌ時ナクコフレドモ何ゾモイカニアフ時ノナキ

ヤマ高ミ谷ベニハヘル玉カヅラタユル時ナクミルヨシモガナ

此露ト葛トマギレヌベシ、又玉楓ト云事アリ、是ハ桂也、以上袖中抄

丸云、サネカヅラハ 五味子カ、兎絲子ト云藥ノ和名也、サネカヅラ同ジ、玉カツラハ一切ノモノヲホムル時、玉トヲケバ、女ノ髪ヲモ、又草ノカヅラヲモカヨヒテ云ナリ、ソレノノ哥ニテ思分ベシ、玉楓ヲ桂也ト註スルコト覺東ナシ、日吉ノ祭ニ用ル桂ノ木ノ枝ヲ、加茂ノ祭ノ葵ニソヘテ、是ヲモロカヅラト云説アレバ、ソレヲホメテ玉桂ト云ナルベシ、玉楓ハ楓字「カヘド」トヨメバ、玉カヘデナルベシ、ソレヲイツトナクアヤマリテ、楓ノ字ヲ習テ「カツラ」ト讀ツケタルトミエタリ、自今以後不可令混亂

歌林樸楸第廿一卷畢

歌林樸楸

【キ】

一キヒナルイモヲ 應神廿二年春（丸云、春ト云迄ハ日本紀ノ卷ノ始ノ文章也）ナニハニ幸シテ大隅宮

高靈登遠望 時ニ妃兄姫西ニ望テ大ニ歎ク、（兄姫ハ、吉備ノ臣ノ祖御友別之妹）帝トヒ給、對曰、妾此比

父母ヲ戀ト、爰温清 篇 コトヲ思召、淡路ノ御原ノ海人八十人ヲヨビ、水手トシテ吉備ニ送タマフ、夏四

月兄姫大津ヨリ發船行、天皇高靈ヨリ望テ歌曰

アハヂシマ（淡路島也） イヤフタナラニ（弥二並也） アツキシマ（小豆島也、淡路嶋与ニ小豆嶋ニ並也） イ

ヤフタナラニ ヨロシキ（宜ナリ） シマ、タカ（誰ナリ） タサレアラテシ（謂在也、言誰住セル也）

キヒナルイモヲ（在ニ吉備也、妻也、又妹也） アヒミツルモノヲ（相見也）

舊事記曰、生ニ吉備兒島、次生ニ小豆島、

丸云、ヨロシキ島々タガタサレ（○アラチ島カ）シト云所註、昔ヨリ如此、誰住セルトアリ、マタサレト云詞ノ註ハセズ、「アラチシ」ヲバ「在」トセラル、「タサレ」ト云詞、住ト云心ニ不叶、丸思ニ「タ」モジヲ濁テ、出サレシナルベシ、其故ハ、兄姫ノ舟ヲミヲクラル、ニ、此島々サハリトナレバ、誰シワザニ、此嶋ヲ只今ツキ出タルゾ、トウラミ給ナリ、又キヒナルイモヲノ註ニ、吉備ニ在ト云モ心ユカズ、今海上ノ舟ヲミテ、吉備ノ

國ニアル妹ノヤウニハイカマヨミ給ハン、此「ナル」ハ在ニハアラズ、兄姫ハキビノ人ナレバ、吉備ノ妹ト名ニシテヨミ給ナルベシ、「ナル」ハテニヲハ也、ソレニテコソ御歌ノ結ビ句ノ「アヒミツルモノヲ」ト云テニヲハモヨクキコエ侍レ、ウゴカヌ嶋ヲ、俄ニサシ出シテミセヌハ、誰シワザトアルニテ、餘情新ニ侍ル、伊勢物語ノ、山モサラニ堂ノマヘニウゴキ出タランヤウニ、トアルモ此御哥ノ詞ヲフマヘテ書タルモノナラシ

一近習

一城上郡

山城

一兼色

一チクセニ

筑前也

一訓解

弘法作、神道ノ書也、「キ」トヨム、「キン」トハヨマズ

一金峯山

一近習(○重出か)

一格式

一御記

一キ、ス

顯昭云、日本紀ニ雉ヲバ「キ」シト云、「キジ」ハ詞ヲ略也、「キ」ハ異名ト云ハ僻事ナリ、此事ヲ知セン新ニ註ナリ。己上ハ袖中抄

丸案ニ、「シ」ト「ス」ト同音ナレバ「キ」ス「モ」僻事トハ云ベカラズ、キ、ヨキ詞ナル故、古人ノ哥ニヨミキタレルウヘハ可取用詞ナリ

一キビノ酒

古ノ人ノ、マスル吉備ノ酒ヤモハラスベクヌスタバラン

備前・備中・備後ヲバ吉備三ヶ國ト云、此國ニ吉備津宮ト申イハ、レ給ヘリ、又万葉(○抄)ニ黍ニテツクレル酒トモイヘリ、「ヤモハラ」ハヤム腹ナリ、イタムヤウノコト賦、貫實給ヘ、反吐セントナリ

丸案ニ、近代備前ノ小嶋酒ナド云ヤウノ名酒、三ヶ國ノ中ヨリ出タルニコソ、ヤモハラスベクハ、腹ガナヤミサウナルマ、ト云心ナリ

一北ノ藤ナミ

春日ヤマキタノ藤浪サキシヨリサカユベシトハ兼テ知ニキ

顯昭云、藤氏四家ノ中ニ、北家一ノ人ノ流也、是ヲ北ノ藤ナミトハヨメル也

フタラキミ南ノ岸ニ家キセバイマヤサカエン北ノ藤ナミ

コレハ、南園堂ノ壇ヲ築トテ、老翁ノ出來テ、人夫ノ中ニ交リテ詠、此翁ハ常説ニハ春日大明神、一説ニハ爲春日明神御使ニ率川明神築壇此哥ヲ詠。隱給畢云。或書云、閑院左大臣多爾、建立南園堂給之時、夢兒見來テ

フダラクノ南ノヲカニイホリセバ北ノ藤ナミイマゾサカエン

委見ニ扶桑略記云々、又南圓堂ハ興福寺ノ内ニトリテ南也、補陀洛山モ天竺ノ南ナレバ、ソレニヨセテヨメリ、觀音ハ補陀洛山ニオハスレバ、フダラ君トハヨメリ、此兒ノ夢無レ謂

丸云、此兒ノ夢無レ謂ト云コソイハレナキ義ナレ、カホドノ靈驗アリシ事ナレバ、現ニモ夢ニモ其瑞ナドカナカラン、又大織冠ノ息ヲ不比等ト云、其御子武智丸ヲ南家ト云、房前ヲ〔○北_カ〕家ト云、宇合ヲ式家ト云、大織冠ノ女鷹ト申ヲ京家ト云、此四家ノ中ニ冬_ノ房前ノ末ナレハ北家也、興福寺ハ不比等ノ本願也

【ユ】

一夕月夜ヲクラノ山 正徹ノ説、此歌ノ時ハ非レ月ニ夕附夜也

丸云、是ハ古今秋ノ部卷軸ニ、夕月夜ヲクラノ山ニナク鹿ノ聲ノ中ニヤ秋ハ暮ラント云哥ノ註ニ、暮秋九月盡ノ山ノ歌ニ夕月夜トハアルマジキヲ、只ヲグラノ枕詞賦ト云ニ付テ、此正徹ノ説ハ出來者也、朝月日・朝附日・夕月日・夕附日、カヤウニ附字ハ書タレドモ義モ心モカハラズ、皆月日ト書正義也、附字ハ假テ書也、万葉ニ朝月日向黃楊櫛難_{ハカフツシノノ}何然公見不飽_{ニシカヤサレカレ} 殘リタル月ト出ル日トサシ向ニヨリ、女ノカンサシノ櫛ノムカフト云枕詞ニ用タル物也、サレバ附ノ字ハカケ

ドモ、月ヲ本トス、サルニヨリ、朝附日トハアレド、朝月夜トハナシ、又夕月日モ、入日ト出ル月ト向ヲ云ナリ、夕月夜トハ、三日比ヨリ七日八日前ヲ云也、イマダ満月ナラネバヲグラキトツマクル也、朝附夜ト云詞ナキユヘニ、月ナラズシテ夕附夜ト云アルベカラズ、初心ノ連歌師ナドニ、夕附日ト夕月日ト別ニ心エタルモアリゲニ侍ル、朝附日・夕附日ト云テモ、皆月日ノ義ナリ、朝附夜ト云字ナケレバ、夕附夜ト書ヘキ理ナシ、此古今ノ歌ノ正義ニウトキニヨリ、カヤウノ新義出來ナリ、此哥ノ夕附夜ハ、初月ノヲクラキ影ニ、鹿ノナキシガ、ホドナク秋ノ暮トナルハ、只鹿ノ中乞也、タトヘバ夏ノ夜ノフスカトスレバ郭公ナク一隱ニアクルシノ、メノ類ナリ、カヤウニソコノミシツレバ古歌ニハ邪義ハ付ラレヌ物也

一ユタ ユタカナリ。万

アサカ方シホヒノユタニ思ヘラバウケラガ花ノ色ニ出メヤモ

一ユメノウキハシ 夢無端ト書、只サマノ事ノハシムトモミユル夢也、源氏一部ハ三國ノ間ノアラ

ユル事トモ少ヅ、取テ書アツメタルト云心ナリ、イカニモ秘説也

丸案ニ、夢無端ノ文字ノ出所未見、又ユメノウキバシト云詞、源氏以前ニアル事未知、只道ナキトコロヘモ橋ヲカケテユキカヨフ如ク、夢ハオモハヌ方ヘモ心ノユクコトハリニテ付タルカ、ト云説正義タルベシ

一タサレ タサレトハ、タニナレバト云事也、タサレニトモ、タサレノトモヨムベカラズ、哥ノ五文字ノ精古ノ大事トハ是也、智温連歌ニ、サヒシタミユル春サレノ山トアリ如何、多サレ・秋サレ・春サレ・タサレ

ハアリ、夏サレ。朝サレハナシ、夕去ニ三首ノ名歌アル間、今ハ夕サレトハヨマヌ也、隨風コシテ陸奥・野邊ノ秋風身ニシミテ。門田ノイナハ晉信テ是也。以上宗祇相傳

丸案ニ、夕ニナレバト云義不_レ叶、万葉ニ去ト云字ヲ書タリ、オシム時刻ハ早夕移リ去ルヤウニオボユルモノナレバ、ホメテ云ソメシ詞賦、去ヤスキト云心ヲ付テ、只春ナレバ、秋ナレバ、又春ハ。秋ハト云分計也、ナレバト云義ハワルシ、問云、賞贖故ニ春秋ニ付ル、道理ハキコエタリ、サルニヨリ夏サレトハナキニ、冬サレトアルハ如何、答云、冬ハ四季ノ終ナレバ惜ム心アルベシ、問云、夕ハアハレモフカク侍レバ、去コトヲ悲テ付タルハ尤ナリ、朝モ面白モノナルニ、何故朝サレトハナキゾ、答、朝ハアサボラケトテ、一日ノ始ニテ時刻ノオシムベキ道理侍ラズ、サレバ去ノ字付ベキヤウアラズ、昔ハ此義理ニテアリケルニヤ

夕サレノ哀ヲタレカトハザラン榮ノアミドノ庭ノ松風

慈續

カヤウニ夕サレノトモヨメリ、此歌ヲ、夕ニナレバト云義ニハ心得難シ、サレバ智酒通歌ノ、春サレノヤマモアシキニハアラズ、是宗祇ノ御アヤマリ賦、祇ハ常縁ノ傳ヲ信ジテ不_レ改人也、サアラバ常縁ノオボエチガヘナルベシ、又名歌三首アレバ今ハヨマヌト云説、甚不_レ可_レ然、カヤウノ制戒、定家卿ノ非_ニ筆跡ノ者不_レ可_レ用、ホノ_レトアカシノ浦。月ヤアラヌ春ヤ昔ト云ニバカリ侍、夕サレバナドハ、アシ引ノヤマ郭公。久方ノ月ノカツラ。玉鋒ノ道ノ類ニテ、イタタビモ不_レ苦詞ナリ、後人丸ヲアナドリテ正理ニマヨフ事ナカレ

一 ユラク ユラクハユル_ク心、又ノフル心也

初春ノハツネノケフノ玉簪手ニトルカラニユラグ玉ノ緒

是家持ヨメル万葉ノ歌也、正月初子ノ日、イマダ男セヌ午ノ歳ノ女ニ、カ_ニコノ居所ヲハカスルナリ、其緒ノ緒ノ所ハ、水晶ナドニシテカザル、子日ノ松ヲ持ソユルナリ、其緒ノユルグコ、ロナリ、面ハ如_レ此、下心ハ命ノノブル心也、子日ノ松ニテ千年ノ命ヲノブルコトナリ、此歌ヲ志賀寺ノ上人モ、戀ノ命ニ引被_レ用也、ユルグ心ノ歌

露ナガラ淺茅ノユラグ秋風ニナビキカタヨル虫ノ聲_ノ

一 ユツノツマクシ

朝マダキタブサイトナクカキナヅル神ナビクナリユツノツマクシ

公望ノ作、日本紀註云、湯津_ノ瓜_ノ、湯ハ潔齋ノ義也、今云、由紀ハ湯之義ナリ、主基ハ是其次也、湯ハイハヒキヨマハル_ト辭也、津ハ語ノ助也、瓜_ノハ其形如_レ瓜也、或説、ユツハ湯津カツラノ木ニテ作賦、ツマハ妻ノ義也、奥義抄云、素戔高尊天ヨリ出雲國ニ至リシニ、老翁老婆哭泣スルヤウ、ワレハ此國ノ守也、八人ノ子ヲ毎年ニ八岐大蛇ニノマレキ、此姫ヲ又トラルベシト云、尊女ヲユツノツマクシニトリナシテ、御髪ニサシタツ云ミ、トリナストハ櫛ニナス事歟、瓜_ノハアシキモノ、ヲツル故ニヤ、シコメニ、ヲハレテ、ニグルトテ、懐ナルツマクシヲ取出シ、打マクニ、シコメ、ヲヒコズト云リ、シコメハ鬼也、トリナスハ化ト書。又齋宮_ノ群行之時、御額_ニ帝櫛ヲサシテ曰、ミヤコノ方ニ長クカヘリ給ナ。又基俊_ノ繼哥

カツシレド猶ゾ戀シキワギモコガユツノツマグシイカマサ、マシ
一ユタノタユタ

古
イテ我ヲ人ナトガメソ大船ノユタノタユタニモノ思フ比ヲ

我心湯谷絶谷浮尊邊ニモ奥ニモヨリヤカナマシ

奥義抄云、浪ニ浮テトカクユルグナリ。万葉ハ猶豫ト書テ、タユタニトヨム、又云、寛字ヲユタトヨム、又ヒ
ロシトヨム。陸奥云、舟ニ入水ハ湯ト云、「フナユ」是也、コレヲタミスツルヲ「ユカク」ト云、ソレカク手ヲバ
「ユタ」ト云ベケレバ、大船ノユハ多カラズレバ、タユシト云心也。又万葉ノ歌ハ、フネモ尊モタユタフ也、
但長能、分別スル思ヒ哥云

ヨキコトヲユタニタユタニツクルトモ一コトヲシルマサラサリケリ

コレゾヒロキ義ニ叶也、ウキタル善事ハ、一事ヲ知ニマサラヌ也

大船ノ其ナガハマニヨルナミノ寛ニヤ君ヲ思ヒハテツル

イホハラノ清見ガ崎ノミホノ浦ノ寛ニミエツ、物思モナシ

海原ノ道ニノリテヤワガ戀ヲラン、大船ノユタニ有ラン人ノ子故ニ

一ユハタ

柏木ノユハタ染テフ小紫アハンアハジハ灰ノコ、ロニ

顯昭云、纈字也、順和名云、纈革・蘇芳革・黃櫨革・交纈革・紫革・緋革

今案ニ、スワウ・ハジ・カウケツ・ムラサキ・カラアケラノ外ニ、ユハダガハラ上タリ、色々ノ交タレバ錦革
ヲ云ベキ歟、サレド紫ノ大纈トアルハ、色々ナラネド文ヲ云歟、今ノ歌モユハタソムテフトアレバ、色ノ外ニ
別ニ「ユハタ」ト云事アルベシ、纈字ハ「タ、ル」トヨメリ、詩ニモ若纈、池ト作り、纈纈ト申モ文ニ可レ付歟、黃
纈纈ハ黄ナルヲ云也、又纈字ハ班也ト訓ゼリ、柏木ハ兵衛也、彼府ノ太刀ノ緒ハ紫革也、衛門馬寮ノ太刀ノ緒
ハ藍革也、文ハ四季ニ隨サマカハル、又玉篇ニ纈纈ト云モイロヘタル心ナリ、殺ノ字ヲ班也ト云モ同心
也、唐韻ニ纈ハ帛也ト云ハ、ハクノキヌ也、サレバユハダノキヌトヨム也、革ニテアランコトヲ不レ可レ嫌、纈
ノ障子トモ有

ムラサキハ灰サスモノヲツバ市ノヤソノチマタニアヘルコヤタレ
トシヒサニユハタノキヌヲトリタテ、神ニゾマツル君ニアハンタメ 万代マテニイ 顯季

基俊ハ、ワギモコガユハダノヒモトヨメリ、錦ノヒモト同ヤウノ心歟、又メユヒト云事ハ如何トキコユ、纈字
ニユハダク、ルト云訓ノ外未見者也

丸案ニ、ユハダト云物、色ニモアラズ、紋ニモアラズ、革ニモ不レ定、目結ニモアラズ、錦ニテモ非ズ、革ニ
モアリ、絹ニモアリ、紐ニモアリ、障子ニモアリトミエタリ、右ノ註如レ形カラノ書ヲ引出シ給ヘドモ、顯昭
モ分明ニハシラレヌ昧也、兵衛ノ官人今モ侍ベケレバ、ソレヲミテ知ベキ事ナルヲ、上代ノ如クニナケレバコ

ソ顯昭ノ時代ニモ、エシラヌヤウニ書ヲカレ侍レバ、シレヌ事ニ極レリ

丸案ズルニ、是ハシホノアル事ナルベシ、カラ革ニモシホノユキタルアリ、絹ニモチリメンナド、云ハ、シハヨリタルアリ、障子ニユハダノアルト云ハ不審ナガラ、カラ帟障子・襦障子ナドハ紋ヲ高ク雲母ニテヲキ上ニスレバ、是等ヲ云賦、其故ハ「ユハダ」ト云義ハ袖ノ皮ノヤウナルハダヘト云ヨリツケタル名トミエタリ、兵衛ノ太刀ノ紐、イヅレモシボノ行タルニ定タルユヘニ、ユハダトイヘバ、シボノヨリタルモノニ心得ラル、賦、恩ヲシラヌハ畜類ニ同ジ、歌人多ケレドモカヤウノムツカシキコトヲ書トマメテ、今ノ我等ニ智惠ヲ付給フ顯昭ノ御心根、アリ難事也、大知識也、大仁者也、此道ニ此法橋ホド功忠アル人無之、ヨミ方ニハ定家卿、歌學ニハ顯昭也、此兩人ノ御恩ヲシラヌ好士ハ冥加アルベカラズ、何ニテモ編ヲカレケル書ヲミテ、何トモオモハデ、結句アシキコトアレバ誹謗ヲナス人アリ、心得ヌ事ナリ、ヨクトアシクト書トメテ末代ニシラシメント思心ヲ感じ、一切ノ物ノ本ヲバイタマキテミルベキ事也

一ユサハリ

梅ガ枝ニユサハリシタフ鶯ヨ梅ノムバラニシリアヤ○ハ梅ヲタ

顯昭云、ユサハリハ、ユサフリト云遊也、「ハ」ト「フ」ト同音也、古今圖書云、鶯（ユサフ）（○ハ梅）リ以ニ探聞・懸・空中以爲觀也。孫姬式云、懸以笠・錦羽之用・柳絲・歌懸於枝・鶯尻之刺・梅針一本

青柳ヲカタイトニヨリテ鶯ノヌフテフカサハ梅ノ花笠

丸案ニ、今小兒ノフラコ、トテ、フゴナドニノリ、ブラサガリテアソブコト也、詩ニモ鞆トアル賦、ユサフリト云ハ「ユ」ハ結也、上ヲツヨクユヒツケル事也、「サ」ハサカル也、フリハ振也

一ユキアヒノワセ

乙女ラニ行アヒノワセヲカルトキニナリニケラシモ萩ノ花サク

顯昭云、ユキアヒノワセトハ、所ノ名ヲワセニヨミ付タルナリ

ユキアヒノ坂ノフモトニヒラケタルサクラノ花ヲミセンコモカモ

丸云、此説尤可然、色々ノ苗ノ種ノ交テ、行アヒ次第ナル、ト云説ハツクリゴトナルベシ

一ユフツケ鳥

相坂ノユフ付鳥ニアラバコソ君ガユキ、ヲナクノモミメ

顯昭云、世ノサハガシキ時、四境祭トテ公ノセサセ給ニ、鶯ニ木綿ヲ付テ、四方ノ關ニ到テ祭也、此歌ハ中納言源昇朝臣ノ近江介ニ侍ケル時ニ、關院カヨミテヤリケルナリ

丸云、關院ノ下ニ、人ノ名ニ關院ノ中ノ誰トアルベシ、關院ハ所ノ名ナリ、四境祭ノ事、イツノ御代ニアリシコト、云コトヲ未勘、四境ト云ハ東ハ相坂、南ハ木幡、西ハクスハ、北ハクラマ也、ナラノ京ノ時ハ、立田・須磨トバカリニテ、今二方ノ關モ申サレズ、人ノカタラレ侍レドモ、タシカナル出所未見バ疑多侍ル、或謂云、鶯ハ不見跡トナク、故ニカレガ尾ニ四手ヲカケ、關ノ外ヘワザワヒヲ放テヤルマジナヒ也、但東山左府實

熊公ノ書ニ、三關、相坂・鈴鹿・不破トアリ、此外ニクラマヲ入ルニヤ、或書ニ、クラマヲ入トアリ、大和物語ニ、ヤマトノ國ナリケル人ノ女、イトキヨラカニテアリケルヲ、京カラキタル男、カヒマミテケルニ、イタウツクシゲナリケレバ、ヌスミテ馬ニカキノセテ、ニケテイニケレバ、アサマシウオソロシト思フニ、日クレテ龍田山ニヤドリヌ、草ノ中ニアブリヲトキシキテ、女ヲイダキテフセリ、女オソロシトオモフ事限ナク、佗シト思テ、男ノモノイヒケレド、イラヘモセテ泣ケレバ、男
 タガミソギユフツケ鳥カ唐衣タツタノヤマニオリハヘテナク
 女返シ

立田ヤマイハネヲサシテ行水ノユクエモシラヌワゴトヤナク
 トヨミテ死ニケリ。私云、此タガミソギノ哥ハ古今ニ入。童蒙抄云、齋宮ノ、藥平ガ爲ニ被シテイダシタリシ
 鶏ヲ、ユフツケテ相坂ノ關ニ放タリシニヨメリ、教長卿云、鶏ノ尾ノ長白ヲシラユフ付タルニ似タレバユフ付
 鳥ト云也、是等ノ説無ニ其證ハ、四境祭鶏ニ木綿ツタル事ヲ不知ナリ

歌林樸楸第廿二卷畢

歌林樸楸

第廿三

【メ】

一乳母沙汰

一メザシ

コヨロギノ碓立ナラシイソナツムメザシヌラスナ沖ニヲレ浪
 キノクニノナグサノ瀧ニ貝ヒロフアマノメザシノヲトナ、リセバ
 メザシハ女童也、瀧ノ説ハ目ト云字ヨリ付タル歟、不可用

【ミ】

一ミキノサヲハシ

付ミキノ國

景行天皇筑紫ノ道後國ノ御木ニ到テ、高田ノ行宮ニ「○脱カ」儼タル木

ノ長九百七十丈アルアリ、此木ヲフンデ往來ス、時人哥云
 阿佐志毛能(朝霜ハ消ヤスキニヨリ、ミケノ發語也) 瀧能(御木也、所名也) 佐鳥磨志(卒橋也、言一橋
 ナリ) 魔幣(群臣也) 伊和多羅秀暮(渡也) 伊助語也 瀧開能(佐鳥磨志)

天皇何ノ木ツト、ヒ給ヘバ、一老夫曰、是樹ハ懸木也、イマダタフレザル時ハ、朝日ノカマヤカスニ杵嶋ノ山ヲ隱シ、夕日ニハ阿蘇山ヲオホフト申、天皇是ハ神木也、故此國ヲバ宜号ニ御木國ニ云々

一ミナソコノオキ 万葉

海底沖津白浪立田山何時越奈武妹之當見哉 トアルヲ

ワタツミノオキツシラ浪タツタヤマイツカコエナンイモガアタリミン ト

カンナヲツケタリ、是ハアヤマルル敷、是ハ日本紀ニ、關神(仁德の誤)天皇十六年秋七月、以宮人桑田ノ玖賀娘ハ示近習 舍人等曰、朕欲レ愛ニ 是ノ婦女苦皇后之妬不能レ合、以經多年ハ何徒乘其盛年乎、即歌曰

ミナソコフ(水底懸也) ヲミノ(女子也) ヲトメヲ(乙女也) タレヤシナハン(玖賀媛誰養也)

凡御哥意者、以玖賀媛ヲ可賜何臣哉之由也、水底懸者忍養媛

丸云、万葉ノ歌モ、此御哥ヲ本歌ニシテヨム敷、水底ハ忍心也、万葉ノ沖ハ奥ト云心敷、底ヨリ奥トツマケ侍ナルベシ、ワタツミノ沖トハ何ノ心モナキツマキニテ面白カラズ 於是播磨國造祖速待獨進之歌曰

ミカシホ(三日關) 潮也、私記曰、三日之關(潮)其流急速、故欲讀早待之發語、置此言也) ハリマハヤマチ(播磨早待也) イハクタル(岩下也、私記曰、巖石自嶺下瀕之時、人何不然憤(恐懼

仍欲言恐悚之發語、引此辭乎) カシコクトモ(畏也) アレヤシナハン(吾養也)

即日以玖賀媛賜速待

一ミヤマカクリテ コレハ顯宗天皇ノ父ノ御死骸ヲ埋シ所ノシルベセシ、近江ノ置目トイヘル老婦ヲ、宮

中近ヲカセメグマセ給ベトモ、近江ヘカヘリタク思ニヨリ、心ノ如ク古郷ヘカヘサセタマフ時ノ御歌ニ

オキメモヨ(置目也) アフミノヲキメ アスヨリハ ミヤマガクリテ(御山隱也、利与礼五音通) ミエス

カモアラン

一宮司

一恩頼 多ノ玉祭ヲ云

一御八鏡

一ミノシロ衣 裏ノカハリニキル上着也。又祈ノ時ナテモノニ出スキモノ也

一ミナムシロ 石ヲ云敷、水筵ト謂

木ガクレテ浪ノオリシク谷川ノミナムシロニモ月ゾスミケル

一水隱草ハ 稻也、萩ヲモ云、ミソハギ也、其時ハ水隱草也

アマノ川水カゲ草ノウチナビキ玉ノカヅラモ露コボルラン

一ミテクラ 神へ進物ヲ云。ユサハラヒ也、又太神宮ノ御祭ナドニ、荷ザキノ箱トテ色々ノモノヲ入、大

内ヨリ以勅使被進ヲ云

丸案、神樂ノ探物ノミテグラ幣也、シカレバ幣ヲミテグラト云賦、ミテハ御手、グラハ、ホコラ賦、ホクラ也、神ノ御手ニアルホコラト云事ナルベシ、〔頭注。探撫物カ但狩物カ〕

一水ナハトハ 水筋トテ河中ニ水ノツヨキ筋アリ

ヤマ風ノイハセ吹コス音羽河イソグ水ナハニクダル年浪 定家

右祇説也

丸案ニ、水筋ノ事難信、タゞ水泡ナルベシ、水筋トハ水ノ纏ト心得タル也、ミナハ、水淡也

一ミツ、ラウノシマ

ミ、ラクノ我日本ノ嶋ナラバケフモミカケニアハマシモノヲ 俊頼

层上ウセ給テ後ヨメル。能因坤元儀云、肥前チカノ嶋ニ、ヒ、ラコノ崎ト云所ニハ、夜トナレバ死タル人アラハレテ、父子相ミルト云ミ、万葉第十六云、肥前國松浦縣美彌良久崎發船云ミ。俊頼ハ非日本トオモヘリ、ヒ、ラコ、ミ、ラク同事也

一ミツ、ノ柏

ワギモコガミモスソ川ノ岸ニ生ル人ヲミツ、ノ柏トヲシレ

輔親集云、齋宮ノ女房ドモ、ミツノ柏ト云柏ヲオコセテ、是ハ何トカ云トイヘバ詠スル哥也。中納言俊忠卿ニ

テ俊頼、占逢事ニ戀ニ

神カゼヤミツノ柏ニコト、ヒテタツマ袖ニツ、ミテゾクル

ナクルニ立ハ叶フ、タ、ヌハ不叶、太神宮ニテノ占也、御綱葉ミツノカシハ(日本紀)三角柏ミツノカシハ(國史)三綱柏ミツノカシハ 延喜式

ツノ・ミツハ(○ナカ)同

一ミヤコノテフリ

アマザカルヒナニイツトセ住居シテミヤコノテブリ忘ラレニケリ

カシミタツクラマノヤマノウス櫻テフリヲシテナ折ゾワヅラフ

是ハ供奉人ノ手振、馬馴ノテフリニヨセタリ、クラマノ山ノウズハ、カザリ馬ノカラクラノ雲珠ニヨセタリ

ウキ身ニハ都ノテブリワスラレズヒナヘサソハンアヅマヅモガナ

アヅマヅハ東人ト云

里人ノミルメハヅカシサフルコニサドハスキウキ(○ミガカ)ミヤデシリフリ

サフルコハ、遊行女婦之字也、ミヤデハミヤテ也、(○チとテと入替るか)「テ」ト「テ」ト五音同也、シリフリトハ、シリウチフリテアリク也

丸案ニ、コレラハ手フリ・尻フル也、ミヤコノ手フリヲ、綺語抄ニ、ムマノ花ムケヲ云トカ、レタリ、ソレヲ

ゲニトモキコエズ。公實卿百首ニ

飯コンホドモサダメヌ別ヂハミヤコノテブリ思出ニセヨ

是ハ、ハナムケトキコユ、万葉ノ哥ノ「テフリ」ハミヤコノフルマヒ也

一ミヤヒ

色々ノ註アレドモ、口傳ニハミヤコビタル也、風流ナル事也、イヤシキコトヲ、ヒナビタルト云詞ノウラ也

梅花夢ニカタラクミヤビタル花トワレオモフ酒ニウカベコソ

ミヤビタル際ニモアルカナサヲシカノフカキヤマベニスマフモノカラ

一ミクマノ、浦ノハマユフ

ミクマノ、ウラノハマユフモ、エナルコ、ロハオモヘドタマニアハヌカモ

非紀國^ニ伊勢ノ名所也。但クマノへ詣トテ、人ノモトヘツカハシケル 道命阿闍梨

忘ナヨワスルトキカバミクマノ、浦ノハマユフウラミカサネン

コレハ、紀州ノクマノ也。童蒙抄云、ハマユフハ莖ノ皮ワスクテ多重ル也、是ハイセノクマノ、浦ニアリ、大

櫻ノトキハ、鳥ノ足ツ、ム料ニ、イセノハマユフヲメスト云

一ミヤマトシ

梅花ミヤマトシミニアリトモヤカクノミ君ハミレドアカニケン

「トシミ」ハ「トキシミ」ノ「キ」ノ字ヲ略歟、「トキシミ」ハ常ニト云コト也、「トキ」ハ常也、時也、「シミ」ハ「シゲミ」也、トキハカキハニアリトモナリ

一ミタラシ河 神前ノ河ヲ云。京極御息所春日社歌合ニ

カスガノ、松シカレズハミタラシノ河ノ流ハタエジトゾオモフ

堀河院百首 匡房

神山ノフモトヲトムルミタラシノ岩打波ヤ万代ノ數

コレハ賀茂也、イヅレノ社ニモ川アラバヨムベシ

一水カケ草

アマノ河水陰草ノ秋風ニナビクヲミレバ時ハキヌラシ

顯昭云、水ノ陰ニ生タル草也。万葉ニ

山河ノ水陰ニ生ルヤマスゲノヤマズモイモガオモホユルカモ

是ハ、菅ト名ヲサス、天河ノハ何ニテモ侍ベシ、凡天河ニ草ノ生事アルベカラザレドモ、ツネノ川ニナズラヘナヨムナリ、又万葉ニ、天河ニ田鶴・ヌエ・鳥ナドモヨメリ、或説ニ雨ハ天河ノ水也、シカレバ苗ヲ水懸草ト云々

丸案ニ、苗ヲ云ナラバ水ヲカクル草也 万葉ニ懸字モカ、ズ、又別ニサアルベキ歌ナシ、只水ノ陰ナル草ナル

ベシ

一ミコシヲカ

ミコシヲカイクソノ代々二年ヲヘテケフノ御幸ヲ待テミツラン

顯昭云、ミコシヲカハ常盤林ノ西ニアリ、嵯峨野行幸ノ時、御輿昇^{カキ}スヘ奉シ所也。奥義抄云、此哥ニハ延喜御時、北野行幸ニ御輿ヲ昇テト有、歌ニハミコシヲカト有、是ハ所ノ名也、北野ノ方ニアルニヤ、或人云、近衛ヲバミコシ長^{オサ}ト云、枇杷大臣ノ近衛司ノ時ヨミタマヘル歌也、又彼大臣、其時若人ニコソオハシケン、イクソノ代々ニトシヲトアルモ心エズ、猶所ノ名ニテアルベキニコソ。追考、御輿岡ハ北野ノ方ニ有云々。野行幸ニ歌餉ノ所也云々。今案云、後撰詞ハ御コシヲカニテトアルベキヲ、ミコシヲカキテト云ナシタル也、えノ字ヲキト書ケル也、撰云、枇杷大臣御コシヲ昇テ、御コシ長トヨムヘカラズ、イクソノ代々ト侍、即是也

一ミヲツクシ

君コフル泪ノトコニミチヌレバミヲツクシトゾ我ハナリヌル

顯昭云、河江ナドニ水ノフカキ所ヲ露ト云、濺トモ云、其ミヲノシルシニ立ル木ヲ云也、世俗ニハミヲシリナド云、又水脉舟ト書テハ、ミヲビキノ舟トヨメリ

水咫衝石心ツクシテ思フカモコノマモコ〔モ補〕トナユメニシミユル

「コノマ」・「コヌマ」トヨメル歟、又土左日記云、ミヲツクシノモトヨリ出テナニハニ付河尻ニ入ト云リ、國史

ニハ難波津ニ始立ニ落標^ニ之由アリ、其年月可考、攝津ニミヲツクシヲバダテラレヌ、身ヲツクシト云所モ有バ、外ニハヨマン事モハ、カラハシキニ、万葉ニ

トヲツアフミイル〔○ナ補〕サホソ江ノミヲツクシアレヲ頼テアラ〔○サ補〕マシ物ヲ

又相摸ガ歌

住ヨシノホリ江ニサセルミヲツクシフカキニマケヌ人ハアラジナ

河ニヨメル歌

河浪モウシホモカ、ル落標ヨル方モナキ戀モスル説

能因歌枕ニ、水ノフカキ所ニタツル木也

歌林樸櫛第廿三卷畢

歌林樸楸 第廿四

【シ】

一シタ、ミ 日本紀第三、神武多十月、其嚴定ノ糧ヲ嘗給ヒ、兵ヲト、ノヘテ出、先八十景帥ヲ國見ノ丘ニウチ破斬、コノ役ニ天皇志必克ナント存給ハリ、乃御詔之曰

伊齊能于瀾能於費異之珥夜異波賢茂等倍屢之多備瀾能阿誤豫之多大瀾能異波比茂等倍離于智豆之夜莽務イセノウミ(伊齊ハ伊勢也) オヒイシニ(大石也) ヤエ(八重也、伊江五音通) ハヒモトヘル(備瀾ナリ)

シタ、ミノ(貝名也) アコヨ(小兒ナリ) シタ、ミノイハヒ(石間也) モトヘリ(纏ナリ) ウチテシ

(擊也) ヤマン(止也)

歌ノ心、大石ハ、此國見丘ニタトフ、ヤソタケルヲ、シタ、ミノ貝ノ、石間ニツキマトヘルニタトフ、アコハ小兒也、アナドリヤスキ護ナリ、餘黨マデウチヤマントナリ

一シマツトリ

神武イセノイクサニカチ、又磯城彦ヲセメントスルニ、介胃之士ツカレタル時、詔曰

多々奈梅豆(橋並也) 伊那瑤能那摩能(山名) 虛能莽由毛(自木間也、由字有ニ与利之訓) 易驗嘗(行也、易助語) 摩毛羅毘(守也) 多々介陪磨(戰也、言于(〇互)守戰也) 和例破那(我早也) 限怒(飢也、略レ字也) 之摩途等利(島津鳥也、私記曰、欲謂鷓鴣之發語也) 宇介降餓等茂(鷓鴣等也) 伊莽(今也)

離間耳(助也、言扶也) 虛禰(來也、私記曰、言助我而來也)

古事記曰、擊三兄師木弟師木之時、御軍暫疲、余哥曰、御哥ノ心ハ、山ノ木間ヨリハ、戰來事長ニヨリ飢タリ、人來テタスケヨナリ、別而ウガヒヲサスハ、件鳥ハ魚ヲノミ入コトタヤスキニヨリ、皇軍ノ食政タヤスキニヨスル也

一シホセノナヲリ

仁賢カクレ給テ後、武烈天皇イマダ太子ノ時、平群眞鳥、臣政ヲ恣ニス、太子物部、鹿

火連、女影媛ヲ聘ントオボシ媒ヲ以媛ガ宅ニテアハントノ給フ、影媛眞鳥大臣ガ息ノ鮎ニハヤ逢シ故、ソレヲ心ニ恐、海柘榴市巷ニテアヒ奉ント云、太子近侍ノ舍人ヲ以平群大臣宅ニ官馬ヲコハシム、大臣戲ニ言陽

テ官馬ハ爲レ誰飼養カシコマリタルト云テ、久マイラサズ、太子心ニ恨タマヘド色ニイダサズ、約束ノ所ニ行、歌場衆ニ影媛ガ袖ヲトラヘ立ヤスラヒ給所ヘ、鮎臣俄ニ來リテ太子ト媛ガ間ニ立、コレニヨリ袖ヲハナチ立ノキ鮎ニ當テ歌曰

シホセノ(潮瀆也) ナヲリヲ(師説謂レ砂也、私記曰、波ヲ邊打依久留也) ミレハ(見也) アソヒタル

(遊來也) シビカ(鮎也) ハタテニ(鮎手也、魚比礼也、言隱ニ于袖也) ツマ(妻也) タテリミニユ(立見也)

鮎答哥曰

ヲミノコノ(女子也) ヤヘヤ(八重也) カラカキ(唐垣也) ユルセトヤ(救也) ミコ(御子也、謂太子)

凡歌意者、鮎以前已好影媛、豈可奉救之由也

丸云、是ヨリアトニ始テシロシメシタリトアレバ、コ、ノ哥ナドヲバタ、鮎ガタハブレテ、ザレゴトニ妨申ト、太子ハ思召シトミエタリ

太子歌曰

オホタチヲ(大太刀也) タレハキタチテ(誰帶立也) ヌカストモ(雖不拔也) スエハタジテモ(未果ナリ)

アハントソ思フ(遇恩也)

凡御哥意者、鮎之答歌无礼之間、太子已御念怨、只今縱雖无誅戮、可有御報酬之由也

丸云、此註心ユカズ、コレハ太刀ヲハキ、ソリヲカヘシテ、ヌキハセズシテヲドス者アリトモ、我ハソレニヲサヘラレズシテ、終ニアハントノ心ナルベシ

鮎臣答歌曰

オホキミノ(大君也) ヤヘノクミガキ(八重垣也) カ、メトモ(謂雖擊也、一説カコメトモ也) ナヲ

(猶也) アマシミニ(謂不遇也) カ、ヌ(不擊也) クミカキ

凡歌意者、縱亦雖不籠唐(○于)櫛垣、關我威勢、太子豈可遇給設之由也

丸云、此註如何、アマシミト詞未知事也、モシ餘身歟、タトヘバモノ、數ニ不入モテアマシタル身ヲ、古詞ニアマシミト云賦、シカラバ鮎ガ我身ヲサシテ云也、ソレナレバ歌ノ心キコエタリ、大君ノ八重垣ヲバカキ給

ヘケレドモ、ミヅカラガ垣ノヤウニハエカキコメ給マジキト云義也

太子歌曰

ヲミノコノ(女子也) ヤヘノ(八重) シハカキ(柴垣也) シタトヨミ(謂雖蹈垣) ナキカヨリ(自無也)

コマ(小間也、言自垣之間也) ヤレン(破也) シハカキ(柴垣ナリ)

凡御哥意者、匪管確執影媛、雖捕獨歩之心、如柴垣之破、遂可被滅亡鮎臣之由也

丸案、此註皆アヤマリ歟、此御哥ノ心ハ、八重垣ヲシテカキコメタリトモ、其垣ノ下ヨリ泣トヨミ、ワガ通寄來テシタヒタラバ、其八重ノ柴垣モヤブルベシト也、コレマデハ太子ノ鮎ガ實ニ惜トハシロシメサズ、タハブレテ云ト心得テ、問答シ給フトミエタリ

太子曰影媛歌曰

コトカミニ(異身也、言差鮎臣也) キキル(來居也) カゲヒメ(影媛也) タマナラバ(爲玉也) アガホ

ル(我保利須留省語乎、或説、欲也、或説、明之義也、先師云、明之義可也)(丸云、明ニホルハ、光也)

タマノ(玉也) アハビ(蛇也) シラタマ(白玉也)

凡御哥意者、以影媛喻玉、吾雖欲之、寄居于異人の方、片思之間寄蛇玉也

鮎臣爲影媛答歌曰

オホキミノ(大君也) ミオヒノ(御帶ナリ) シツハシ(端也) ムスヒタレ(結垂也) タレ(鮎也) ヤシヒ

ト(卑人也) アヒオモハナクニ(相憶)

歌意者、君之裝難貴、本自只相憶卑人、鮎之臣由也

丸云、此註相違歟、是ハ御哥ニコトカ身ニ來キルトアソバシタルハ、ツバキ市へ來テ鮎ニソフトアルヲウケテ、我ヲバイヤシキ人モ思申サズト、媛方哥ニナシテヨミシヲ、シロシメシテ、其時鮎ガ眞實ニ契シ事ヲシロシメスナリ、シヅハ下字歟

太子甫鮎ガ影媛ヲ得シコト、父子共無敬ノ心ヲシロシメシテ、大ニ怒タマフ、此夜速向ニ大伴金村連宅ニ、兵ヲツトヘ鮎ヲナラ山ニテキリツ、此キラレシ所へ影媛尋行、悲テ歌

イスノカミ(石上也) フルヲ(布留也) スキテ(過ナリ) コモマクラ(鷹枕也、私記曰、古以鷲爲枕、

云、高之眼目、須故欲言高之始有、此言乎) タカハシ(高橋所名也) スキ(過也) モノサハニ(物多

也、私記曰、家多物、故有此發語乎) オホヤケ(多宅也、言多過在家也) スキ(過也) ツマゴモル

(妻籠也) ヲサホヲ(小澤也、裏与波五音通) スキ(過也) タマケニハ(玉筒也) イヒサヘモリ(飯盛ナ

リ) タマモヒニ(謂玉筒也、比之訓並也、言並于飯盛水之義也) ミツサヘモリ(水盛也、言人死之後、

備飯水也、今世如備靈供) ナキノボチ(泣擧也) ユクモ(行ナリ) カゲヒメアハレ

凡歌意、遠尋行鮎之刑所、行哀傷也

又

アラニヨシ ナラノハザマニ(奈良之間ナリ) シ、ニモノ(丸云、死者也、私記曰、余保鳥好入水中、故

假諭于今死人埋土中、故謂内余保) ミツノ(〇ク紀) (水滄也) ミモリ(瀬也、御者助語也、言欲謂

麗之發語也) ミナソコノ(〇ク紀) (皆麗也、言墳墓之邊麗水也) シビノ(鮎ナリ) ワクゴヲ(若子也、謂

レ夫也) アサリ(丸云、求食フルコトナリ) フ(〇ツ紀) (謂葬禮也) イノコ(猪子也、影媛之自称ナ

リ)

凡歌意者、行鮎之葬禮也

丸、此註如何、シ、ニモノ、是ハ鳥ニハ非ズ、死シ者、ミツノへ、水上也、ミモリ、水瀧也。ミナソコ、水底ナリ。シビノワクゴヲ、鮎ハ魚ナレバ、水底ト云ナリ、アサリフナ、求食スナ也、イノコ、豕也、コレハ、鮎ガ尸ヲ影媛ガ埋テ、ソレヲ猪ニホリヲコスナトヨム哥ナルベシ

一シナテルヤ 推古廿一年多十二月、庚午朔、皇太子遊行於片岡ニ、時、飢者臥道垂、仍問姓名、而

不レ言、皇太子視之、與コ(飲食) 即脱(衣裳) 覆コ(飢者) 而(安) 臥也、則歌之曰

シナテルヤ(級照也、私記曰、山乃之奈良倍留也) カタヲカヤマニ(片岡山也) イヒニエテ(飢飯略字也)

コヤセル(私記曰、師説、寢臥之義也) ソノタビト(其旅人也) アハレ(哀也) オヤナシニ(無親也)

ナレナリケメヤ(成也、或云、那礼者汝也、言飢臥于道路者、無親之由也) サスタケノ(私記曰、師

説、謂レ矢也、言以矢刺身之事、甚可恐懼、故欲言君之發語有此辭也、或説、古謂刺胡録之矢

爲刺矢也 奄氣謂矢也) キミハヤナキ(無君也) イヒニエテ(飢飯也) コヤセル(謂寢臥也、縮詞也) ソノタビト(其旅人也) アハレ(哀ナリ)

辛未、皇太子遣使令視飢者、使者還來之曰、飢者既死、爰皇太子大悲之、則因以葬埋、於當處、墓固封也、數日之後、皇太子召近習先者、謂之曰、先日臥于道飢者、其非凡人、爲必眞人也、遣使令視、於是使者還來之曰、到於墓所而視之、封埋勿動、乃開以見、屍骨既空、唯衣服疊置棺上、於是皇太子復返使者、令取其衣、如常且服矣、時人大異之、曰聖之知聖其實哉、イヨリカシキ 應德 萬書云万葉第九、級照片足羽河之左丹塗、万第六刺竹齒隱有吾背子。万第三家有者妹之手將繼(○草枕客爾カ、臥有此旅人阿恰。挽哥。上宮聖德皇子出遊竹原井之時、見龍田山死人、悲傷御作歌、壘田宮御宇天皇代丸云、此御歌拾遺集ノ終ニ、三十一字ノ歌ニシテ、次ノ句ハ、詞ノヤウニ書ナシ入テ、返哥ニ又、イカルガヤトミノ小河ノタエバコソワガ大君ノ御名ハワスレメト云歌ヲ入タリ、日本紀ナラデ別ノ本ヨリ書出トミエタリ、サテ哥ノ面ハ、シナテルハ、山ノ出入アルハ、日影ノアタル所、アタラヌ所、シナルアレバ、山ヤ岡ノ發語ナリ、片岡山ハ名所ナリ、ソコニ臥タル旅人、アハレ親ナシトヤ、昔ヨリ世云傳タルハ、達磨大師ノ此土ニワタリ給ヲ、太子ノ今ハ早シ、佛法ヒロマリテ後ニ來テ禪法ヲヒロメタマヘト云テ、天竺ヘモドシ給ト云マ、シカラバ此哥ノ裏ノ説、シナテルヤハ不_レ死而居也、飯飢テハ、佛ハ法喜禪悅食トテ、法味ヲ委命トシタマヘバ、佛法日本ニナクシテ、飢給タルト云ニヤ、サス竹ノ君ハ、ナニトモシラレヌ事ト古來云コトナリ、サ

ス竹ハ、矢ヲ云トアレバ、矢字ハ天字ヲカタドリタリ、竺ハ竹也、天竺ト云事ヲコメ、折節竹原井ニ遊タマヘバ、天竺ノ君トハ云賦、此君ハ法王賦、鷄尊タルベシ、キミハヤナキハ、前佛ハ早無賦、云心ハ達磨ノ天下ニ禪ヲヒロメント、大慈悲ノ心ニテワタリ給ヘドモ、前佛ハ既ニ去タレバ、親ナキ牀ナリ、佛ハ世ノ父ナレバ也、サレバ父モナク、飯モナキ牀ヲノベ給賦、ナレナリケメヤハ、汝也、ナリハ、成也、成就賦、ケメヤハ、キエメヤ也、滅ノ字ナルベシ、サス竹ノ君ハ別ニ有ニ秘傳

一シモサマヨリ 下襪也

一神供

一淑景舎

一シヤクテン

一シノブモチズリ

一周易

一宿仕之人

一拾遺

一種子

一塵外

翻寫トテ、二八月ニ孔子・顔回・九哲ノ像ヲマツラル、コト也

スリヲスム説不_レ用

シウエキトハヨマズ

一 鶴ノフリワ 一説フリハ場。丸有別義

一 シツリ 雪ノ消方ニ、木ヨリ落ナリ

一 シラツクシ ミヲツクシ也

一 シマ島 嵩島ハ鶴ナリ

一 シクく シキリ也

一 シビラ 袴ニウラツケタル也

一 四境ニ鶴ヲ放關ハ 相坂・立田・大江・クラマ

一 シヲリ 信折ト云、宗祇説

丸案ニ、シヲリハ道ノシルベニ木ノ枝ヲ折カケテ、シルシニスレバ、信ノ字ノ心モ侍レドモ、正字ハ枝折也

一 シラヌヒノツクシニ 二説アリ。一ニハ、白縫ニ手ヲ盡也、一ニハシラヌ火ノ古事也

丸案ニ、万葉ニ字ヲカリテ白縫ト書シニヨリ、手ヲ盡ノ義ヲマウクトミエタリ、不レ可レ然

一 シノ、メハ 篠ノ目ノミユル比ナリ。卯ノ刻ニナル始ヲ云

一 シルラメヤ トガメテ何かシランゾト也

シルラメヤ木葉フリシク谷川ノイハマニカヨフ下ノ心ヲ

一 白妙 白色ハ五色ノ始也、サレバ鮮白トテ、キレイナルモノ也、モノ、新方ヘナルナリ、白色ヲホメタ

ル也

白妙ノ袖ノ別ニ露落テ身ニシムイロノ秋風ゾ吹 定家

本歌。白露トミエシ泪ニ年フレバカラクレナキニウツロヒニケリ

吹ヨレバ身ニシミニケルアキカゼヲイロナキモノト思ケルカナ

コレラモ一向アハス白色根本也。カスガノ、ワカナツミニヤ白妙ノ袖フリハヘテ人ノ行ラン。是モ本色ヲヨメリ、此定家ノ哥ノ正説ハ、白妙ノ袖ナガラ別ノ露ニソメラレテ、紅ニ染タルト云心ヲ、身ニシム色トヨメリ、唯授一人ノ相傳也。已上宗祇之説

一 白露ノヲケルメ

シラツユノヲケルメニユル女郎花アナワヅラハシ人ナ手フレソ

アキノ、ノ露ニヲカル、女郎花ハラフ人ナミヌレツ、ゾフル

露ガ妻ニ定テ置タルト云義也

一 シナカトリキナ

シナガドリキナノヲユケバアリマヤマタ霧タチヌ宿ハナクシテ

顯昭云、万葉ニ或志長鳥、或四長鳥、居名ト云、サレバ白鹿ヲ取ト云ガタシ、又狩衣ノ尻ヲ取トモ云難シ、居名ト云ハ、猪無野トモ云ガタシ、又シナガトリキナノトバカリアラバコソ、白鹿ヲ取テ猪無野トモ云ベキニ、

シナガトリキナノ浦トモ、キナノ溪トモアレバ、野ニ限テ云ベカラズ、今案ニシナガトリ猪ナノト云所アルベシ、万葉長哥ニ、水長鳥安房ニ繼タル梓弓末ノ珠名ハ云々。水長鳥アハトツマキタルハ所名ナリ、此類ナルベシ。此外、無名抄・綺語抄・童蒙抄等ニ日本紀ヲ引テ以釋、イヅレモ不相叶。

丸案ニ、是ハヤスタ心得ラレヌル歌ナリ、シカルヲ古人或景行天皇卅年ニ、日本武尊信濃ニテ白鹿ヲコロシ給フコト、或雄略天皇狩高城山猪暴出ヲ、フミコロシ給フナドノ古事ニアテ、見、又名所ニ定ラル、カヤウニムツカシキコトヲ、丸ガ今ヤス／＼ト了知スルトテ、書付タラバ、ゲニモトハ思ナガラ、ニクシト思テ、カヘリテソシラル、事モアルベケレバ、同志ノ人ニカタリテナグサムベシ、トカ、ザリツレド、又書ツケズバ何事ヲカ云ラン、トウタガフ人ノネガヒヲハラサン爲ニ、コ、ニアラハス、是ハ鳴ガ居ル野ト云コトナリ、鳴ハ根本ハシナガキモノナレバ「ハ」ノ字「ナカ」ノ字ヲ略シテ「シギ」ト号ストミエタリ、今シナガドリモ「ハ」ノ字ヲ上略シテ云也、此所鳴ノ名所也、又童蒙抄ノ、シラガ鳥キナノヲユケバアリマ山霧タチコムルムカコ崎カナ。是モ有馬山ノ哥ヲ少云カヘタルナリ、「シナ」ヲ「シラ」ト云、「ナ」ト「ラ」ト五音横通也、鳴ノ一名ナリ、シナガ鳥ト云ヲ、シラガトリトモ云ナスバカリナリ、此外別ニ正義アルベカラズ、丸ガ末弟ハ疑事ナカレ

一シホカマ

能因歌枕云、鹽竈宮、此神ハ田村將軍討夷之時、五万八千人之兵糧ヲカシギタル籠ナリ、又チカノシホガマト云。童蒙抄云、昔陸奥守塩竈ノ明神ニチカヒ申コトアリテ、獲ムスメヲ此神ノ寶殿ニヲシ入飯ニケリ、此女泣悲神殿ヨリサシ出タリ、父是ヲミルニ、心マドヒニケリ、是ヨリ此神ノ命婦ハ宮ツカサノア

ラザランカギリハ、親子タガヒニミユマジトチカヘリ、年ノ一タビノ祭ノ日ナラヌカギリハ、人ニアヒミエズ、件ノ女ノ子孫、今ニツギテ其命婦タリ、委見ニ陸奥國風俗ニ云々

歌林樸楸 第廿五

【シ】

一シルシノ杉

我宿ハミワノヤマモト懸シクバトブラヒキマセ杉タテル門

古今雜、謂人不知ノ歌也、新撰ニハ懸ニ入、世人是ハ三輪明神ノ哥トイヘドサセル無證、又住吉ノ御許ハ、ミワノ神カヨヒケル間ニ

住ヨシノキシモセザランモノユヘニネタクヤ人ニマツトイハレン

拾遺抄ニハ、此歌住吉御託宣トアレバ、三輪ハ男神、住吉ハ女神歟、又神功皇后伐新羅之叱、住吉ハ大將軍、日吉副將軍、將門追討之時ハ、日吉ハ大將軍、住吉ハ副將軍也、三千法施シケキニヨリ、日吉位マサセ給由、江記ニミユ、古語拾遺ニハ、大己貴神、大三輪神是也、又日吉ノ明神ハ三輪也、大宮權現也、本地ハ釋迦也、二宮ハ地主也、本地ハ藥師也、垂跡同也、傳教ノハモ山ヤラビエノ杉トヨメルモ此故ナリ、無名抄云、昔大和國……ウタヒニアル説、日本紀ニアルヤマト、ヒメノミコトノ古事也、崇神紀ニアリ。童蒙抄云、昔イセノアフキノ郡ニ、深山ニ入鹿待ニ、雨風シテ形黒長高目電光ノ如シテ來モノアリ、獵師是ヲ射ツ、夜明血ノアル跡ニ付テミルニ塚アリ、其前ニ神女有テ招ク、矢ヲハゲヨルニ、女ノ云、汝ガ射タルハ此塚ノ鬼ナリ、我ハトラ

レテコ、二年來アリ、此鬼ヲ汝コロセト云ニ、獵師柴ヲ塚ニコメ焼コロシツ、其神女ヲツレテ歸トシ、三年ヲフルニ兒ヲ生、男ノアリケケル間ニ、女失ヌ、男尋行ニ、此兒又ウセヌ、男ナキカナシミ、女ノ居間ヲミルニ、ミワノヤマモト杉タテル門、トバカリ書付、是ニヨリ、和州ミワノ社ニ參、此女ニアフベキヨシ祈ニ、社ヲヒラキ、女ト兒トマミユ、此男ノ志ノ切ナルヲミテ、トモニチカヒ、兩神ニナルトミエタリ、サレバ其社ノ祭ヲバ伊勢ノアフキノ郡ノ人ノ、トリヲコナフ也、ソレヨリシルシノ杉トハ云ナルベシ、謠ニ云、鬼ニ神トラル、ト云ハ是ナリ

丸案ニ、此古事ヨリ、シルシノ杉ト云ベシ、トカケルハ誤ナリ、此以前ヨリ古今ノ哥ハアリトミエタリ、又志ノ切ナルニヨリ、兩神トナルト書ルモアヤマリ也、モトヨリアリシ、三輪ノ社ヘタヅネ行祈トアリ、サレバ三輪ト云ハ彼糸ノミワケノコリシ因縁ナリ、コレハ後ニ過去ノ宿縁ニヨリ、狩人ト明神ノ、少ノ契ヲ結タマヒシトミルベシ

奥讀抄云、此三輪ハ社モナク、祭ノ日茅茅ノ輪ヲ三作テ、岩ノ上ニヲキテ、ソレヲ祭也、社ノオハセヌアヤシトテ、里ノ者ノ作タレバ、鳥百千出來テクヒヤブリ、各クハヘテ去ヌ、其後ハ神ノチカヒトシリテ不作トゾ一シタヒ

水鳥ノ鶴ノスム池ノ下樋ナクユカシキ君ヲケフミツルカモ

池ニ樋ヲカケテ、水ヲ出入ス、其クチノフタギアクルモノヲ樋ト云ナリ、下人ハイリト云、池水ノイヒ出ナド

ヨムハ是也、下随ナクハイヒ出ルコトモナク、オモヒコメタル心ナリ。童蒙抄ニ、池ノシリヘニ、下ニ随ヲ渡シテ、水ヲトラスナリ、サレバ思ヤル方モナキニヨセテヨメルナルベシ。又万葉

秋山ノ舌日下ニナク鳥ノ聲ダニキケバイトナゲカル、

顯昭云、山ニモ随ハアレド、ナベテ秋山ノ下随トイハンコト如何、若トニサシ入タル日賦、舌日ト書モアヤシケレド、万葉ニハ文字兎角カケバナリ。又長哥

秋ヤマニ下部留イモカナユ竹ノトヲヨルコラハ

是ハ吉備津采女ガ死ニ、人丸歌ナリ、山ノ下ニ伏タル心ナリ、「ヘ」ト「ヒ」同音也、ハルビ・ハルベ、ヲカベ・ヲカビ同音ナリ、下ヘト習テ、モト、イハン事モ何カクルシカラシ

丸案ニ、舌日下ハ日影ニテモ侍ベル、サレドモト、アルハ下随カ、邊ノ心賦、秋山ニ下部留ハ、慕ヘルト云賦、死タルヲ懸シタフナリ、秋山ノトナクテ「ニ」トアレバナリ

一シテノ田オサ 古今

イクバクノ田ヲツクレバカ郭公シデノ田オサヲアサナノヨブ

顯昭云、シヅノ田オサ也、「ツ」ト「テ」ト同音也、郭公ハ勸農ノ鳥ニテ、過時不變トナク、時過ハ實ノラント也、催馬樂ノ、イモガ門セナカ門ノ哥ノ、シテ田オサハ、田作ルモノナリ、シヅタオサ也、然ヲ郭公ノ名ト云ハワルシ、伊勢哥ニ

シデノヤマコエテキツラン郭公戀シキ人ノウヘカタラナン

死出ノ山ヨリクルヨシハ昔ヨリイヘリ、寂連ハ地藏陀羅尼經ニミエタルト云ヘリ。伊勢物語ニ

名ノミタツシデノ田長ハケサゾナク庵アマタウトマレヌレバ

又匡房歌ニ

イトゞシク入相ノカネノカナシキニシデノ田オサノ聲キコユナリ

或謂ニ、シデノヤマヨリ、童ニナリテ來ル故ニ、ウナヒコ鳥ト云

時鳥オチカヘリナケウナヒコガウチタレガミノサミダレノ比

此哥ヨリ云賦、是ハ「ウチタレガミ」イハントテ「ウナヒコ」ナリ。綺語抄・無名抄・奥義抄・童蒙抄、何モ郭公ノ一名ト云リ、古今ノ哥ニハ相違セリ

丸案ニ、古今ノ哥ニハシテノ田長ト、郭公トハ、面々ニヨミワケタリ、即農ヲス、ムル鳥ナレバ、時鳥ノ名トモシテ、伊勢物語等ノ古歌ニヨメルウヘハ論ニ及ベカラズ、二様ニ心得テヲクベシ

一シキノコヤテ

オソハヤモマ(○ナ補)ヲコソマタメムカツオノシキノコヤデノアヒハタザハジ

遅トモ、早トモ也、マヲコソハ、眞人ヲコソ也、ムヤツオハ、向ノ尾ナリ、「ツ」ハ休字也、コヤデハ小キ枝ナリ、「ヤ」ト「エ」ト同音ナリ、「テ」ト「タ」ト同音ナリ、マヲコソハ、マシニテモ在ナン、「マシ」ハ汝ナリ、万葉

或本云

オソハヤモ君ヲシマタンムカツオノ椎ノコエダノトキハ過トモ
ムカツオヲ名所賦ト一説

一シマシクモ

オモフヘニ逢物ナラバシマシクモ妹ガ目カレテアレヲラメカモ
シマシクハ、シバラク也、オモフヘハ、思故ナリ、アレハ我也

ツクシヂノカタノ大嶋シマシクモミネバコヒシキ妹ヲ、キテキヌ

ワガセコガフル家ノサカノアスカニハ千鳥シバナクシマ、チカネテ

顯昭云、千鳥ノ寫待カネンコト如何、人ノ心ニヨセテ云ニヤ

丸云、シバナクト云々タヨリテ「シマ」ト重詞ナリ、又「シマ心」ト云事アリ

玉ノ緒ノ嶋心ニヤ年月ノ行カヘルマデイモニアハザラン

顯昭云、玉ノ緒ハミジカキ由ニツヅケテ「シバシ」ノ心トソヘタルニヤ、シハシノ心ナレバ、年ノカハルマデア
ハヌカトヨメルカト覺タリ

丸云、此讀シバシノ心ハ妹ガ心賦、我心賦、エキカズ、愚案、此シマ心ハ、シママル心賦、年月アハネバ、ワ
ガ玉緒ノシママルヤウニナルト賦、又シバシノ心ニテ云ナラバ、シバシトオモフ中ニ、年月行カハルマデアハ

又ト歎心ナルベシ

一之奴比 シヌニ

近江ノ海夕浪千鳥ナガナケバ心モ思努ニイニシヘオモホユ

ヨグタチニネザメテキケバカハセトモ心モシヌニナクチドリカモ

梅花カラカグハシミトヲケレバ心モシヌニ君ヲシ思フ

ユフヅクヨコ、ロモシヌニ白露ノヲク木葉ニハカサネ蠢ナク

ヨグタチテナク河千鳥ウベシコソ昔ノ人モ之努比キニケル

朝ガスミカヒヤガ下ニナク蛙シヌビツ、アリトツゲンコモガモ

秋ノホヲ之努尔押離ヲクツユノケカモシナマシ戀ツ、アラズハ

袖中抄ニサマハニ尺セラレタレドモ、ゲニモトハミエズ

丸案ニ、シヌニト云詞ニハ、シノブ・シゲシ・シヅカ・シタフ、コレラノ心ノ外ハアルベカラズ、ソレノ

哥ニ、此心ヲトリ合セ吟味シテ、ヨク叶心ヲ以テ納得スベシ

一シヌ、ニヌル

朝ギリニシヌ、ニヌレテヨブコドリミフネ山ヨリナキ渡ルミユ

「之努々」ト書テ「シトマ」トモヨメリ

丸案ニ、シト、可レ然、努字ヲ後ニ「ヌ」ト訓尺シテ兩説トハナレル歟。ヨミタル訓尺マサル也。
一シノク

奥ヤマノスガノハシノギフル雪ノケナバ、タフレ雨ハフリコソ

顯昭云、宋韻云、凌者曆也。然ハフルトハ雪ノフリオホフ也、道ヲフルト云モ其道ヲトタル心ナリ、古今ニ

奥山ノスガノ根シノギフル雪ノケヌトカイハン懸ノシゲキニ

万葉ニハ葉トアルヲ是ハ根トアリ、雪ノ根ニフリカ、ランコト不_レ得心_一。

丸案ニ、菅ノ葉ノ根モトナリ、地中ノ根ニハ非ズ

顯昭云、藥師經ニ不相侵凌、コレモシノグ、ヲカス心也、史記云炎帝欲_レ侵_レ凌_一、諸候_一是モヲカス也、凌雲臺

モ雲ニトツキ雲ヲ、カス也。奥義抄云、シノグハ侵_レ也、ナドモセヌナリ。教長卿云、シノグハ、ヨグ也、去ナ

リ。今云、ヨグトハイハレズ、浪霞ノ中ヲ渡ルヲ、シノグト云ナリ

丸云、多ヲシノギ、サムサヲシノグト云モ、ソレニヲカサレヌヤウニ、堪シノンデトタルナリ、雲ヲシノグト

云モ、細道ヲ通ル如ク、其キハヲスリノトタル議ナリ、雪ノ菅ノ葉ノ細キ上ニハタマラデ、葉ノ末ヲシノギ

落テ、根モトニタマルユヘニ、万葉ノ葉ト大ヤウニヨミタルヲ、古今ニハ根トヨミナヲシテ入タルナリ、シカ

リトテ万葉ノ葉アヤマリニハアラズ、葉ヲシノギトタル雪ナレバ、根ニツモルモ皆葉ノ分ナリ、先カヤウノ心

エニクキ事ヲバ、詞ノ元來ノヲコリヲ案ズルガヨシ、古人其工夫ナカリシユヘニ、ヨクエスマサレヌトミエタ

リ、シノグハ、シノビスグト云コト歟

一シ、ネ

人シレズモノ思フトキハツノ國ノ芦ノシマネノシマネヤハスル 貫之

顯昭云、万葉ニ繁ノ字ヲ「シト」、ヨム、梶ヲ繁_シ、又シマヌクトモヨメリ、又催馬樂ニ

ミヤノヤマニシマニ生タル玉柏トヨノアカリニアフガタノシサ

是シゲク生也、芦ノシマネトハシゲキ根ヲ云ナリ、ソレニシゲクハ不泣トヨメル歟。又俊賴父ニヲクレ、筑紫

ヨリ上ルニ、芦ヤニテ終夜思ツマケテ

ツクシブネウラミヲツミテモトルニハアシヤニネテモシマネヲソスル

貫之哥ヲ本ニテ、恨ヲツメルニハ、芦ヤニテモシマネヲ引ヨセタリ。又俊賴哥ニ

島フミキヒハ虫シヌシ、ネシテカシマシキマデ世ヲゾ恨ル

又説、シゲク泣ニハアラズ、シゲク寢也、イヲネラレヌヲ云ナリト申人アレド、此俊賴歌ハ、ナク心也、「シ

メ」ハ雀ナリ、「シ」ト「ス」ト同音ナリ、下衆ノ詞ヲワザトタハブレテヨムナリ、又唱字ヲ「ス」ミ「ト」ヨム、

雀ハ常ノ字也

丸案ニ、貫之ノ哥ハ人シレズト云五文字、忍戀ナレバシゲク音ニタテ、ハエナカヌナリ、ミノヤマノシマニ生
タルハ繁ナリ、ツクシ舟ノ哥ハ、シゲク泣ナリ、島フミノ歌ハ獅子也、猪鹿ノ島ヲフミ虫死ナリ、カラ獅子ノ聲

ニハ、一切ノ虫死ト云古事モアルヲカケタル歟、述懐ノ哥ノ序ニ、猪鹿ノナクヤウニ、我カシマシキマデ世ヲ
ウラムルナリ、此島ノ歌ノ「シ、ネ」ハ獅子寢トスル心カヨヘリ、猪鹿ノ伏ニ、ワガヨル寢テ、大聲ヲ上テ泣サ
ケブニタトヘタリ、此歌ノ「シ、ネ」モ先ハシゲク泣也、余情ハ獅子寢ナリ、ヨク／＼哥ノ厚事ヲ吟味スベキナ
リ、定家卿ノ、俊頼ノ哥ヲホメラレテ、ウラヤミ給モコレヲノ哥ニテシラレタリ、彼卿ノ歌一重ナルハマレナ
リ、皆カヤウニ厚待也、コレヲイヤシキ事ヲヨメルハカヘリテヤサシキ也、此風ヲイヤシト聞ハ無相傳ノ歌
人ナリ、是イヤシカラズ、コレハツヨキ哥ナリ（○校云、袖中抄は凡テシラネとせり）

一シカノ山越

サ、ナミヤシガノヤマゴエセシ人ニアフコチ、スル花ザクヲカナ

北白河ノ瀧ノカタハラヨリノボリテ、如意ノ嶺コエニシカへ出ル道ナリ、經頼郷記ニ武生山ヲ經テ歩行云、
瓜生山トハ白河ノ瀧ノ上也、頼基集云、屏風繪ニシガノ山越スル所ヲ

名ニオヘドナレルモミエズ瓜生山春ノ置ノ立ルナリケリ

黒慶ガ淨土寺ノ和哥ノ序ニモ、月ノ光ノ清キテフ、武生山ノ麓ト書リ、武生ハ山シロノ方ニモアリ、此サ、浪
ヤノ歌ハ、能因ガ歌合ノ詠ナリ、心エラレズトモ云ベキヲ、人ノ尋ケレバ、モノモイハデ後ニ、和歌バカリヨ
ムベシトコソ、長能ハヲシヘシカトゾツブヤケル、能因ハ長能ヲ師トス、故玄玄集ニモ長能ガ哥ヲ多入云
ミ、此歌ノ心ハ、古今春ノ下、シガノ山越ニ女ドモノ多アヘリケルニヨンデ遣ケル貫之

アツサユミ春ノ山ベラコエタレバ遺モサリアヘズ花ゾチリケル

此哥ニ、女ヲ花トヨミタレバ、彼シガノヤマゴエセシ女ニ、アフコ、チスル、ト花ヲヨメリ、志賀ノ山越ハ、
イツモスルコト也、紅葉・時鳥・雪等ニ例多シ、而ニ次郎百首ニ、春題ニ志賀山越ヲ出ス、尤以テ不審ナリ、
但花哥ニツキテハ良玉集ニ、絶ニ志賀ノ山越ゾスル、又シガノ花園ト云事アリ。平等院僧正集ニハ、春秋ノ
花園アリ。三条ノ橋ノナカリシトキ、聖護院道澄和尚、三井寺ニ百ヶ日ノ御ケギヤウアリシヲ、紹巴法橋トブ
ラフトテ、大覺寺殿・連水左衛門尉ト丸ト四人、如意ゴエニ行テ、寺ノ中へ入侍シニ、五月雨ノハレ間ニテ、
鹽石根ニヲコリ、雉鷄ナド行袖ノ下ヨリ飛立、エモイハレヌ面白道ニテ侍

一シヒノヲノキシ

ワカキモノナカル、瀧ノムスル聲キコエヤスランシヒノヲノキシ

顯昭云、山城ノ歌枕ニ椎ノ尾ト云所ヲバ慈惠ノ尾有トカケリ、サレバ此歌ノ心ハ我折ノ泪ノ瀧ノムセブ聲ハ淨
土ニモヤキコユラントナリ。孫姬式云、雨之滌淚勞饑酒留ニ於淚河^{如本}瀧之流^{浦咽聲正聞ニ於椎嶺}。或本ニハ、シ
ヒノヲノ西トアリ、西方ノ心歟

一シノフモチスリ 陸奥ノ信天郡ニモチズリトテ亂タルスリヲスルナリ、無名抄云、所ノ名ト、ヤガテソ
ノスリノ名ヲツマケテヨムナリ、顯昭寺ノミスノヘリニス、レテアリシヲ、四五寸バカリ切テ、^{經信卿也}故前大納言
ノ、清和院ノミスノヘリニマネハレテアリシカバ、世ノ人皆與ゼシ、此ゴロハ皆ヤリトラレテ、失ニケル

トカヤ。童蒙抄云、シノブヲウチ、ガヘテ、亂ガハシクスレリ、遍昭寺ノ苧簾ノヘリニテアリ。私云、先年民部卿成範卿・左京大夫修範卿ナドニイザナハレテ、西ヤマノ寺廻シ侍シニ、遍昭寺ニ詣テ侍シカバ、彼母屋ノミスハ、ミクリノヘリト申物ニテ、シノブズリノヘリハ皆ウセテ侍ラザリシカバ、各ミスヲ折ツ、コソ持テ飯侍リシカ、又故中納言大將兼長、多ノ春日祭ノ使ニ下給シ供ニ、人々色々ニ花ヲ折テキラメキケル中ニ、前右馬助範綱ガ子、清輔ガシノブズリノ狩衣ヲキタリケル、心アリテミエケレバ、故左京兆次ノ日清綱ガモト

キノフミシシノブモチズリタレナランコ、ロノウチゾカギリシラレヌ
世ノ末ニモヲカシキ事ハ出来ニケリ

一シツハタオヒ

去家ノ倭文旗帶ヲユヒタレテ誰テフ人モ君ニマサラシ

一書哥曰

古之狭隙之帶乎結垂誰之能人毛君余波不益

顯昭云、布ヲル機ヲシツハタト云ベシ、下紫ノ布帶ヲシツハタ帶ト云ベシ、布ヲル女ノ、シリマキトテ桶ノヤウナルモノヲ腰ニアテ、猪ノ爪ト云モノニムスベルヲ云ベキカト申セド、ソレハ不叶、ユヒタレテトヨメリ、ウルハシク絹小袖ヲキテスル帶ニテアルベシ、考ニ万葉云。古ニアリケン人ノシツハタノ帶トキカヘテ、

ナドヨメリ、是ハカツシカノマ、ノテコナナドヲヨメリ、トキコフナドヨムモ、例ノ帶ト聞エタリ、但コレハ、マ、ノテコナガ墓ヲミテ、古ニアリケン人ノトハヨムナリ、古ノシツハタ帶ヲユヒタレテトハナドヨメルニカ、旗トカケルハ万葉ノ習ナリ、織女ノ歌ニモ或機・或幡・或旗ト書リ、帶ヲヨメルコトサマノナリ
紫ノ帶ノムスブモトクモミズモトナヤイモニ纏ワタリナン
或七タノ哥ニ

サネソメテイクエ〔〇ラ袖〕モアラネバ白妙ノ帶コフベシヤ戀モツキネバ
是等ハ色ヲヨメリ。見聞抄云、シツハタトハ、イヤシキ機ナリ。東義抄ニ

シツハタニヘツルホドナリ白糸ノタエヌル世トハオモハザラナン
シツハタニヘツルト云ハ、思亂テヘツルホド、イヘルナリ、シツハタハ、ミダレタル事ニ云也

シツハタニ思ミダレテ秋ノ夜ノアタルモシラズ歎ツルカナ
忠峯ガ長歌ニ
ワガナスコトハシツハタニミダレテナラズアリシカバ

又

シツハタニ思フコ、ロヲ亂タル人ヲツラシト思キヌレバ
又アサハタト云ハ、アサ布ヲ織ハタ也

タテヌキニ身ヲバナストモアサハタノヲリテハ君ニアハントゾ思フ
又ウツハタト云ハ、例ノ布ノ機ノ、タテヲラントテ、サカサマニナストゾ申

棹ヒメノヲリカケサラスウツハタノ麗立ヨル春ノ野ベカナ

丸云、ウツハタヲ、サカサマトハ、機ヲウツブシニナス故、ウツハタト云ナルベシ、又古ニアリケン人ノ哥ハ、
マ、ノテコナガ嘉ヲミテヨメルナレバ無不審、古ノシヅハタ帯トヨム哥ノ、イニシヘ、顯昭モ不審トカケリ、
コレハ彼古今ノ哥ニアル、古ノシヅノヲダマキノ類ナリ、シヅト云歌ニハ多古ヘヲヨミソヘ侍ル、是口傳アリ
一シラハキ

ワガ待シ白芽子サキヌイマダニモ匂ニユカナヲチ方人ニ

顯昭云、シラ萩トハ、白花サク萩アレバ、ソレヲヨメルトイハンモアシカラネド、是ハ秋萩トヨムベキナリ、
ヤガテ此哥アル、万葉ノ十卷ニ

マケナガクコフルコ、ロハ白風ニイモガヲトキコユヒモトキユカン
白風ヲ、秋カゼトヨメバ、白芽子ヲモ秋萩トヨムハ、マサリタリ、アナガチニ、ワガマチシ、ラハギト不レ可

詠

丸云、是殊勝ノ説也、顯昭法橋タマ入ニアラズ

一シナヘウラフレ

君コヒテシナヘウラブレワガヲレバ秋カゼ吹テ月カタブクヲ

顯昭云、ナゲキモノ思フト云詞ナリ、ウラブルモ同事也、ウレフト云詞トモ申

君コヒテウラブレラレバシキノ、ノ秋萩シノギサヲシカナクモ

鳩モキヌ萩ハチリヌトサホシカノナクナル聲モウラフレニケリ

万葉ニ

我ツマノコガ夏草ノ思志萎テナゲ、ドモ

ナヘタルハ、ナヤムナリ

歌林樸楸 第廿六

【エ】

一薬花ノ物語 之ノ字ヲ可入

一エキ 延喜

一エフノ身ナレハナヲヤマス

丸云、古人ノ説サマノアル中ニ、閻浮ノ説ヲ最上トス、古今傳授ノ説モ是ニ極テアルヲ、丸ガ今最案ニ非ニ正義ト云ハ尤多罪ナガライカニシテモ覺智セン事アレバ爲口傳。サレドモト代ノ歌仙ノ註ノ外ヲ、何トシテモトク程ナル説ハ、今ノ世ニ出ベキゾ、ムサトシタル義ナルベシト、門弟ヲ始、思コナレ給ベキニ付テハ信ジテ傳ル人モアルマジ、傳ル人ナクバ、後生ハ猶シラズシテ此長哥ノ作者ノ本意、未來永劫アラハルベカラズト存ズレバコ、ニカキ侍ベシ

アフコトノ、マレナル色ニ、思ソメ、我身ハツネニ、アマグモノ、ハル、時ナク、フジノネノ、モエツ、トハニ、思ヘドモ、アフコトカタシ、何シカモ、人ヲウラミン、ワタツミノ、沖ヲナガメテ、思ヒテシ、思ヒハイマハ、イタヅラニ、ナリヌベラ也、行水ノ、タユル時ナク、カグナハニ、思ミダレテ、フル雪ノ、ケナバケヌベク、オモヘドモ、エフノ身ナレバ、ナヲヤマス、

袖中抄ナドヲミレバ、此「エフノ身」ヲ蝶ノ身ナレバト云説モアリ、莊周ガ胡蝶ニナリシコトナド云義ヲトリテ、本ヲ亡「テフ」ト書タル也、是等ニ比スレバ「閻浮ノ身」スグレタル故、二案家・冷泉家トモニ閻浮ノ説ニテヲカレシナリ、ヨク吟味シテミ候へ、閻浮ナレバ不定世界ナレバ死タク思ヘドシナレヌト云義ニナルナリ、ソレハ老人ナドノ死タケレドモシナレヌ、ト云時ハ尤ナリ、此哥ハ戀ノ歌ナレバ、其義不レ叶也、シナバ死ベケレドモ、主上ノ御爲ナラデ私ノ用ニ一命ヲ失ハ非道トナゲキタル者ナリ。サレバ丸ガ了見ニハ、衛府ノ身ナルベシ、六衛府ハ武官也、君ヲ守ル者也、エフ（閻浮ノ時ハエフト濁也、衛府ノ時ハエフト清也）

一エク

君ガタメ山田ノ澤ニ惠具ツムト雪消ノ水ニモノスソヌラシツ

顯昭云、女姿ト書テ「エゴ」トヨメリ、「タ」ト「コ」ト同音ナリ、花ハ蘇芳ニサキテ、水邊ニアル草ナリ、又芹ヲ云義アレドモ、六帖ニハ芹ノ外ニ別ニ出セリ、但古キ文ニハ委アカサズシテモノ、異名ヲモタマサズ、名ノカハリタレバ別ニ書ル事モアレバ一定ニアラズ。仲實朝臣許ヘワカナヲツカハストテ 俊賴
オガミ川ウキツニハユルエゴノウレヲツミシナヘテモソコノミタメゾ

返事 仲實

心ザシフカキミタニ、ツミタメテイシミニスリテアラフネゼリカ
此哥ハ「エゴ」トヨメリ、返シハ「芹」トヨメリ、エグト芹ト同モノトオモヘバ歟。万葉云、芹トエクト一物ト

云、又山田ノ澤ヲ「ソフ」トヨメリ、「ソフ」ハ「サハ」ナリ、「ソ」ト「サ」ト通聲ナリ。私云、世俗ニ「サハ」ヲバ「ソフ」トイヘドモ、万葉ニ澤字ヲ「ソフ」トヨミタル本ハ未見
丸云、万葉ニ云トアルハ、万葉ノ抄ナルベシ、後ノ万葉ハ集ナリ、又仲實ノ返事、芹トヨメルハ、俊頼送ラル、若菜ノ中ニ、エクモ芹モアルベケレバ、カケ哥ニハ「エク」トアルヲ、返シニ芹ヲモ賞シテカヘサレタル事モアルベシ、是ヲ必證據ニハ引ガタシ、只六帖ノ旨ヲ守リ、芹ノ外ニエグ有ト定ベシ、顯昭ノサ、レタル女萎ノ説尤正説ナリ

一エヒスノ身ヨリイタス血

ミチノクニ(○ノ補)エビスノ身ヨリ出ス血ノコトウチナレヤアハ又懸カナ
顯昭云、我子・人ノ子、定メントスルニハ、父ガ血・子ノ血ヲ合ルニ、我子ナレバ血一ツニアヒ、人ノ子ナレバ一ニ不成トイヘリ、扱コト氏ナレヤアハ又トハヨメリ。江記云、赤染ハ赤染時用女也、依歴ニ右衛門志尉等号ニ赤染衛門、實兼盛ノ女也云々、離別ニ彼ノ母ノ後、稱有ニ女子ニ欲テ奪取之慮、母惜ニ不レ然之由、相論之間、爲道檢非使時用沙汰之間与ニ被母・密通・相住之間弥々稱非ニ兼盛子之由深稱ニ時用云々。兼盛可ニ合血之由申、云々、云々其懸能ニ尤可謂ニ兼盛子ニ歟

由、相論之間、爲道檢非使時用沙汰之間与ニ被母・密通・相住之間弥々稱非ニ兼盛子之由深稱ニ時用云々。兼盛可ニ合血之由申、云々、云々其懸能ニ尤可謂ニ兼盛子ニ歟

【ヒ】

一ヒメナソヒ

崇神天皇十年秋七月、民ヲ導モトハラシユルニアリ、詔ニ不隨モノヲバコロセ、トテ四方ヘ將軍ヲツカハス、北陸道ニハ大彦命オモムキ給ニ、和珥坂ノ上ニ少女歌フ、一説ニハ山背平坂ニ到時、童女歌云々

彌曆紀異利麻胡(御間城入彦ハ崇神ノ御名也)

播磨(私記曰、奉備(○惜カ)之義也)

既納餼(已也、私記曰、

大彦命也) 鳥嶋(私記曰、謂君也、言大彦命之君、崇神也)

志齋務苦(私記曰、謂殺也、今案、死与殺

同義也、丸案ニ、是ハ弑ノ字ナルベシ、臣トシテ君ヲコロスヲ弑ト云)

農殊末句(私記曰、謂望來也、今

案ニ、整已來也、丸案ニ、ノソミキタルノ説吉賊)

志羅珥(不知也) 比賣那素麻殊望(私記曰、言不レ知

殺逆之謀爲兒女之遊比々奈遊也)

於朋香(謂大彦命也、略彦命也)

妬開利(自外也) 于介伽卑

氏(竊也) 許呂佐務苦須羅向嶋(欲殺也) 志羅珥(不レ知也) 比賣那素麻殊望(爲比々奈遊也)

コノワラハ、カクウメヒテウセヌ、天皇ニ此由ヲ申ス、倭迹々日百襲姫命此哥ノ心ヲサトリテ云、是武埴安彦ガ返逆ノ表ナリト云々、於是四方ヘツカハス將軍ヲトメテ戰アリテ、武埴安彦ト其ツマノ吾田鏡トヲコロセシコトナリ

丸云、ミマキイリヒコトハ、峯神也、ハヤヲノカラ、ハ、早クヨリオノレガ大君ゾト云コト歟、ヒメナソヒス

モハ、ワラハベノヒイナアソビスルヤウニ、大事ノヲコルモシラデ、人數ヲ四方ヘ遣シテハカナキト云心ナリ、オホキトヨリハ、多外ヨリ歟、埴安彦ト吾田媛ト兩方ヨリセメ來ラントスルナリ
於朋香ノ註ニ、大彦命ノ下略トアリ、是如何

一ヒトツマツ 景行天皇ノ内 日本武尊 於是始有痛身、然稍起之、還於尾張、爰不レ入ニ宮賢媛之家ニ、便移伊勢ニ而到ニ尾津ニ、昔日本武尊 向レ東之歲停尾津濱而進食、是時解一ノ劍置於松下、遂忘而去、今至於此、劍猶存、故歌曰

鳥波利珥(尾) 多陀珥(直) 務伽幣流(歸也對)

比苦菴麻菴(一松) 阿波例(哀) 比等菴麻菴(一松)

比菴珥阿利強磨(人在也) 岐農岐勢摩之場(衣欲着也) 多知波開摩之場(太刀欲佩也)

松樹ヲホメ給心ナリ、又宮賢媛尊ノ妻也、ソレヲ思出給ナリ

一ヒレフル 欽明天皇廿三年七月、新羅ト任那ノ戰ニ、日本ノ河邊ノ臣瓊伍、任那ヲスクヒ得ズ、新羅ノ爲ニコロサル、其時日本ノ諸將ノ中ノ妻、皆寓ニセラル、其内大葉ノ子愴然而歌曰

カラクニノ(韓國也) キノヘニ

タチテ(立ナリ) オホハコハ(大葉子也)

ヒレフラスモ(領巾振也) ヤ

マトヘムキテ(向日本也)

カラクニノキノヘニタチシオホハコハヒレフラスミユナニハヘムキテ(向難波也)

或有和曰

几哥意者、慕日本也

一ヒシリホウシ

一ヒザツキ 賦也、陸屋ニ數物ナリ

一飛香會 ヒキヤウシヤ

一ヒハノホウシ

一比夏ノネワタシハ 風也 ヒラノネワタリハ 雪ナリ

一ヒチカサ雨 俄ニフル雨ヲ云、六帖

イモカ門行過ガテニヒヂカサノ雨モフラナンアマガクレセン

イモガ門行過ガテ又久方ノアメモフラヌカソヲヨシニセン

顯昭ハ、此万葉ノ哥ヲ考テ、六帖ノ哥ハ僻事ト釋ス、サレドモ源氏スモノ卷ニモ、ヒヂカサ雨トカフリテトアリ、又一条左大臣雅信公ノ作ノ催馬樂ニ、妹ガ門ノ歌ニモ、

イモガ門、セナガ門、行過カネテ、ヤツガユカバ、ヒチカサノ、雨モフラナン、シデ田長、アマヤトリ、笠ヤトリ、ヤトリテマカラン、シデノタオサ、

ト侍、万葉ノ久方ヲ後ニ、ヒチカサトワザト作カヘテ、ヒヂカサ雨ト云名ニナレルトハ合点セズ、ヒガゴト也、不レ可レ用ト顯昭ノ云ル、ヲロカナルモノ歟

一ヒトヘニ 偏ナリ

一ヒイコ 彦ナリ

一ヒタハ 引板又引手トモ書、板ニ木ヲソヘテ纏ヲ付テ引也

一姫 トヨタマー ソトヲリ 下テル 橋(宇治ニ限ル) ヒメハ何モ濁ル也、但下テル姫ハ清ナリ、イヅレモ非ニ神祇

丸以ニ此説ニ案ズルニ、人丸ヲ始奉リ、神ニ祝タレドモ、存生ノ御名ヲバカリニテハ皆可レ非ニ神祇

一ヒヲリノ日 天下第一ノ難儀ト六条左京兆被申シト也、五月三日ハ左近ノ荒手結、四日ハ右近ノ荒手結、五日ハ左近ノ眞手結、六日ハ右近ノ眞手結ナリ、射手ノ近衛舍人、水カンハカマニク、リヲ上テ、裾ノ尻ヲ女ノ中ユヒタルヤウニ引出テ、其上ニムカバキヲ結ナリ、眞手結ノ日ハ、紅ノ下ノ袴、織物ノサシヌキニク、リモアゲズ、ソバヲハサミテ、裾ノシリヲ袴ヨリ前ガマニ引折テ前ニハサメリ、サレバ眞手結ノ日ヲ、引折ノ日トハ云ナリ、右近ノ馬場ノヒヲリノ日トハ六日也。俊頼 法性寺殿ニテ五月五日ノ心ヲ

長根モ花ノ袂ニカホルナリケフヤマコモノヒヲリナルラン

和泉前司道綱ノビ上リ、古今ノ難儀聞侍ヌト申ケレバ、俊頼、文書傳ヘテ、カウナ申シソ、ト計ニテ人ヤル事モ侍ラザリキ、六条修理大夫顯季卿傳聞テ、道綱ヨク云タリ、難儀ニテヲキタレバコソアレ、カ、ルヲシワザスル不便ノ事ナリトコソ申ケレ

一ヒザクラ

梓弓春ノ山ベニ煙立モユトモミエズヒサクラノ花

無ニ正字、モシ朱櫻ヲヤ云ベキ、是ハカバザクラトヨムナリ

一ヒタチ帯 無名抄云、常陸鹿嶋明神ノ祭ニ、ケサウ人ノアマアル時ニ、其男ノ名ドモヲ布ノ帯ニ書アツメテ、神前ニヲクナリ、多カル中ニ、スヘキ男ノ名カキタル帯ノ、自ウラカベルヲ、祢宜ガ取テトラスルナリ、ヤガテ御前ニテ女ウヘノカケ帯ノヤウニウチカツグナリ、ソレヲ聞テ、オトコカコチカ、リテ、シタシクナリヌ、占ナドノヤウナルコトナリ。奥義抄云、ヒタチニハ、男女ノナカラヒヲトハントテハ、亭ト云モノヲ帯ニシテ、一ニハケサウスル男ノ名ヲカキ、二ニハ我名ヲ書テ、彼神ノ御前ニテノト申テ、帯ヲ折カヘシテ、名ヲバカクシテ、末ヲ祢宜ニムスバスル也、ソレニワルカルベキナカラヒハ、離々ニムスバレ、ヨカルベキハ、カケ帯ノヤウニマロニ結ツナガル、ヲ、サモト思フ男ナレバ、ヤガテカケ帯ノヤウニ打カケツ、山菅ノ占ノヤウナル事トゾ、擬 無名抄ノ義ハ僻事トゾ申也。童蒙抄云、ヒタチ帯トハ兩説アリ、彼國ノ人、カゴト、云、クミヲヒラナル帯ノヤウニシテ、大緒ニスルヲ云ナリ、是ハワルキ説ナリ、鹿嶋明神祭日子細同前、無名抄、和語抄ニ云、カシマノヤシロニ、大ヒラ帯ノヤウニシテシヨキテ、男女ノ占ニアフベキニハ、風ナド吹テ輪ノヤウニナルヲ云ナリ

一ヒチキノナタ

昨日コソフナ出ハセシカ伊佐魚トル比治奇ノナダヲケフミツルカナ

顯昭云、ヒヂキノ離ハ播磨ニアリ、イサゴトルトハ、魚取也、俗説ニハ「ヒマキノ離」トモ云。孫姬式云

アフトキハマスミノカマミハナルレバヒマキノ離ノ浪モトマロニ

又思見集云、延喜ノ御時躬恒ガ御厨子所ニ候ケル例ニテ、年來津國ニ候ケルヲ召上テ、天曆御時御厨子所ニテ奏スル哥

トシヲヘテヒマキノナダニシヅム舟浪ノヨスルヲ待ニゾアリケル

シカレバ、ヒヂキ・ヒマキ、トモニ本説歟、或歌枕ニハ、チビキトモアリ

一ヒルメノカミ

イカバカリヨキワザシテカアマテルヤヒルメノ神ヲシバシトマメン

顯昭云、神樂ノヒルメノ哥也、日神ヲバ大日靈貴ト申ナリ、神樂ニハアマテル御神ヲオロシ奉レバ、神樂トテアゲ奉ル哥モアリ、サレバイカナルワザヲシテモ、シバシトマメタキトナリ。教長卿云、ヒルメノ哥ハ、大嘗會ニ、メヒルトテウタフナリ、「メ」ハ「米」ナリ、米ヒル女也、戀ノ哥ニヨメリ云々。私云、大嘗會ニハ稻春哥トテ、八乙女ガヨネツクテウタフ歌アリ、別ニ米ヒル哥ヲ、ヒルメノ歌ト云コト不聞、古ハ、ヌキホノ哥トテ詠ニヨミケレドモ、近來ハキコエズ

一ヒナノミヤコ

アマサカルヒナノミヤコ(マ)アメヒトシカク戀ストハイケルシルシアリ

顯昭云、是ハ家持越中ニテヨムナリ、ヒナハ田舎ナリ、ミヤコハ京ナリ、アメヒトシハ、天齋ナリ、ヒナト京ト同ジ空ナルニ、我ヒナニ居ナガラ、京ノ戀ルモ、世ニイキテフルカヒナシ、他ノ田舎ノ人ハ、我ヤウニ京ヘモノボルマジケレバ、人々シク京ヲモ戀マジトヨメルナリ

丸案ニ、此註何トヤラン持テマハリテキコユ、先ヒナノミヤコ、國ノミヤコト云ハ、諸國ノ府中ヲサスト云リ、此哥ニテハ、ヒナト都ト別ニナシテ、ヒナノミヤコヲヨミ入タルナリ、アマザカルヒナマデハ田舎ノ事、其ヒナノ空モ都ノ空モ、思ヘバツマキテヒトシクアル也、サレバヒナナレドモヒトシキ天ノ下ニ居テ戀ルガ、セメテ今生ニアルカイ也ト云心歟

一ヒナノワカレ

思キヤヒナノ別ニヲトロヘテアマノナハタギイサリセントハ

万葉ニ夷ト書テヒナトヨム、是ハ篋ガ隱岐ニテヨム哥ナリ

アマザカルヒナノ長路ヲコヒクレバアカシノトヨリヤマトシマミユ

顯昭云、是ハ人丸、鎧西へ下ル海路ニテヨム、明石ハ播州ナレバ遠カラネド、遙ナルヒナヨリ、京ヲ戀タルニ、明石ヨリ大和ノ方ノ山ノミユルヲ悦心ナリ、惣而日本ヲ大和島トヨムコトナレド、大和國ヲヨムモタガハジ、又桓山ノ四鳥ノ飛別レタルヨリ、離ノ別ト云事モアリ、何ニテモタガハザルベシ

丸今案ニ、夷ヲ「ヒナ」トヨマスルモ、ソノヲコリハシレズ、桓山ノ四鳥ノ別ヨリ、鳥ノ隣トイハンモタシカナ
ラズ、只鄙ノ字ヲ「イヤシ」トヨミ、都鄙ト云ツケテハ、ミヤコ・キナカトイヘバ、風流ナルコトヲ「ミヤビ」
ト云、イヤシキコトヲハ「ヒナビタル」ト申セバ、ヒナト田舎・遠國ヲ云ハ、鄙ノ字ヨリ事ヲコリタル詞ナルベ
シ、「ヒナ」ハ「ヒナビ」ノ下略ノ詞也、鳥ノヒナニハアラザルベシ、万葉ニ一旦ノ義ヲ以「夷」字ヲ書タルニテ、
近國ヲバ云マジキ歟、ナド、云、昔ノ衆ノ疑ハ此鄙字ノ合点ユカザリシ故ナリ、「ヒ」ハ鄙字「ナ」ハ「キナカ」ノ
「ナ」ノ字トモ云ツベシ、「キ」ト「カ」ト上下略シテ「イヤシキキナカ」ト云事ヲ「ヒナ」ト云ト了知スベシ、不レ可
レ疑

一久方ノミヤコ

ヒサカタノミヤコヲ、キテ草枕タビ行君ヲイツシカマタン

顯昭云、ヒサカタト八月ヲ云、又空ヲ云ト申義ハミエタレド、ミヤコヲヨメルコトハナキヲ、万葉ニ或久固・
或久方ト書、サレバミヤコヲ祝テ久クカタシト云歟、日本紀ニ帝宅ト書テ「ミヤコ」トヨミ、天闕ト書テ「ミカ
ド」トヨメリ

丸案ニ、久方ト八月ヲ云ト申コトハ、定テ伊勢ガ桂ニテ、久方ノ中ナル川トヨメルヨリノ故ナルベシ、思フニ
月ノ異名ヲ「久方」ト定テ、伊勢モヨミタリトハオモハレズ、只月ノ中トイハズシテ、月ニキコフルヤウニ上手
故、ワザトヨミナセルヲ、カヤウニ後人カタクナニ月ノ名トシルセル事、ウケラレヌコト也、今月ノ歌ヲヨマ

ソニ、此伊勢ガ哥ヲカタドリテ、久方ノ中ナドトヨマズ、タゞ久方ノ山ノハイヅルナドトヨマバ、月ニハナル
ベカラズ、是其シルシナリ、道理ハ正直物ナリ、タゞ久方トハヒサシキ方ト云詞ナルヲ、天バカリ久シキ、ト
ヲキモノナケレバ、天象ノ枕詞トナレリ、又帝都ハ九重ノ天ヲ表シ、雲ノ上トモ云、帝ハ非ニ人間トテ天子ト
云、ミヤコソリ・ミヤコモルト云心ニ、ミヤコト名付、天宮ト云文字モアレバ、久方ノ宮コトツマケタルベシ、
只又昔ハ程遠キコトヲ、天ニカギラズ久方ト云ヘルニヤ、然トテ今久遠キコトニ、天象ナラズシテツマクベカ
ラズ、但此哥アレバ久方ノミヤコトヨマンハ可レ不レ苦

一ヒカタ

アマキリアヒ日カタ吹ラシ水グキノ岡ノミナトニ浪タチワタル

無名抄云、ヒカタハ巽ノ風ナリ、ヒルハフカデ夜吹ナリ、顯昭云、巽ノ風ハヲシヤナ、又イセゴチト云、ヒカ
タハ坤ノ風也

歌林樸楸 第廿七

【モ】

一モトコトニ 日本紀第廿五卷、孝德天皇大化五年ニ、蘇我臣日向倉山田大臣ヲ太子ニ詔テコロス、（物部）
 二田造塩ト云モノニ大臣ノ頭ヲキラシム、蘇我造媛此由ヲ聞テカナシミ給、故近侍ノ人塩ト云名ヲ改テ堅塩（物部）
 ト云、造媛イタンテツキニ死、皇太子造媛之死ヲ聞テナゲキ給、此時野中ノ川原ノ史（物部）講ス、ンデ奉レ歌々曰
 ヤマカハニ（山河也）ヲシフタツキテ（鴛鴦双居ナリ）タグヒヨク（類吉也）タグヘルイモヲ（類妻也）
 タレカイニケン（誰行也）

几哥意者、皇太子造媛如鴛鴦相双之處、造媛去逝之由也

モトコトニ（每本也、木本也）ハナハサケドモ（花雖開也）ナニトカモ（何ナリ）ウツクシイモガ（類見妻也）マタサキテコヌ（亦不開來也）

几哥意者、花者雖散亦開、造媛者逝後不歸之由也

一賜ノ草蓋 モズノキタル草ノクキナリ。俊成説ハ、一説ニ體ヲ云。顯昭説ハ、賜ノ草ヲクマルナリ、シカラバ「クキ」ノ「ク」ノ字ニゴルベシトモミエズ「ク」ヲスミテ「キ」ヲ濁ベシ、種々ノ説アレドモタマモノ、シルシヲ云ト心得ベシ、蓋ヨリ、クマルノ説ゲニモト思侍

一モナカ 宸中ナリ、藻字ヲ立コメテヨマヌハワルシト思入アリ、少モ不活、證哥 越中守仲實

ミタヤ守ナルコノツナニテカク也ハレマモミエヌ霧ノモ中ニ

一モノナレヤ 物ナルヤト云讀ナリ、トガメテイヘル詞也

一モヨト云詞 雨モヨ・雪モヨ、「夜」字催心也。歌ニヨルナリ

月ニダニマツホド多過ヌレバ雨モヨニコジトオモホユルカナ

草モモフリマガヘタル雪モヨニ春マツ梅ノ花ノ香ゾスル

カキツメテ昔戀シキ雪モヨニアハレヲソフルヲシノウキネカ

三笠山サシハナレヌトキ、シカドアメモヨニトハ思ヒシモノヲ

一賜 月令ニ五月節陽始テ啼トイヘリ、秋サカリニナキ、冬春ハ不啼也。俊賴イセヨリ匠作ノモトニ送ル

トヘカシナ玉クシノハニミガクレテモズノクサグキメヂナラズトモ

匠作コレヲミテ、モズノクサクキヲバイカニシテヨメルニカトカタブカレケリ、匠作ハ顯季也

春之在バモズノ草具吉ミエズトモ我ハミヤラン君ガアタリヲ

足引ノヤマベニヲレバ郭公木ノマタチ具吉ナカヌ日ハナシ

「クキ」ハクマル也、此万葉ノ類哥ヲ以テ、顯昭ノ説正義ナリ。綺語抄・奥義抄ナドノ「モズノハヤニヘル」コ

ト、又野中ニテ女ノヲシヘシコト、霞ヲ云ナドト云説、出所不_レ委、皆虚説ニオボシテ來ルトミエタリ
一モロコシノ吉野山

モロコシノヨシノ、ヤマニコモルトモヲクレントオモフワレナラナクニ

顯昭云、昔漢土有_ニ金峯山_一金剛藏王菩薩住_レ之、而彼山飛移_テ泛_テ海而來、是_ニ間金峯山_一則是彼山也、又考、日藏傳云、天竺佛生國異俄ニカケテ飛來云ミ、是ハ天竺トアレバ唐トハ難_レ詠也。童蒙抄云、金峯山ハ五臺山ノワレノ、五色ノ雲ニ乘テ來、ト李部王記ニカ、レタリ、是ニヨリ江中納言ノミタケノ御塔御願文ニ、五雲ニ乘テ飛來ト被_レ書タリ、又基俊ハ、文彥太子ノ母后ノ太子ノ傳ノモトヘヤルトテ、漢ノ惠帝ノ事ヲ思テ、商山ノ四皓ノ心ヲ詠トイハレシヲ、或人伊勢集ニ

三輪ノヤマイカニマチミン年フトモ尋ル人モアラジト思ヘバ

トヨシテ、仲平大臣ヘツカハシケル、返哥ト云ケレバ、サコソアナレトテ、モノモ不_レ被_レ申キ、カヤウノ古事ナラバ雜ノ部ヘコソイラメ、思モヨラヌ心アマリタルニヨリテコソ誹諧ニハ入タレ

丸案ニ、古事ヲステ、アラヌ事ヲヨムユヘニ誹諧ナリ、トオドシ付ラレ侍、ゲニモナガラ、江中納言ナドノ體ニカ、レタル古事ヲ可_レ拾ニアラズ、古事ヲフマヘテヨマレタレド、趣向誹諧ナリ、其體ハ、カラノ五臺山ハ日本ヘハセ飛來レリ、サレバコ、ノ吉野ハ云ニ不_レ及、此吉野ガカラニアル時ナリトモ、君ガ侍ナラバトハントヨメル心、アラヌ所ヲタタミ出タル作ヲ以、誹諧ニ入タルベシ、アル古事ヲ無理ニステ、誹諧ノ所ヘ入タ

ル、讀ニ叶ヘントシタル註ハ、近比ヲロカナルコト歟

一百千鳥

モ、チドリサヘヅル春ハモノゴトニアラタマレドモ我ゾフリ行

鶯ノ一名ト云説アレド、古今ニ、鶯ノ歌ドモノ次ニ、他題ノ哥ドモヲノセテ、後ニ此歌入、又後拾遺ニ

陸タエズサヘヅル春ノ百千鳥殘スクナキハルニヤハアラヌ

目錄ニ、鶯ノ外ニ百千鳥ノ歌一首トノセタリ。又万葉ニ

吾宿ノエノミモリハム百千鳥チドリハクレド君ハキマサヌ

梅花今盛ナリ百千鳥聲ノコホシキ春來ラシ

定家卿モ、必鶯ノ名トハオチツケ給ハズ。又貫之集ニ。百轉鳥

ミヤマニハ月モサダメヌモ、千鳥時ゾトモナク啼ワタルカナ

鶯

キデツタフ春ニモアラヌ鶯ハ谷ニノミコソナキワタリケレ

此歌二首相双テ書リ、別ノ鳥トミエタリ

一モトメツカ ヲトメヅカト云コトナリ

モトメヅカオマヘニカ、ルシバ舟ノキタゲニナレヤヨル方モナシ

大和物語ニ委、攝津ノ男、姓ハ菟原、和泉ノ男ハ姓ハ陳勢、又サ、ダノ男・ソハノ男・ウナヒ男ハツノ國ノ男ノ名ナリ、ウナヒ乙女・ウハラ乙女・アレカフ乙女一人ノ名ナリ
住ワビヌワガ身ナゲテンツノクニノイタタノ川ハ名ニコソアリケレ
万葉ニ過^{フシノ}葦原處女墓ニ時

古ノサ、ダ男ノツマドヒシ^{イタ}現會ヲトメノ奥城ゾコレ〔○以下圖書館本ニ據テ補フ〕
カ、ル事ノ昔アリケルヲ繪ニカキテ故后ノ宮ニ奉^カケレバ、伊勢御息所
カゲトノミ水ノ下ニテアヒミレバ玉ナキカラハカヒナカリケル

一モトナ

紫ノ帶ノムスブモトクモ見ズモトナヤ妹ニ戀ワタリナン

顯昭云、ヨシナト云心トミエタリ、又其心アル哥

ワキコモル〔○ギモコガカ〕エマヒマヒキノ佛ニカケツ、モトナヲモホユルカモ

タビニシテ物ヲモフトキニ時鳥モトナナ、キソ我戀マサル

サヨナカニ物ヲモフトドリ物オモフトハビヤル時ニ鳴ツ、モトナ

春サレバツマヲ求ムト鶯ノ梢ヲツタヒ鳴ツ、モトナ

或人云、モトナトハ心エナシト云事歟ト〔○以上補〕申セトモ哥ノ心ニ不レ叶

丸云、此心モトナノ説可^レ然、サレドモ常ニ云心モトナキハ、オボツカナキコトニ云ナラフニヨリ、此歌ドモノ心ニ不レ叶、「モトナト云詞ノ根本ノヲコリヲ尋ルニ、「モト」ハ心モトナリ、人ノ心ノ臟・ムネヲサスナリ、「ナ」ハ無也、氣ツカヒナル時ニモ、不審ナル時ニモ、アヤウキトキニモ、胸中サハギテ心ノ臟ナキヤウニナルヲ「モトナト」云トミエタリ、「ヨシナト」云モ叶ヤウナレドモ義アサシ、又「モトナト」云詞「ヨシナト」云ヨリヲコルベキイハレナシ、「ヨシナ」ハ註ナキ事ニ云詞ナリ、モトナヤイモニ戀ワタリナン、モ只今本心ヲ失ヤウナレバ云ニヤ、イヅレモ哥ドモ心モトノナキヤウニ心エテキケバ「心モトナキト」云註尤神妙ナリ、心モトナキト云詞ノ上略ナリ、サレド常ニ云「コ、ロモトナシト」アサノトキケバ古哥ニ不レ叶、此詞ノ根元ヲ分別シテミレバヨク叶侍

一モノ、フノヤソウチ川

武士ノ八十ウヂ川ノアジロ木ニイサヨフ浪ノ行エシラズモ 人丸

顯昭云、モノ、フトハ人ノ惣名ナリ、人ノ姓ハ多カレバ八十氏ト云ナリ、百姓ト云モ多カル數ナリ、八十八陰ノ數ノ滿ナリ、是ヲ略シテ武士トイハネド、八十氏人トモ云也、イサヨフハヤスラフナリ。奥義抄云、武士トハタケキ者トイヘドモ、只男ヲナベテ云ニコソ、「ウヂ」トイハントテ「ヤソ」トハツマタ、八十氏ノ人ナリ

思ヤレヤソ氏人ノ君ガ爲ヒトツコ、ロニイノルイノリヲ

私云、姓八十有ト定ベカラズ、只多カルヲ八十氏ト云ナリ。以上袖中抄。由阿ガ作。采葉云、物武ハ万人ニ勝

タルヲ云ナリ、八十氏事、異義マチノナリ、或モノ、フノ矢トツマクルナリ、或百官ハ政ヲタスク、武士ハ散在シテ國家ヲ守ル、モノ、數ノ極ハ九々八十一、滿數ヲ云ナリ、九条前内大臣製作ノ玉垣内風俗ニ、天武天皇吉野河ハタニ奇有ヲ御ランジテ問給ニ、我武ト申、又ハ八十氏人ト申、即召仕、子孫相續シテ其後ウヂノ川上ニヲキ給云ミ。依之家持歌ニ

吾君ノ ミコノミコト モノ、フノ 八十伴ノ雄ヲ 召アツメ イサヨヒタマヒ 朝ガリニ シ、フミヲ
コシ ユフガリニ 鳥フミタテ、云ミ

八十伴ノ雄トハ只多讓ナリ。古老傳云、崇神御宇逆徒山背ヨリ競來ル、時八十氏ト云防人ヲ宇治ノ邊ニ差遣シテ、關城ヲ固云ミ。是橋ノ小島關賊、可尋。又卿相靈客ヲモ八十氏人ト云ニヤ。古今六帖

長月ノ 九日ノ百數ノ八十氏人ノサカユテフ菊

行カヘル八十氏人ノ玉カヅラカケテゾタノム姿テフ名ヲ

又、八十氏トツカヌ哥

モノ、フノ八十乙女ヲガフミトヨム白猪ノ上ノカタカゴノ花

一モ、フネノハツルツシマ

百船ノハツルツシマノアサヂヤマシグレノ雨ニモミダヒニケリ

此哥ハ新羅使到對馬之淺茅浦時詠也

大伴ノミツノトマリニ舟ハテテ龍田ノヤマヲイツカコエナン
是ハ廻來到ニ播磨ニ作ト云

秋サラバワガ舟ハテン忘員ヨセキテヤケル沖ツ白浪

新羅使

磯ゴトニアマノツリ舟ハテニケリワガ舟ハテン磯ノシラナク

大伴卿

寫陰ニ我フネハテ、ツゲヤランツカヒヲナミヤコヒツ、ユカン

顯昭云、モモフネハ多ノ舟ナリ、ハツルハヨスルナリ、或說ニ出ルヲ云トイヘド万葉ノ哥ドモ其義ニ不叶。モミダヒニケリハ、モミヂニケリナリ

丸云、此新羅ノ使ハ皆日本人歟、異國人ナラバ和哥ヨミガタシ、又舟ハツルハ舟ヲコギハツル也、サアレバ舟ヲトドムルヲモ、ヨスルヲモ云ナリ、此中ハテシモナク漕來シ舟ヲコギハタスナリ、海士小舟、ハツセト云モ、昔彼所海ニテ、シカモ觀音ノ淨土タリシユヘニ名付トイヘド、今思フニ、舟ハテ、ト云詞ヨリ、アマノ舟ハツトハツケタルベシ、昔海ニテアリシト云說モ、此アマ小舟ト云ヨリ、作出タル事ナリ、舟ハツルハ、舟トマルト同、ハツセヲ泊瀬ト書テトマセトモ云ナリ、彼河ノ末ノ瀬百瀬アリ、其第一ノ始ノ瀬ナレバ初セト云也云々

【セ】

- 一前司 三光院殿説
 - 一折桂葉
 - 一前裁 能宣集ニ、前裁ノヘラニ侍リテ、ト云コトアリ、マヘラハハヘリ一賦
 - 一旋頭歌 能宣集ニ、カウベヲメグラスト云題アリ
 - 一セイレウテン 涼ノ字ヲフリヤウトヨマズ、レウ・ラウヲ一ツニマギラハシテヨム
 - 一是法々師 是ハツレハ草ニアル人ノ名歟
 - 一關ノ戸ヲサソヒシ人ハ出ヤラヌ有明ノ月ノサヨノ中ヤマ
- 此關ハサヨノ中ニハナシ、相坂ノ關ナリ、此哥ノ義サバク人稀ナルベシ

一セミノ小川
ミダラシノタエヌニシルシ石川ヤセミノ小河ノキヨキ流ハ
或書云、至山代國岡田之賀茂、隨山代河下坐葛河与賀茂河所會立坐見廻賀茂河、而言雖狹小然石河
清河在、仍号石川瀬見小川
丸案ニ、神話也

一先途

一芹ツミシ昔ノ人

セリツミシ昔ノ人モ我如クコ、ロニモノ、カナハザリケン
又俊頼長哥ニ

アヅマノ袖ニ宮木引、ミカキガ原ニ芹ツミシ、昔ヲ外ニキ、シカド、我身ノウヘニナリハテヌ
顯昭云、家々説多ケレド尙獻芹コソ本文アレ、文選ニ、野人有快炙背而弄芹子者欲獻之至尊是ハ
密叔与三巨源絶交書ニ引事ニシタル古事也。列子ニ云、宋ノ國ニ田父アリテ春日ニ背ヲアテ、是ヲ思出トシ
是ヲ貴人ニシラシメハ賞ニ預ントイヘバ、其妻ノ云、昔芹ヲウマシト思テ、郷黨ニ奉リシカバ、ナメテミテ、
是ハ味ナシト云シトアザミシ事也

丸案ニ、是モ俊頼ノミカキガ原ニ芹ツミシナド、云ニ不叶、又サガノ后ノコトモ信ジガタシ、タマ奥義抄ノ
説ヲ可レ用也

昔大和國ニ狂者アリキ、家ニハ山ヲツキ、池ヲホリテイミジキコトマモヲツクセリ、門守ノ子ナリケルワラハ
ノ、マウクタ丸ト云ケル有ケリ、池ノ邊ニ到テ芹ヲツミケリ、狂者ノイツキヒメ出遊ケルヲミテヨリ、此童戀
病ニナル、母アヤシミテアナガチニ問ケケドモ、アルベキコトナラネバ母モ又病ニ伏ヌ、時ニ彼家ニ立入レル
女房親子ノ死ナンコトヲアハレミ、姫君ニカタル、姫ヤスキ事也、病ヲヤメヨト云ケレバ、例ノ如ニナリス、

姫ノ云ヤウ、忍テ文カヨハサンニ、手カ、ザランハ口惜トイヘバ、童ヤガテ習ツ、我父母死ナンコト近シ、其後ハ何事モサタセサスベシ、文字シラヌハワルシ、學文スベシ、童又學文シテ、モノミアカスホドニナリス、又童ハシノンデカヨハサンニミグルシ、法師ニナレト、即法師ニ成ヌ、又云、其コト、ナキ法師ノ近付ンコトアヤシ、心經大般若ナドヨムベシ、祈セサスルヤウニシナサント云ニ、隨テヨミツ、又イサ、カ修行セヨ、護身ナドスル躰ニテ近付ベシトイヘバ出立、姫君憐テ藤ノ袴ヲトラス、片袴ヲバ自ヌヒツ、是ヲ着テ修行スルホドニ、姫君カクレニケレバ、道心ヲコシテ、尊キ聖ニテウセヌ、弟子ドモ行基ヲ請ジタルニ、禮經ニ上テ云、マウクタ丸ガ藤袴、ワレコソヌヒシ片ハカマ、ト云テカネウチテモノモイハデオリヌ、弟子アヤシミ問ケレバ、亡者智光ハ往生スベキ縁アレドモ、世間ニ貧着シテ、惡道ニユカントセシカバ、ワレ姫君トナリシ也、行基ハ文殊也、マウクタ丸ハ智光ナリ、智光頼光トテ往生シタル者ハ是也、コレハ仁海僧正ノ説也。俊成聊語云、行基ノ詞ハ哥也

マウクタガ修行ニ出シ藤バカマワレコソヌヒシソノ片ハカマ

此古事ヨク相叶侍、袖中抄ニ行基若クシテ智光ノ老僧ヲ教化セン事如何トソシレリ、愚ナル難也、智光ノ若年ニ姫ニ生レ、死テ行基ト生レ、隨終以後ノ法事ノ導師ニ成給事能叶侍ル莫レ疑

歌林樸楸第廿七畢

歌林樸楸

第廿八

【ス】

一ス、フネ 仁德三十年秋九月、皇后紀州能野ノ岬ニ遊行テ御綱葉ヲ取テカヘリ給、其間ニ天皇入田皇女ヲ宮中ニ娶給、皇后恨テ所探ノ御綱葉ヲ海ニナゲ不着岸、故ニ時ノ人散葉海ヲ葉ノ濟ト号、天皇、皇后ノ忿テ不着岸ヲシロシメサズ、大津ニ幸シテ皇后ノ御舟待テ歌曰

ナニハビト(難波人) ス、船(船船也、私記曰、以船筋ノ舟也) トラセ(謂避也、登呂志乃義也) コシ(腰也) ナヅミ(泥也) ソノフネ(其舟ナリ) トラセ(謂避也) オホミフネ(大御舟也) トレ(取也、言極速取也)

凡御哥意者、皇后御船遅シ、機櫓急速ニ可レ取由也

裏書云、フル雪ヲコシニナヅミテマイリコシ、ルシモアルカ

時ニ皇后大津ニ不泊、更ニ引テ浜ノ江 山背ヨリ廻テ向レ倭、明日天皇舍人鳥山ヲ遣シテ歌曰

ヤマシロニ(山背也) イシケ(急也、辞与曾五音通) トリヤマ(鳥山也、舍人ノ名也) イシケシケ(謂急行也、之字有由久之訓也) アカモフツマニ(我思妻ナリ、略レ於也) イソ(○シ羅)キアハンカモ(急遇ナリ)

皇后不_レ還_レ猶_レ行_レ之、至_ニ山背河_一而歌曰

ツギフネ(○ネフ_レ讀_ニ山城_一之發語也、泥者山也、兎_レ齧_レ者齧也、言山相建_レ也)(丸云、泥者山也、ト云註如何、タツツキフネハヤマヌト云ベキ爲ナリ) ヤマシロガハラ(山背河也) カハノボリ(河昇也) アガノボレマ(膳ハハ_レ歟、吾昇ナリ) カハクマニ(河隈也) タチサカユル(立榮也) モ、タラス(百不足也、欲_レ謂_ニ八十_一之發語也) ヤソマノキハ(八十木ナリ) オホキミロカモ(大君也、呂助字)

几御哥意者、以_ニ天皇_一奉_レ諭_ニ立_ニ河隈_一之木_一、召_ニ納_ニ入_ニ田皇女_一之條、如_ニ木石_一无_レ心_一之由也

翼書云、万葉モ、タラスヤソクマザカニ
丸云、ヤソマノキノ註ニ、八十木也云々、ソレニテハ「マ」ノ字心得難シ、八十隅ノ木ナルベシ、川隅毎ニアル木ニタトフル歟、又河隅ト云ニ、皇后ノシリタマハヌ時ノ心モ含_レ歟

越_ニ那羅山_一望_ニ葛城_一歌曰

ツキフネ、ヤマシロガハラ(同上) ミヤノボリ(見昇也) ワガノボレマ(我昇也) アヲニヨシ(私記曰、師説、檜ノ木之葉ノ色如_ニ青玉_一、故_ニ喻_レ言_レ之也) ナラヲユキ(過_ニ奈良_一也) ヲタテ(小橋也、言倭國ノ山、如_レ立_ニ小橋_一也) (○以下圖書館本ニテ補フ) ヤマトヲユキ(過_ニ大和_一也) ワガミガホシ(吾欲_レ見也) クニハ(國者也) カツラキ(葛城也) タカミヤ(高峯也、略稱也) ワギヘノ(吾家也) アタリ(邊也)

凡御歌意者、眺_ニ望_ニ葛城峯_一、覺_レ忍_レ舊_レ里_一(吾家是也)之由也、更_ニ還_ニ山背_一與_ニ宮室_一於_ニ簡城岡南_一而居_レ之、多_ニ十月_一的

臣祖口持臣ヲ通シテ皇后ヲ喚シム、簡城宮ニ至リテカクト申セド_レ歎_レシテ不_レ答、トキニ口持臣露雨沾ツ、日夜ヲフル、口持臣ガ妹國依姫、皇后ニ仕テ侍リ、其兄ノ雨ニ沾_レテ流_レ涕_レテ歌曰

ヤマシロノ(山背也) ツ、キノミヤニ(簡城也) モノマウス(物言也) ワガセヲ(吾兄也) ミレバ(見也) ナミダグマシモ(涙流也)

皇后國依媛ニ、何_レゾ尔_レ泣_レゾ、對テ申サク、庭ニ伏シテ_レ請_レ調_レ者ハ妾ガ兄也、コノ故ニ泣ト申ス、皇后曰、汝ガ兄ニ告テ速ニ還シメヨ、(○以上補) 吾ハツキニカヘラジ焉、口持復_ニ奏_ニ于_ニ天皇_一十一月天皇浮江幸_ニ山背_一、水ニ流_レル、桑ノ枝ヲミ給テ

ツノサハフ(角障、私記曰、昔孝靈_ノ御代、有_ニ連牛_一、欲_ニ以_レ角破_レ堤、スノ中急ニ有_ニ磐石_一、觸_レ角相_レ防_レマ、仍_レ遂_レ不_レ能_レ壞_レ也) イハ(○ノ_レア_レ稱_レヒメカ(岩姫也、喻_ニ皇后_一) オホロカニ(瞞_レケ也、加_レ与_レ介五音通) キコサヌ(不_レ聞也) ウラクハノキ(桑木也、昔指_レ桑爲_ニ宇良久羽_一、故欲_レ讀_ニ怨由_一矣) ヨルマシ(○ジ

几御哥意者、皇后嫉妬御意堅固_ニシ_一而、不_レ隨_ニ度_一々勅_レ喚_レ、如_レ障_ニ角_一磐石_一也、桑木雖_レ爲_ニ不_レ可_レ寄_レ之物_一、隨_レ水者流行、似_ニ心弱_レ之人_一貴_レ(○乎カ)、強弱相違_レ之由也

丸云、心ノツヨキヨハキニタトフルニハアルベカラズ、ウラクハノ木ハウラミナリ、天皇ノウラミツ、ヨルマジキ所へ、ヨロボヒ來ルヲヨルマシ、キ河ノクマニ、桑木ノヨルニタトヘ給心ナルベシ

明日、乘輿ニテ詣于箇城宮、喚^{マヒ}皇后、皇后不^{マヒ}參見、^{トキ}叱天皇歌曰

ツギネ赴^ツ(丸云、ツギフネ也) ヤマシロメノ(山背女也) コクハモチ(木鐸持也、加余也(〇)桁カ)、言持^ツ木鐸也) ウチシ(打也、謂^レ作^レ鳥也) オホネ(大根也) サワサワニ(左波也加余也、言^レ瀧^レ之根^レ噴^レ也、左和也加余也) サカ(内也、汝也) イエセコソ(謂家也、言^レ造^レ虚家也) ウチワタス(打直也、言^レ作^レ直鳥也) ナカハヘナス(中^ニ成也、謂^レ臨幸也、今世称^レ夜蚊^レ之^レ義也) キイリ(來入也) マイクレ(參來也、略利也)

亦哥曰

ツギフネヤマシロメノコクハモチウチシオホネ(以上同上) ネシロノシロ(根白之白也) タナムキ(手牟伎也、言^レ以^レ皇后御手^レ瀧^レ藤^レ牟介ト也) マカスケマコソ(不^レ時者古曾也、鷄助語、言^レ預^レ瀧^レ藤也、マハ磨也) シラストモ(不知也) イハメ(言也、言^レ以^レ皇后御手^レ瀧^レ藤^レ牟加牟、雖^レ爲^レ下劣^レ、彼鳥在^レ宮邊之上者、定被^レ知^レ食^レ也)

皇后ノ奏給^レフヤウハ陛下入田皇女ヲ納^レテ爲^レ妃、ソレニ嗣^レ后タランコトヲ不^レ欲^レトテ、ツキニマミエタマハズ、天皇ヲカヘシ玉フ、天皇大ニウラミ怒^レナガラ猶^レシノビ思給^レトアリ

右兩首トモニソコニアル大根ヲ題^レニシテヨミ給^レフナリ

丸云、光源氏ノ物語ハ皆^レ實^レ言^レタリトイヘドモ、下ニハ實^レヲフマヘテカクトイヘリ、サレバ桐壺帝ハ醍醐天皇。

源氏君ハ西宮左府ナド、云ナラハス上ハ、彼物語ニアル男女トモニ、シカトシタルハイヅレモソレノニアテテ習ベシ、然^レドモ末代才智少ク、上古ノ書モ多ウセ、心ヲ付テミイダサント思フ人モ稀ナルニヨリテ、シレスコトノミ、サルニヨリ、深キ所モタマ淺キトオモハル、遺恨ノ事也ト思フニツケテ、フト思ヨリ侍ル、此皇^レ后ノネタミノフカキヲ以、六条ノ御息所ヲ書タルベシ、莊子ガ寓言モ、ウラニ世ノ道理ヲ實ニカキタルニ、紫式部ハ世ノ道理ノ外ニ、カヤウノ證據ヲフマヘ、猶^レ其上ニ佛法ヲコメタリ、日本無^レ双ノ書ヤウナリ、マコトニ^レ翻^レ音ノ御惠光ヲソヘラレタルモノナラシ

一スサタキン 朱雀院

一ストリ 洲ノ鳥也、非^レ栖

一スカ鳥 飛田ノ細江ニヨメリ

一雀聲 小聲也、貝ニモスマメ貝トテアリ

一鈴舟 公家ハ御アリキノ時、御路鈴ヲ持給也、行平酒磨ヘ下向ノ時

ス、舟ヲヨセクル波ニ露テスマノ上野ニ雉子ナクナリ

ツノクニノスマノセキモリイデ、見ヨムマヤツタヒノ鈴キコユナリ

一還ト云題ニテ 定家卿

マネクトモ草ノ袂ノカヒモアラジトハレヌ里ノフルキ離ハ

花薄ハ、穂ノ白ヲ云、尾花同、草ノ袂ナドモ同、シノ薄ハシノ、ヤウ也、一説マダホニイデヌヲ云

鶉ナクヲザ、ガ原ノシノズ、キタレヲウシトカホニ出ザラン

ツキニハ穂ニイヅレドモ、ホニイデヌ間ヲ忍心ニカリテ、哥ニヨムナリ、シノ薄ト云アリテ、穂ニ不_レ出トオモフハワルシ、タマシノ薄ト云薄ノアルヲ、忍心ニトリ用バカリナリ、篠ニ似タル薄ト云説尤ナレドモ、サ、ノ葉ノヤウニ短葉ノ薄モアリガタシ、_「シノ_」トハ、シゲキ薄ト云義ナルベシ、糸薄ハ細ヲ云、キリフノ薄ハフヲ切タルヲ云也、キリウフノ薄トモ云、俗ニ鷹フ薄ト云也、マスヲハ、十寸緒也、穂ノ長ヲ云、_「マスヲ_」ハ麻羽ト云、穂黄色ニ在也、マスホハ、ホノイロウス紫ナリ

右之説ハ鴨長明ガ無明抄ノ説ニ相違ナリ、爲_「覺悟_」載之、只登蓮ガ説ヲ可用。カリフノ薄ハ、カリタル跡ニ生タル薄也

一スハヤリ 是ハ額朝ノ哥ニ、人ノ送ル_「鮎_」ノ楚割ト云コトナリ、_「ソ_」ト_「ス_」ト五音同ケレバ、_「ソ_」ワリト云コトヲヨメリ、東鑑ニアリ

マチエタル人ノナサケモス_「キリ_」ノワリナクミユルコ、ロザシカナ 額朝

「スハ」ノ二字ハ_「ソ_」ト云ヒマキナリ、タトヘ_「バ_」ケ_「レ_」ノカンナヲ_「ク_」エ_「ト_」カクニ同

一スハノ明神ノ事 信乃ノ諏方ノ明神ノ、一宮ト申女神ノ許へ、十二月ノ晦夜カヨヒ給チカヒトテコソハ、スハノ海ハ氷テ旅人モ歩ワタリシ侍レ、晦夜神ワタリ給シルシ、氷ノ上ニミエテ、春立朝ニ氷ハトクトイヘリ

右袖中抄ニミエタリ、又神ノ渡リテトクルト云、哥ニテミレバ、春立朝氷ノトクト云ハ相違歟

一スカルナル野

春サレバスガルナル野ノ時鳥ホト_「イカマアハズ_」キニケリ

顯昭云、酢輕成野ト云、草ノスノカレテカロクナル野ト云歟、草ノスハ塞ナリ、万葉ニコシボソノ酢輕キ妹ナドヨメリ、スグロノ薄ト云モ、薄ノヤケテ、スノクロキヲ云ガ如シ、但是ハ末ノクロキヲ云ト云義アリ、又古今ニ

スガルナク秋ノ萩原立テタビ行人ヲイツトカマタン

諸抄ニ、コレハ鹿ヲ云、或若鹿トモ云、其中奥義抄ニハサソリト云虫ナリ、万葉ニ春ナレバスガルナルノ、云々、今案ニ、日本紀ニスガルト云人ノ名アリ、文字ハ_「經_」ト書、_「蟬_」サソリ・サ、リ・スガル、或説アヅマニハ蟬ヲスガルト云、蟬・サソリ同物也、然テサソリヲモ、鹿ヲモ共ニスガルト云詞ニ付テ、スガルナルノヘト云、万葉ノ歌ヲ、サソリト奥義抄ニ_「蟬_」タルハ如何

丸案ニ、顯昭ノ、草ノスノカレタルニモアルベカラズ、春サレノ歌ノハ、郭公ノ身ノカルキナルベシ、古今ノスガルナクハ鹿ナリ、シカハ身ガルキモノナリ、奥義抄ノサソリ蟬ノ説不_レ可用歟、万葉ニコシノ細キ美女ヲ、コシボソノスガルキ妹トヨメバ、蟬モ腰ホソケレバ、蟬ヲスガルト東國ニ云モ尤ナレド、万葉ノスガルナル野ヲ、蟬トイハンハ、無下ノコトナリ、又薄トモ草トモナクテ、スガルナル野トバカリアルヲ、スノカレテ

クロキト云ベキヤウナシ、今モ人ノ詞ニスガルキ・スモノカクリ・スハナシ、ナド云如ク、カルキコトヲスガ
ルナル野ベノ時鳥ト心エ侍ベシ、スガルノ詞ヲ、野ヘハカクベカラズ、時鳥ニカクベシ、時鳥モ身ノカルキ鳥
也

スカハラヤ伏見

イザコ、ニ我世ハヘナンスガハラヤ伏見ノサトノアレマクモオシ

顯昭云、古今ヨミ人シラズ也、陸縁ト云僧ノ、伏見仙人ガ哥トイヘド無證、惠心僧部ノ物語ノ中ニ、伏見舞ト
云モノアレド、此哥作トハミエズ、菅原ノ伏見ハ大和也、後撰ニ

スガハラヤ伏見ノクレニミワタセバカスミニマヨフヲハツセノ山

奥義抄ニ、安康天皇崩、菅原伏見野ニ葬、此所也

丸或古今傳授之本ヲミルニ、此哥天照太神ノ御哥、ト秘事ガマシクアリ、博學ノ顯昭スラ如レ此書ヲカル、上
ハ、何ノ證據ナキコト、知ベシ、カヤウノコトヲ心エテ、末生儲ナル無證説ヲ信事ナカレ、又菅原院ニアリケ
ル人ニ

菅ハラヤフシミノ里ノアレシヨリカヨヒシ人ノアトモタエニキ

是ハ菅原ト云ニ付テ、伏見トヨミソヘタル也

一 スミノ江ノヲツラヒ

住江ノヲ集樂ニイデ、ウツ、ニモヲノガメスラヲ鏡トミツル

顯昭云、キナカノモノ、アツマリテ遊ヲ小集樂ト云、住ヨシニハ年毎ニ、濱ニ出デヲツラヒトテ、アソブコト
アリ、昔アヤシキ男、里人ノ多中ニ、メニツク女ノアルヲミテヨメルトナン。万葉、首 鄙人姓名未詳也、
于時郷里ノ男女衆、野遊、是會集之中有鄙人夫婦、其婦容端正、秀於衆、乃彼鄙人之意、欲増愛妻之
情、而作此言、讚嘆美良也

丸、右ノコトガキナレバ、此哥ノ作者ヲガ婦ノ人ニスグレタルヲホメテヨメルトキコエタリ、目ニツク女ノア
ルト云ハワルシ

一 末ノ松山 在奥州

君ヲ、キテ他シゴ、ロヲワガモタバ末ノ松山浪モコエナン

坤元儀ニハ、末ノ松山・中ノ松山・モトノ松山トテ三重ニアリ、又或本ニハ末ノ松・中ノ松・モトノ松トモ、
サレバニヤタマ末ノ松ト讀リ

コエニケル浪ヲバシラデ末ノマツ千代マデトノミ思ヒケルカナ

或ハ只松ヤマトモ

マツヤマニツラキナガラモナミコサンコトハサスガニカナシキモノヲ

昔男、女ニアヒテ、末ノマツヤマヲサシテ、アノ山ニ浪越ントキゾコトゴ、ロハアルベキ、トチカヒタル、彼

山ハ遠ミレバ山ヨリアナタニ、海ノ浪ノ山ヨリ上ニミユル、マコトノ浪ノコユベキ由ヲ誓ヘルナリ、アダシハ異字也。心カハリケル女ニ人ニカハリテ、 元輔

契キナカタミニ袖ヲシボリツ、末ノ松山浪コジサトハ

兼道朝臣ノカレガタニナリテ、年越テトブラヒテ侍ケレバ、元平親王ノムスメ

アラ玉ノ年モコエヌル松ヤマノ浪ノコ、ロハイカナルラン

又男女ナラネドモ、古今ニ

浦近クフリケル雪ハ白浪ノ末ノマツヤマコスカトソミル

又金葉ニ 匡房

イカニセン末ノマツヤマ浪コサバ嶺ノ初雪キエモコソスレ

又弘徽殿ノ女御ノ哥合、祝歌ニ、金葉ニ入

君ガ代ハ末ノマツヤマハルトコス白浪ノカズモシラレズ

義忠判云、哥ノ姿イトヲカシクシテ、敷嶋ノヤマト哥トハミエ侍レド、男女ノ中イカニゾヤ、ウラミ哥トオボエテ、祝ノ方ニハ開ズ侍ハ、是モカレモワタツウミノ方ニタカセ舟ノ、サシテマサレリトモ申難シ、又八条相國海橋立亭歌合ニ

櫻 左 徳大寺左府

花ザカリ末ノマツヤマ風フケバウス紅ノナミゾ立ケル

判者顯季卿云、此哥コソ思タマヘアツカヒワ(○ニ補)タレ、マヂカキ櫻咲所ハ、昔モ今モアマタヨミ來ル所ヲサシスグシ、花モヨミコヌ末ノ松山ト思カケラレ侍ラズ、ムネト又松ノ花トミエタリ、ウス紅ト云コトハ、ソノカミヨミタリシ後ヨリ、今ハヨミ侍ラズ、カタム思カケラレズ

一 スクロノ薄

アハツノ、スグロノス、キツノクホバ多立ナツム駒ゾイバ(○ニ補)ル

童蒙抄云、此歌ヨミタリケル時ハ、カゲノヤウナルモノ、隠シテ云ケルハ、素性法師也、此ヨミタマヘル哥イミジクタノモシク思フスデナレバ、メヅル心ニタヘズナン、マウデ來トゾ云ケル。顯昭云、此歌ハ、木幡僧正靜圓ノ哥也、此人ハ大貳殿小式部内侍ノ子ナレバ、イミジキ好士也、スグロノ薄ト云コトモ、和泉式部ガ孫ナレバ習傳ヘテヨマレケルニヤ、興アル事ナリ、スグロノ薄ト云ハヤケノ、薄末黒キナリ、「エ」モジヲ略シテ「スグロ」ト云ナリ。万葉ニ

春山ノ關ノ乎爲黒ニワカナツムイモガシラヒモミラクトモシモ

是ヲトリテ 基俊

春ヤマノ關ノヲスグロカキワケテツメルワカナニアハ雪ゾフル

万葉註云、關ノヲスグロトハ所ノ名也、今云、春山ノ關ノト云マデコソ、所ニテハアルベキ、ヲスグロトハ末

ノクロキ草ヲ云ベキナメリ、萩トモ・薄トモ・草トモイハデ、只スグロトイハンコト心エネド、万葉ノ哥ハサノミコソ侍レ、ハダレ雪ヲモコハタレト云、サマレ石ヲモコサマレトヨメリ、カキワケテ若菜ツムトヨムゾ、オリマダシケレド、ヤケノ、草ノ、末黒キヲカキワケベキニコソ

ケフヨリハ萩ノヤケハラカキワケテワカナツミニト誰ヲサソハン
或説、薄ノフルキクキヲバツスト云、クキノヤケテ黒ヨリツノクム也

丸云、此説可然、末ノ黒キト云義アシ、ヤケノ、草トテ萌出タル若菜ノ、末クロカルベキ故ナシ

歌林樸樾第廿八卷畢

歌林樸樾二十八卷爲十四策矣 逍遊軒貞徳所撰述者也

右全篇以貞徳老翁之直筆爲元本書寫之畢

略居

久乎乎モ在ノ由多クノ リノウラコ

之 空石をこまきるるは草の富金也

逸齋中野如純

トテ

クモノシカラミ 雲梯 六帖ニ大井川雲ノシガラミトヨメリ

クイコ 兼門 ヨステ人也

クサノイト 草織 詩ナド作ル

クサノイトニヌク白玉ト見ヘツルハ秋ノムスベル露ニゾ有ケル

クサハナキ 狸 草稍置ニヤ、稍置ハ縣ノ長ナドヲ云也

クチノハナ 口花 文章ヲ云

草ムシロ 草筵 法師ノ敷物ト注

丸思ラク、此註ノゴトクナラバ尺教ノ詞成ベシ、此草ハ藥ナルベシ、草座ト云事ニハ侍ラズヤ、又通哥ナドニハ只筵ノヤウニノベタル草ヲ「草筵」トイヘリ

軍枕 山野 旅宿ニカギルト思フベカラズ

クニスミカ 國栖國標 吉野クス人ヲ云歟、古哥ニ、クニスミカワカナツムランシメノ、ニトヨメル機野ハ近江ト山城ニアリ、大和ニハアラズ、此國栖正月ニ内裏ニマイルレル其時シメ野ニ出テ、若菜ヲコソツミ侍ルラメ、江劔ノ都ハ天智ノ御時ナレバ、國栖ハイマダマイルベカラズ、天武ヨリ國栖ハマイリソメタリ、然ハ此京ノ内裏ヘマイリテ、其時シメ野ヘ立イデ侍ル歟、七野社ノ邊ニ標野ト云野有ト云々、クスノマイルリソメタル事、日本紀ニハ應神天皇十九年ニマイルトアリ、但中絶テ又天武ノ比マイルニヤ、但天武ニ始ルトハ俗説、天

武ハ大和國飛鳥清見原ニ都シ玉フナリ

クシミタマ 石ノ名也

クモカクレ 月ノ雲ニ隠ル、ニタトヘテ、月トイハネドモ人ノ死スル事ニナル也

哥ニヨリテ死スル事ニハ限ラサレドモ源氏ノ巻ノ名ヨリ、イマノ數コト葉ニヲノヅカラ成ケレバ、哀傷ノ哥ナラデハ其詞ヲヨムベカラズ

トマメ得ヌイノチニシアレバ數妙ノ家ヨリ出テ雲ガクレニキ

天平七年新羅國ヨリ理顯トイフ尼仁德ヲ感ジ朝ニ來レルガ、病死スル事ヲカナシビテ、坂上郎女ガヨメル也、雲隱ハ死スルヲ云、源氏ノ心ハ遁世ヲ云、

丸云、此源氏ノ心ノ註不可用、別ニ御傳有

クハノエヒラ

山里ハ兼ノエビラニスム月ノカリニモマユノスソハ見ヘツ、

露飼ニ落ナドヲ編テ、ソレニヲサテカフヲエビラト云

クモテ

懸セジトナレルミカハノ八橋ノクモデニ物ヲヲモフコロ哉

蜘蛛手也、蛛ハ手ノ八數アルニヨリテ八橋ノ蜘蛛手トハツマケシ也、又八橋ナクテ蜘蛛手ト詠ル哥

夕部補足

浪なみクテル松ノ下枝ヲ蜘蛛ニテ露ワタレル天ノ橋立 俊頼
クモノミヲ

天ノ川雲ノミヲニテ早ケレバヒカリトゞメズ月ゾナカル、
雲水尾トハ水ノハヤキ所ヲ水尾トイヘバ、ソレニタトヘテ、雲ノハヤキヲ雲ノミヲト云歟
九品ノ哥 九品上 四条大納言撰

上品上 是ハ詞妙ニシテ餘リノ心サヘアル也
春タツトイフバカリニヤミヨシ野、山モ霞テ今朝ハ見ユラン
ホノくト明石ノ浦ノ朝霧ニ鶴ガタレ行舟ヲシゾオモフ

上品中

深山ニハアラレフルラシ外山ナルマサキノカヅラ色付ニケリ
相坂ノ鬮ノ清水ニカゲ見ヘテ今ヤヒク覺望月ノ駒

上品下

世ノ中ニ絶テ櫻ノナカリセバ春ノ心ハノドケカラマシ
望月ノ駒曳ワタス音スナリ勢多ノ中道橋モトゞロニ
中品上 心詞ト、ノホラズシテヲモシロキ也

立トマリミテヲワクラン紅葉ゞハ雨トフルトモ水ハマサラジ
遠方ニ萩刈ヲノコ欄ヲナミネルヤネリソノクダケテノ思フ

中品中 スグレタル事モナク、ワロキ所モナクテ有ベルサマヲシレ〔〇ルナリ歟カ〕
春キヌト人ハイヘドモ鶯ノナカ又限リハアラジトゾ思フ
イニシ年ネコジテウヘシ我宿ノワカ木ノ梅ハ花咲ニケリ

中品下 スコシヲモヒタルトコロ有也

キノフコソサナヘトリシカイツノ間ニイナバソヨギテ秋風ゾフク
我ヲトフ人ヲ、モハ又鞆ニヤワガ思フ人ノ我ヲ思ハヌ

下品上 ワヅカニ一フシ有カ也

吹カラニ秋ノ草木ノシホルレバムベ山風ヲ嵐トイフラン
アラシホノ潮ノハル〔〇ミツノ潮カ〕アヒニヤク塩ノカラクモワレハ老ニケル哉
下品中 〔〇ことのことろ、むげにしらぬにもあらず歟カ〕

今ヨリハ植テダニ見ジ花薄穂ニ出ル秋ハ佗シカリケル
我駒ハハヤ、引〔〇ク行カ〕コセマツテ山待ラン妹ヲ行テモ〔〇ハカ〕ヤミシ
下品下 〔〇ことばとゞこほりて、おかしき所なきなり歟カ〕

世ノ中ノウキ度毎ニ我(○衍カ)身ヲ投バヒトヒニ千度我ヤシニケン
アツサ弓ヒキミヒカズミコズバコソハナゾコズバコハイカニ

鷲子 元日ニマイルトソ白散ノ事也、世ニシレル事ナレバ記ニ不レ及、天子清涼殿ニテキコシメス
クキラ ホト、ギスノ梵語也

クハセ 爲倉 鷹ノ鳥ヲ取タル時、ソノ鳥ノ肝ヲ鷹ニ食スルヲ云、小鷹ハ頭ヲクハスル也、大鷹ニハ何鳥
ニテモ肝ヲ食スル也、其肝ニカハリメ有、鷓ハ右ノ腋ヲサキ、雄ハ左ノ脇ヲ割テ肝ヲ取出シテ鷹ニクハスルヲ
云、鳥トハ大方雉ヲ云

クヒナトヒ 水鷄飛 草頭ノタカサニ飛入テ、ヤガテヲホクスコシツツトビテ行ヲクキナトビト云、水
鷄ト云鳥ノトビヤウニ似タレバ也、是モ鷹ノ事ヲ云ノ章ニヤ

クモノソテ 雲袖 雲ノカサナル事也
クツノナリイタ 杵鳴板 内裏御縁ノ板也

クガタチ 探湯 アマカ、ノヲカノクガタチキヨケレバト盜人ノ實否ヲシランタメニ湯起請ト云事ニ云、
昔盜人ヲセムトテ、湯ニテ手ヲ入サセケル事ヲ詠、アマカ、ハ所ノ名也、クガタチハ盜人ノ事也ト俊賴抄ニ有
丸云神功皇后ノ御時、イヤシキ者等神ノ子孫ト云ヲタマサントテ、鍋湯ヲワカシテ手ヲ入サセ玉ヒシ事也、是
我朝湯起請ノハジメト云

日本紀 應神天皇十年ニ甘美内宿禰ガ武内宿禰ヲ讒言スルヲアリ、其實否ヲ正サントテ磯城川濱ニテクガタチ
シ、武内罪ナクテ勝レタリ、其後允恭天皇四年姓ヲ僞ル者ヲタマサント羣師百寮メシツレ味糠丘云辭禍戸碑ニ
シテクガタチアリシナリ

日本紀ニハ「アマカシノヲカノコトノマガトノサキ」トアリ、爰ニハアマカ、ミト云、神功皇后ノ御時ニクガタ
チハ日本紀ニナシ、不審

クチノハ 口 タマクチノ事也

クモツ、ミ 雲鼓 鳴神ノ異名也

クモ待出シホト 雨ハレルハト云心也、文ノ詞也

丸云雨フルウチハ、ソラフタガツテウゴカヌ故ニ雲ノアヤ見ヘヌモノ也

クツハムシ 鞍馬山ニヨメリ 又相坂山駒迎ニ

鳴ナルハ相坂山ノクツハ虫駒ムカヘスト人ヤ聞ラン 師時

クモノカケハシ 雲棧・雲梯、禁中ニ詠、又只モヨム、魯殺ガ古事史記ニ出

クシタカハ 櫛田川 齋宮ノ御前ニ有川也

クロトノハシ 黒戸櫛、禁中也、又クロトノハシノモトノサウビ、ケシキ斗咲テトハ階底蓋敷入レ夏開ト

云心也、「クロト」ハ仁和帝ニハジマレリ、此帝ノ御子ニヲハシマシ、時(五十一歳御即位)アソバシナレタルマ

サナゴトヲ遊バシ、御殿ノ名也、マサナゴトハ今ノ料理調味ナドノ事也、火ヲ燒玉ヒシニ、フスボリタレバク
ロ戸トハイフ也、光孝天皇ヲ仁和帝トモ小松帝_{氏申}

クハヤ クハヤトテトハ「サソ」ト云心、又サラバトテト云詞也

クレ竹ノニホヒ 吳竹_曰 源氏ニ「クレタケノワザトナク風ニコボレタルニホヒ」ト有、麝香ニアラズ、物

ノ色ニ付テ曰トイヘリ、竹ニモ有ルベシ

クシロ 狐 女房ノテニヌキタキモリテシタル物ヲイヘリ、女ノ指腕ナドヲ太クナサジトテ昔ハカネノ輪

ヲ入タリトイヘリ、礼記ニ見エタリ、但ムスヒヲ_コ、モノナリト註、此注ニハ相違

クサク 種ニ 草也

古今ノ序ニモ有、中臣_後ニハ雜ノ一字ヲ「クサク」トヨメリ

クマ_くシク 曲ニ_凡、隈ニ_凡書 ヲボツカナキナド云也

クチ 俱知_(日本紀) 鷹ヲ云也、屏風ノ繪山里ニ人々ナガメテキタルニ、野ニ鷹狩スル處ヲ

キマス鳴カタ野ニ君ガクチスヘテアサフマランイザ行テミン 俊頼

顯昭云、スタ所ノ名也、若ハ葦田交野ヲ書遠タルニヤ、「俱知」ハ鷹ノ名、日本紀ニ有、アサフマスハ、朝ニ野

ヲ踏スルナリ、万葉ニ

タマキハル内ノ大野ニ駒ナベテアサフマランソノ草フケノ

紫野御狩ハユラシマジロナルクチノハカヒニ雪チロホヒテ 俊頼

野行幸ヲヨメル、顯昭初句ハ紫野也、「ユラシ」ハ「シ」ハシト也、サレド此哥ニテハホムル詞ト聞エタリ、玲瓏

ヲ「タマモユラニ」トヨメリ、万葉ニ鷹狩ヲヨムニ、少翁モユラニトモ、翁モユラニトモヨメリ

丸云、「マシロ」ハ白鷹ト云ニハアラズ、眉白ト書也、「シ」モジ濁ベシ

クロトノクキナ

タレシカモクキナナカテハタ、クベキクロトノミトノヒマシラムマテ

曉水鶏ヲヨメル、顯昭云。黒戸_{萩戸}清涼殿ニ有

丸云、水鶏ハ邊土ナラデハ有マジキヤウニ人ノ存ズルニ、禁裏ニヨメリ、依_レ爲_ニ覺悟_ニ書_之畢

クサトルタカ

ユフ間グレハネモツカレニタツ鳥ヲクサトル鷹ニ任セテゾミル

顯昭云、ツカレトハ雉ノ一度タチテ居ルヨリ後ヲバ渡ト云也、タチテ飛渡ヌル心也、サレバ_レニタツ鳥トハタ

チテキタルカ、又タツヲ云也、サテ「ツカレト」ハ云也、草取トハ草中ニテ雉ヲ云也、空ニトルハ空取ト云

丸云、取ノ「ト」文字濁ルベシ

タレハトリ ハトリトハ、ハタヲリ也_{タラ}反ト

クキヌキ

守人モマタ絶ナクニ河口ノ關ノクキヌキ早朽ニケリ

關ノ釘貫ハ貫ノ木也、河口ノ關三河也、一説北國、催馬樂ニ、川口ノ關ノアシガキトモヨメリ

クレナハナケ

イサケフハ春ノ山邊ニマヅリナンクレナバナケノ花ノカゲカハ

定家卿曰、クレナバナケトハ暮ヌトモナカルベキ花ノ陰カハ、夜モ花ニ交リテ寝ナントヨメリ

丸云、イサノニサレモジ濁、ナケレノケレモジ清ベシ

クモノハタテ

夕暮ノクモノハタテニ物ゾ思フ天津空ナル君ヲコフトテ

雲ノ旗手トハ、日ノ入ヌル山ニ、ヒカリスラノトタチノボルヤウニミユル雲ノ、簾ノ手ニモ似タルヲ云也、

又蜘蛛ノヨシニ書タル物モアレド、天津空ナルナドヨメル哥、雲ナラデハウタガフベキナシ、重之蜘蛛トヨミタ

ルモ、雲ノ旗手ナレバ、蛛ニソヘヨマン事ナカルベキ事ニアラズ。蜘蛛ノ機手、是ハ巢ヲ作ル事ナルベシ、

是又一理アル歟、衣通姫ノ御事ヲ思ヒアハセタル御方ノヲホシメシヨルナラバ、天津空ノ君ノ御事ニ付テヨマ

セナクハアリシ、又「ハタテ」トモイフベキ歟、是ハ隔也、「ハ」ト「ヘ」ト五音通也、物ヲワカツヲ「ハタツル」ト

ナン云ニヤ

〔〇以上帝國圖書館本夕部の全部〕

日本古典全集既刊書目總覽 (洋數字ハ全冊册數。無記入ハ他巻併綴。*ハ古典文庫編入ノ印。(符)ハ校訂全集。(西)ハ西鶴全集ノ略符。

【第一期刊行書目】

* 破掘字子		* 拾遺和歌集・附公任集 1	* 出雲風土記 1
* 懸偽錄		蜻蛉日記	* 常陸風土記 1
好色五人女(西) 1		更級日記	* 播磨風土記
本朝廿不孝(西)		* 清少納言(枕草紙)家集 1	* 豊後風土記
男色大鑑(西)	1	* 紫式部日記・附家集	* 肥前風土記
懷硯(西)		和泉式部全集 1	萬葉集*略解 8
武道傳來記(西)	1	* 唐物語	懷風藻 1
武家義理物語(西)	1	* 偶瀾(信西古樂瀾)	凌雲集
* 好色盛衰記(西)	1	教訓抄 2	文華秀麗集
* 一目玉鉢(西)		* 保元物語 1	* 校本日本靈異記(符) 1
* 西鶴置土産(西)	1	* 平治物語	經國集
西鶴織留(西)		* 宇治拾遺物語 1	本草和名 2
萬の文反古(西)			* 御堂關白記・附歌集 2
名残の友(西)			本朝靈藻
參考讀史餘論	1		源氏物語 5
* 賀茂真淵集	1		榮華物語 3
與謝蕪村集	1		平家物語 2
江漢西游日記	1		* 吾妻鏡 8
* 本朝度量權衡攷(符)	2		* 曾我物語 1
* 錢幣考遺(符)			法然上人集 1
* 錢幣考遺圖錄(符)	1		易林本節用集 1
日本現在書目證注(符)	1		* 好色一代男(西) 1
説文檢字篇(符)	1		好色二代男(西) 1
文教温故批考(符)			* 西鶴諸國咄(西) 1
* 上宮聖德法王帝説(符)			近代謎隠者(西)
古京遺文(符)	1		好色一代女(西) 1
* 萬葉集品物圖繪	2		日本永代藏(西)
【第三期刊行書目】			新可笑記(西)
日本書紀	4		本朝櫻陰比事(西) 1
伊勢物語	1		世間胸算用(西)
うつほ物語	5		俗つれづれ(西)
後拾遺和歌集	1		芭蕉全集 2
金葉和歌集	1		* 玉かつま 2
詞花和歌集			日本靈異記攷證(符) 1
千載和歌集	1		京游筆記(符)
新古今和歌集	1		轉注説(符) 1
古今著聞集	2		扶桑略記校訂(符)
伊呂波字類抄	8		每條千金(符)
人倫訓蒙圖彙	1		大隈言道全集 2
古押韻	2		【第二期刊行書目】
五畿内志	3		* 古事記 1
物類品隨	1		* 探綴諸國風土記 1
雲根志	2		* 竹取物語 1
近世崎人傳(正續)	?		古今和歌集・附教長注 1
* 重訂本草綱目啓蒙	4		土佐日記 1
假宇遺奥山路	2		* 大和物語
* 歌舞妓年代記	3		* 住吉物語
歌儷品目	2		後撰和歌集 1
* 埋麝致香	1		* 片假名本後撰集
* 觀古雜帖・附忠友歌集			* 延喜式 7
綴夷日誌集	3		

歌林樓 楸

【非賣品】

昭和六年八月十八日印刷
昭和六年八月廿八日發行

編輯者 正宗敦夫
發行所 東京府北區長崎町一六二 日本古典全集刊行會
印刷所 東京府北區長崎町一六二 不二製版印刷所
裝幀者 廣川高松 五清 郎吉
發行所 東京府北區長崎町一六二 日本古典全集刊行會

一冊 (ハク)

終